

官報

號外

大正十一年三月十四日 火曜日

印刷局

第四十五回 衆議院議事速記録第二十八號

大正十一年三月十三日(月曜日)午後一時十八分開議

議事日程 第二十七號 大正十一年三月十三日

午後一時開議

第一 司法事務共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 裁判所構成法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第五 陪審法案(政府提出) 第一讀會

第六 宇岩鐵道敷設ニ關スル建議案(植竹龍三郎君外三名提出)

第七 地租過納金下付ニ關スル建議案(日野辰次君外八名提出)

第八 官幣大社伊弉諾神社ヲ伊弉諾神社ト改稱並同神社境内整理擴張費國庫補助ニ關スル建議案(木下基三郎君提出)

第九 教育ノ實質改善ニ關スル建議案(小橋藻三衛君提出)

第十 阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案(八田宗吉君外五名提出)

第十一 新舊文官恩給並遺族扶助料不權衡更正ニ關スル建議案(河上哲太君外四名提出)

第十二 「ローマ」字普及ニ關スル建議案(松本君平君外七名提出)

第十三 日足鐵道速成ニ關スル建議案(松岡俊三君提出)

第十四 (特別報告第百六十一號)壽都漁港修築ノ請願 (委員長報告)

第十五 (特別報告第百六十二號)利根川架橋速成ノ請願 (委員長報告)

第十六 (特別報告第百六十三號)按摩術ヲ盲人ノ專業ト爲スノ請願 (委員長報告)

第十七 (特別報告第百六十四號)森林法第二十八條改正ノ請願 (委員長報告)

第十八 (特別報告第百六十五號)部落有林野管理ニ關スル請願 (委員長報告)

第十九 (特別報告第百六十六號)樺太漁場損害賠償ノ請願 (委員長報告)

第二十 (特別報告第百六十八號)軍人恩給法改正ニ關スル請願外四十八件 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第百六十九號)軍人恩給法改正ノ請願外二件 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第百七十號)屯田兵喇叭吹卒若ハ其遺族ニ土地給與ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第百七十二號)互理逢隈郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第百七十三號)高志村ニ電信事務取扱無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十五 (特別報告第百七十四號)松茂村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十六 (特別報告第百七十五號)雲城村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十七 (特別報告第百七十六號)三好村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第百七十七號)穴吹郵便局ニ電話事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第百七十八號)平群村大字信貴畑小字信貴山ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第百七十九號)内之浦村大字岸良ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第百八十號)柏原郵便局ニ電信並集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十二 (特別報告第百八十一號)小貝村字續谷ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十三 (特別報告第百八十二號)吉田村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十四 (特別報告第百八十三號)與浦村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十五 (特別報告第百八十四號)千年郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十六 (特別報告第百八十五號)荻町ニ郵便局新設ノ請願 (委員長報告)

第三十七 (特別報告第百八十六號)美濃波多村大字新田ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十八 (特別報告第百八十七號)神湊郵便局ニ電話架設ノ請願 (委員長報告)

第三十九 (特別報告第百八十八號)鹿屋、鹿兒島間直通電話架設ニ關スル請願 (委員長報告)

第四十 (特別報告第百八十九號)中村郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十一 (特別報告第百九十號)川東村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十二 (特別報告第百九十一號)川西村下久田ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十三 (特別報告第百九十二號)中湧別郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十四 (特別報告第百九十三號)錦生村大字安部田ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十五 (特別報告第百九十四號)岡郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十六 (特別報告第百九十五號)濱口郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十七 (特別報告第百九十六號)佐那河内郵便局ニ電信架設ノ請願 (委員長報告)

第四十八

(特別報告第九十七號)七取村ニ
電話交換局設置ノ請願(委員長報告)

第四十九

(特別報告第九十八號)大野郵便
局ニ集配事務開始ノ請願(委員長報告)

第五十

(特別報告第九十九號)鹽津郵便
局ニ電信、電話架設ノ請願
(委員長報告)

第五十一

(特別報告第二百號)世知原村ニ登
記所設置ノ請願
(委員長報告)

○副議長(粕谷義三君) 與議長病氣ノ爲闕席セラレマ
シタカラ代理ヲ致シマス—諸般ノ報告ヲ致サセマス
(原田書記官朗讀)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
裁判所構成法中改正法律案
(以上三月十一日提出)

健康保險法案
(以上三月十一日提出)

簡易生命保險法中改正法律案
(以上三月十三日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
陪審法案ニ對スル修正案
提出者 板野 友造君
(以上三月十一日提出)

寺泊築港ニ關スル建議案
提出者 高橋金治郎君
木村清三郎君

丸山嵯峨一郎君
乃木神社昇格ニ關スル建議案
提出者 植竹龍三郎君
石川 玄三君

松岡 俊三君
友常毅三郎君
御殿場大宮間及吉田大月間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 岩崎 勳君
三枝彦太郎君

熱海下田松崎大仁間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 小泉策太郎君
岩崎 勳君

狩野川改修ニ關スル建議案
提出者 岩崎 勳君
小泉策太郎君

日本銀行及特殊銀行條例中改正ニ關スル建議案
提出者 星島 二郎君
(以上三月十一日提出)

都市計畫促進ニ關スル建議案
提出者 河上 哲太君
鳩山 一郎君

山口 義一君
第六回内閣博覽會開催ニ關スル建議案
提出者 加藤重三郎君
下出 民義君

三輪市太郎君
齋藤鷲太郎君
吉原祐太郎君
加藤紋右衛門君
工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法改正
ニ關スル建議案

提出者 植場 平君
岩崎幸治郎君
赤田 瑳一君
山口 義一君
(以上三月十三日提出)

福井 甚三君
八木 逸郎君
井坂 豐光君
樋口伊之助君

本田 恆之君
森田 茂君
西村丹治郎君
押川 方義君

決議案(内閣不信任ノ件)
提出者 安達 謙藏君
小泉又次郎君
小山 松壽君
高柳覺太郎君
山邑太三郎君
(以上三月十一日提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載
ス〕

一去年十一月議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
臺灣私設鐵道補助法案
坂本素魯哉君 友常毅三郎君 玉置 良直君
國重 政亮君 野口忠太郎君 加藤久米四郎君
古賀三千人君 山移 定政君 松田 三徳君
一去年十一月大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行
ニ關スル法律案委員有森新吉君辭任ニ付其ノ補闕ト
シテ山邑太三郎君ヲ、明治四十四年法律第六十一
號中改正法律案委員石川長右衛門君辭任ニ付其
ノ補闕トシテ前川虎造君ヲ、工場法中改正法律案委
員正木照藏君辭任ニ付其ノ補闕トシテ野田文一郎
君ヲ、身元保證ニ關スル法律案外三件委員久木田
叶君辭任ニ付其ノ補闕トシテ藏内次郎君ヲ、社寺
現境内地無償下付ニ關スル法律案委員鶴澤總明君
辭任ニ付其ノ補闕トシテ澤來太郎君ヲ執レモ議長ニ
於テ選定セリ

一去年十一月委員長補闕選舉ノ結果左ノ如シ
社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案委員長
委員長 長峰 與一君(委員長長多木久米次郎君
補闕)

一今年十一月委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
臺灣私設鐵道補助法案委員
委員長 坂本素魯哉君 理事 加藤久米四郎君

一今年十一月常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
第四部選出豫算委員 黒金 泰義君(三木武吉君
補闕)

第二部選出請願委員 津崎 尙武君(久木田叶君
補闕)

○副議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第
一ハ只今政府委員ガ公務ノ都合ニ依リテ出席ガアリマセヌ
カラ、後ニ廻シマス—日程第三裁判所構成法中改正法
律案ノ第一讀會ヲ開キマス—山内政府委員

第三 裁判所構成法中改正法律案(政府提
出)

裁判所構成法中改正法律案
裁判所構成法中左ノ通改正ス

第十四條ノ二 區裁判所ハ破産事件ニ付裁判權ヲ有
ス

第十六條中(第二ニ記載シタル罪ハ)ヲ削リ第二號ヲ左
ノ如ク改ム

第二 短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除
ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第二十七條第二號(ロ)ヲ左ノ如ク改ム

(ロ) 大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判
所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗
告

第二十八條 削除

第三十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判
所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法
律ニ定メタル抗告

第五十條第一號ヲ左ノ如ク改ム

第一 終審トシテ

(イ) 上告

(ロ) 地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル決定及
命令並ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法
律ニ定メタル抗告

(ハ) 地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告
棄却ノ決定ニ對スル抗告

第六十五條第一項ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

司法官試補タル資格ヲ有シ朝鮮總督府判事又ハ朝
鮮總督府檢事タル者亦同シ

第七十一條ノ二(中)司法省參事官ノ下ニ朝鮮總督
府判事朝鮮總督府檢事臺灣總督府法院判官臺灣

總督府法院檢察官關東廳法院判官又ハ關東廳法院檢察官ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條ノ二及第二十八條ノ改正規定施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

〔政府委員山内確三郎君登壇〕

○政府委員(山内確三郎君) 裁判所構成法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ申上ゲマス、破産法ノ改正ト、刑事訴訟法ノ改正ト關聯致シマシテ、裁判所構成法中改正ヲ要スルコトガアルノデス、破産法ニ付キマシテハ、破産事件ハ地方裁判所ノ事件トナシ居リマシタノデ、今回區裁判所事件トスルト云フコトニナリマシタノデ、此點ニ關スル裁判所構成法ヲ改正致シマス、又刑事訴訟法ニ於キマシテハ、第一審判決ニ對スル上告ヲ認ムルト云フ點、ソレカラ其結果ニ對スル抗告、其他是等ノ關係カラ、大審院ニ於テ新ナル裁判權ヲ認メナケレバナラヌコトニナルノデス、ソレカラモウ一ツ最後ニ朝鮮總督府、臺灣總督府、及關東廳ノ裁判官ト、ソレカラ檢察官ノ資格ニ付テ、内地ノ判事檢事ト共通スベキモノガアルノデアリマス、此點ニ付テモ亦改正ヲ要スルモノデアリマスノデ、茲ニ是等ノ諸點ニ付テノ改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラシムトヲ希望致シマス

○副議長(粕谷義三君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ政府提出貴族院送付破産法案外一件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタリ——只今後廻シニ致シテ置キマシタ日程第一ノ政府委員ノ出席ガアリマシタカラ、此場合議題ニ供スルコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ日程第一、司法事務共助法中改正法律案ヲ議題ニ供シマス——川村政府委員

第一 司法事務共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

司法事務共助法中改正法律案
第一條中「關東州」ヲ「關東州、南洋群島」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員川村竹治君登壇〕

○政府委員(川村竹治君) 現行ノ司法事務共助法ハ、御承知ノ如ク内地及樺太、朝鮮、臺灣等ニ於テ、司法事務ヲ取扱フ所ノ官廳間ニ於ケル事務ノ共助ヲ規定シタモノデアリマス、而シテ南洋廳ノ設置ニ伴ヒマシテ、此共助ヲ南洋群島ニ及ボス必要ガアリマスノデ、今回提案ヲ致シタ次第デアリマス、何卒御協賛ヲ願ヒマス
○副議長(粕谷義三君) 日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

第二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ政府提出貴族院送付破産法案外二件委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ岩崎君ノ動議ノ如ク決シマシタ

○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出簡易生命保險法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ、政府委員ノ說明ヲ求メ、之ヲ審議シ、引續イテ之ヲ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ行ヒ、次ニ政府提出健康保險法案ノ第一讀會ヲ開キ、政府委員ノ說明ヲ求メテ之ヲ審議シ、引續キ之ヲ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ行ハレシコトヲ望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 御異議ハナイト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ——簡易生命保險法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——泰政府委員

簡易生命保險法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

簡易生命保險法中改正法律案
第四條中「二百五十圓」ヲ「三百五十圓」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員泰豐助君登壇〕

○政府委員(泰豐助君) 本案ハ簡易生命保險ノ保險金額ノ制限額、現在二百五十圓ヲ三百五十圓ニ引上ゲヤウト云フ案デアリマス、是ハ御承知ノ通り、大正五年三簡易生命保險法ガ實施セラレマシテ、爾來歐洲大戰ノ結果、我國ノ經濟事情ハ非常ニ變化致シマシタ、今日デハ當時ノ二百五十圓ト云フコトデハ、此簡易生命保險ノ制度ヲ設ケマシタ目的ヲ達スルノハ如何デアラウカト云フコトニ考ヘラレルデアリマス、ソレ故ニ之ヲ三百五十圓ニ引上ゲマシテサウシテ、此制度ノ目的ヲ達シタト思フデアリマス、又民間ノ生命保險ニ於キマシテ、此三百五十圓程度——此現在ノ二百五十圓以上三百五十圓ニ至ル程度ノ保險ト云フモノハ、新契約ガ極テ稀デアリマス、即チ言換ヘバ此民間生命保險ニ於ケル所ノ缺陷ヲ補フ爲ニモ、此點ニ於テ極テ必要デアラウト考フル次第デアリマス、又此保險金額ノ制限額ヲ引上ゲタ爲ニ、此簡易生命保險ノ積立金ノ增加セラレ、コトハ疑ヒナイ事實デアリマシテ、之ガ社會政策ノ實施ノ理由ニ依リマシテ、本案ヲ提出致シマシタ、ドウカ十分ニ御審議ノ上御協賛アラシムトヲ望ミマス
○副議長(粕谷義三君) 質疑ノ通告ガアリマス——淺賀長兵衛君
〔淺賀長兵衛君登壇〕

○淺賀長兵衛君 諸君、只今緊急上程セラレタル簡易生命保險法中改正法律案ニ對シ、私ハ一二ノ點ニ付質疑ヲ試ミタイト思フデアリマス、茲ニ議題トナリマシタル簡易生命保險法中改正法律案ニ關シ、實ハ野田遞信大臣ニ對シ御質問ヲ致シタイト思フ居リマシタル所、生憎本日ハ大臣席ニ御見エニナリマセヌケレドモ、私ハ御尋致シタイ點ハ、既ニ兩三年前來世ニ於テ論議セラレツ、アル本法規定ノ保險金額ハ、其制定當時即チ大正五年ノ本法制定當時ノ保險金額二百五十圓ノ倍額タル五百圓程度ニ引上グベシトノ輿論ニ對シマシテ、今回政府提出案ニ依リマスルト引上額ハ僅ニ二百圓デアリマシテ、即チ三百五十圓トセラ

ル、ガ如キハ、餘リニ與論ヲ無視シタル少額デナイカト云フコトヲ疑フノデアリマス、斯クアテハ、社會政策的保險制度ノ根本義ニ背反セザルカヲ本員ハ大ニ疑フ者デアリマス、即チ大正五年本法制定當時ニ於ケル國民經濟ト、歐洲大戰後非常ナル膨脹發展ヲ遂ゲタル現在ノ國民經濟トト比較考覈致シテ見タラバ、金五百圓位迄此保險金額ヲ引上ゲルノガ至當デナイカト私ハ考ヘルデアリマス加之第四十四議會ニ於ケル簡易生命保險特別會計法中改正法律案ノ審議ノ委員會ニ於キマシテ、偶保險金額ノ點ニ關スル南代議士ノ質問、即チ「現在ノ最高ハ金二百五十圓デアリマスルガ之ヲ今少シ金額ヲ高クスル必要ガアルト政府ニ於テ認メマスカ認メマセヌカ」トノ質問ニ對シテ、野田逋信大臣ノ答辯ノ一節ハ、次ノ通りデアリマス、「御承知ノ通り郵便貯金ノ如キモ千圓デ制限シテアルノ、金二千圓ニ此ノ前ノ議會デ引上ゲテ貰タ、政府デハ金二百五十圓デアッタガ、五百圓マデ進メヤウト思フテ居リマス、是ハ來年ノ問題デアリマスガ、サウ云フ心持ヲ持テ居リマス」ト斯様ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、尙モ又同委員會ニ於ケル神谷代議士ノ質問ニ對シテ、即チ「此保險法ハ大正五年ノ制定デ未ダ時日ガ經テ居リマセヌヤウナモノ、戰後ノ今日ニ於キマシテ、第四條ニ保險金額二百五十圓以下トスト、斯クナテ居リマスガ、是ハ今日ノ場合非常ナル少額ニナラセ居ルカト存ズルカ、果シテ意思アリトスルナラバ、ドノ位マデ引上ゲマスコトヲ御考デアラカト云フコトヲ御尋シマス」トノ質問ニ對シマシテ野田逋信大臣ノ答辯ハ、次ノ通りデアリマス「先刻南君カラ御質問モゴロイマシタガ、實ハ政府デモ本年ノ議會ニ此議會ニ先ツ五百圓マデ進メテ出シタト思フノデスケレドモ、此法ノ成立ツトキ、非常ニ此保險業者カラ反對サレタ歴史ガアル、ソレデ此邊ノ諒解モ直接間接ニ得テ置ク方ガ宜カラウト云フヤウナ議モゴロイマスノデ、當年ハ見合セタ、今日政府ガ考ヘテ居ル所ヲ申上ゲマシレバ、昨年ノ秋ノ議會ニ於テ、郵便貯金ノ千圓ノ制限ヲ二千圓ニ上ゲタノデ、是モ倍額ア五百圓マデ進メタイト考ヘテ居リマス、來年ハ出サウト考ヘテ居リマス」斯様ニ野田逋信大臣ハ答辯セラレテ居ルノデアリマス、故ニ本員ハ今回ノ簡易生命保險金額引上ニ對シマシテハ、當然前議會ニ於ケル野田逋信ノ言質ノ實行ヲ心竊ニ期待シテ居タノデアリマス、然ルニ本改正案ニ於ケル保險金額ハ、僅ニ二百圓ノ引上ニ止マル、此點ニ關スル疑點ト致シマシテハ、昨年ノ委員會ニ於テ野田逋信ノ御辯明アリタル、本法制定當時ニ於ケル民間保險業者カラノ猛烈ナル反對運動ノ歴史ガ、爰ニ再び繰返サレタルヤ、私ハ疑フノデゴロイマス、加之兩三日前ノ都下ニ於ケル各新聞

ノ記事ニ依リマスレバ、大要次ノ如キ報道ヲ吾々ハ得タノデアリマス、簡易保險金額引上裏面ト題シ、其次ニ逋信側ノ讓歩ト書イテアリマシテ「政府ノ簡易保險金額引上問題ハ既報ノ通り現在ノ最高限度ニ二百圓ヲ高メ、三百五十圓ト爲スコトニ決定シタルガ、今此ノ間ノ事情ヲ問クニ逋信當局ハ郵便貯金倍額引上ノ例ニ倣ヒ、倍額ノ五百圓ニ引上ゲバク省議ヲ決定シ居タルモ、一方民間業者ハ昨春初テ簡保引上ノ聲ヲ聞キシ當時ヨリ猛烈ナル反對運動ヲ繼續シ、熱心ニ民間保險ノ主務官廳タル農商務當局ヲ動かスコトニ努メタリ、其ノ結果農商務當局ハ民間保險業保護ノ見地ヨリシテ、逋信當局ト民間業者トノ意見ヲ折衷案ヲ提唱スルニ至リ、逋信當局ハテ飽迄モ五百圓說ヲ固持シテ譲ラザリシガ、閣議ニ於テ遂ニ農商務當局ノ意ヲ通リ三百五十圓ト決定セモノナリト云フ」斯ル報道ヲ得テ居ルモノデアリマス、若シ然リト致シタラバ、昨年ノ委員會ニ於テ、野田逋信大臣ノ言明セル所、即チ保險金額ハ郵便貯金制限額ノ倍額トナル均衡上、之ヲ五百圓ニ引上ゲルノガ相當ナリトノ言明ヲシナガラ、新改正案ニ於テ三百五十圓ニ止メタル點ヲ忖度致シタラバ、其間ニ於テ如何ニ民間保險業者ノ反對運動ガ猛烈ナリシカ、其猛烈ナル運動ノ爲ニ野田逋信ハ先年ノ言明主張ヲ、恰モ弊履ノ如ク茲ニ放棄シ去リタルニアラザルカヲ疑フノデアリマス、斯クテハ本法ノ如ク社會政策的保險制度ノ本旨ニ反對スル野田逋信ノ御抱負ノ根柢ニ、聊カ疑義ヲ挾マザルヲ得ザルノ結論ヲ生ジ而シテ逋信ハ此點ニ關シ、近頃社會ニ流行ノ二枚舌ノ誹ヲ受クルニアラズヤト、本員ハ憂慮スルノ餘リ逋信ノ率直ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、終リニ附加ヘテ申上ゲマスガ、只今逋信次官ヨリ此保險金額引上ニ關スル理由ヲ御述ニナラシメ居リマスガ、是ハ即チ通り一遍ノ御說明デアアル、ドウカ願クハ斯ル簡易保險法ノ如キハ、社會政策的ノ見地ヨリシテ最モ國民ニ痛切ナル利害關係アル問題ナルヲ以テ、此際ニ於キマシテハ、之ニ關スル前後ノ事情ヲ詳細ニ率直ニ、御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 逋信次官

(政府委員泰豐助君登壇)

○政府委員(泰豐助君) 只今ノ御尋ニ御答致シマスガ、此簡易生命保險ノ保險金額ヲ增加シタイ、斯ウ云フ御說ガ前議會ニアリマシタ當時、野田逋信大臣ガ之ニ對シマシテ、其意思ノアル所ヲ申サレマシタ、先ツ五百圓程度位ハ宜カラウカト云フコトハ、確ニ言ハレタノデアリマス、併ナガラ同時ニ當局ト致シマシテハ、南君ノ質問ニ答ヘマシテ、此保險金額制限額ノ引上ニ付テハ、何分簡易生命保險法ハ診

察ヲシナイデ直ニ保險ニ付スルノデアリマスカラ、餘程考慮ヲシナケレバナラヌ、即チ從來ノ統計ニ依リテ見レバ、此最高額ニ近イ方ノ保險ヲ致シタ者ニ死亡率ガ多イノデアリマス、決シテ之ガ詐欺ニ依ルモノデアアルトハ申サナイノデアリマスガ、併ナガラ此最高制限額ニ近イ程死亡率ガ多イト云フコトヲ、免ニ角統計ガ示シテアルノデアリマスカラシテ、之ヲ引上ゲルト云フコトニ付テハ、考慮シナケレバナラント云フコトハ、其時ニ御斷リヲシテアリマス、五百圓ト逋信大臣ガ申シタノハ、大體ニ於テ其位ニシテモ宜クハナイカト云フコトヲ、逋信大臣ノ御考トシテ言ハレタニ違ヒナイガ、之ヲ議會ニ提出シテ兩院ノ協賛ヲ經ルト云フコトニ付キマシテハ、十分ニ調査ヲシ、又關係ノ各省間等トモ協議ヲ致シマシテ、總テノ方面ニ於テ差支ナイト云フデケノ見極メヲ付ケテ提出ヲシナケレバナラヌ譯デアリマス、即チ此三百五十圓ト云フコトノ引上ヲ提出致シマシタノハ、十分ニ調査ヲ遂ゲ、サウシテ是レナラバ差支ナイ、斯ウ云フ所デ此度初テ提出シタ次第デアリマス、而シテ此簡易生命保險ノ制度ヲ大正五年ニ設ケラレマシタ當時、政府當局ガ說明セラレマシタ如ク、此制度ハ決シテ民間保險業ヲ壓迫スル、或ハ民間保險業者ニ取テ代ルト云フ所ノ目的ヲ以テ出來タモノデアリマセヌ、即チ民間保險業デハヤリ得ナイ所、其缺陷ノ之ニ依リテ補テサウシテ、薄資者ヲシテ生活ノ安定ニ資スル所アラシメントスル所ノ趣旨デアルト云フコトハ、當時大隈内閣ニ於テ、簡易保險法ヲ制定シタル理由トシテ述ベラレタ通りデアアル、今日ニ於テ三百圓ヲ五百圓ニセヨト云フコトデアリマスガ、五百圓以上ニ付キマシテハ民間生命保險業者ニ於テモ爲シ得ル餘地ガアルト吾々ハ認メテ居ル、民間生命保險業者ニ於テハ簡易保險ヨリモ實際ニ於テ保險料ガ安イ、ソレ故ニ民間保險業者ノヤリ得ル範圍ニ於キマシテハ、寧ロ民間保險ニ這入テ其保險ヲ受ケル方ガ、加入者ハ却テ利益デアアル、ソレマデ簡易保險ノ方デモ進ンデ行カケレバナラヌト云フコトハ、必シモ認メルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、即チ三百五十圓迄ノ所ニ於キマシテハ、民間生命保險ニ於テモ實際ノ統計カラ見マシテ極テ加入者ガ少イ、即チ此處ニ缺陷ガアルノデス、ソレ故ニ簡易保險ノ方デ制限額ヲ其處迄定メテ行テヤル方ガ極テ必要デアルト云フコトヲ認メルノデアリマス、是等ノ理由ニ依リマシテ、十分ノ調査ヲ遂ゲマシタ上ニ此案ヲ提出シタ次第デアリマスカラ、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○副議長(粕谷義三君) 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ板野友造君提出、工場法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○次ニ健康保險法案ノ第一讀會ヲ開キマス、田中農商務次官

健康保險法案(政府提出)

第一讀會

健康保險法案

第一章 總則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、

負傷死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料分擔費若ハ出產手當金ノ支給ヲ爲スモノトス

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラ

ル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ

定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リテ算定ス

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵

收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル

期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條 保險者ハ被保險者ヲ使用スル事業主ニ對シ

其ノ使用スル者ノ異動、報酬其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提

示シムルコトヲ得

第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ保險者ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リテ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

第十二條 政府ノ事業ニ使用セララルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 工場法ノ適用ヲ受クル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場若ハ工場ニ使用セララルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セララルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ニ規定スル工場及事業場ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ使用セララルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得

一 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業

二 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業

三 電氣又ハ動力ノ發生、變壓又ハ傳導ノ事業

四 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

五 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

六 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ主務大臣ノ指定スルモノ

七 貨物積卸ノ事業

八 前各號ニ掲クルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルヘキ者ノ

二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セララルル者ハ健康保險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル工場カ其ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ工場ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス

第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セララルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當セラルルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セララルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十一條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十二條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十三條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十四條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十五條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十六條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十七條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十八條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十九條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第三十條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第三十一條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第三十二條 認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主、其ノ事業ニ使用セラルル被保險者及第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スル二以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有スル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第四條第一項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

前項ノ被保險者ハ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルト

キハ仍之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セザルトキハ、主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ヲ執行ニ要スル費用ハ健康保險組合ノ負擔トス

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害スル若ハ害スル虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府ニテ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ被保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ、被保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手当金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手当金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

業務上ノ事ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ハ一年內百八十日ヲ超エテ之ヲ爲サス

被保險者ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ傷病手当金ノ支給ヲ受クル期間療養ノ給付ヲ受ク

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ被保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徵收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ二十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手当金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十二相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 被保險者ハ被保險者ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手当金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

タルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルト

タルトキト雖第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タルト

第五十三條 分婉ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ、分婉ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分擔ス

第五十四條 出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病負傷又ハ分婉ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日以後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日以後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第五十七條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日以後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分婉シタルトキハ分婉ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十八條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分婉シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第五十九條 前條ニ掲クル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分婉シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 被保險者闘争若ハ泥酔ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 本法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞務役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲クル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十三條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラレ、被保險者又ハ勅令ノ報酬ヲ受ケタル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十四條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ規定スル制限ヲ超ヘテ保險料ヲ徵收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徵收セス

一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルトキ

第七十七條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スヘキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スヘキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フヘキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第七十九條 保險料ノ納付期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 審査ノ請求、訴願及訴訟

第八十條 保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ第一次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ第二次健康保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ其ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保險組合ヲ監督スル保險官署ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十二條 前條ノ規定ニ依ル訴願ノ提起アリタルトキハ保險官署ハ第二次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ主務大臣ハ第三次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スヘシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必
要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ拘引ヲ命スルコトヲ得ス

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第六十七條及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第七章 罰則
第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依ル保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ其ノ手續ノ遲延シタ

ル期間其ノ負擔スヘキ保險料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス
第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス
本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得
第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
〔政府委員田中隆三君登壇〕
○政府委員(田中隆三君) 健康保險法案ノ提出理由ヲ申上ゲマス、勞働保險ノ制度ヲ樹立致シマシテ、生活上ノ不安ヲ除去スルコト、又勞働者ノ健康ヲ保持致シマシテ、勞働能力ノ増進ヲ圖リマス、又其結果ト致シマシテ勞資ノ圓滿ナル協調、ソレニ依リマシテ國家産業ノ健全ナル發達ヲ期スルコトノ必要ヲ認メマシテ、政府ハ曩ニ勞働保險ノ調査ニ關スル豫算ヲ編成致シマシテ、皆様ノ御協賛ヲ得テ、其後著々其調査ヲ進メマシタコトハ、各位ノ熟知セラルル通りデアリマス、而シテ勞働保險制度ヲ以テ救済スベキ事故ハ數々ゴザイマス、而シテ遺憾ナガラ本邦ニ於キマシテハ、勞働事情ノ鮮明セラレザル事ガ甚ダ少クナイノデアリマス、隨テ此種保險ノ基礎ト爲スベキ所ノ資料殊ニ參考ト致サナケレバナラヌ所ノ、過去ノ經驗ニ基キマシテ所ノ、實際ノ事實ハ甚ダ乏シウゴザイマスガ故ニ、此場合ハ主トシテ工場ト鑛山ト、此二ツノモノ、從業者ニ對スル健康保險制度ヲ定メマシテ、傷病療養ヲ容易ニ致シ、勞働力ノ回復ヲ迅速ナラシムルコト、又併セテ分娩ト死亡ノ場合ニ對シテ、一定ノ給付ヲ致スト云フヤウナ意味合ヲ以テマシテ、此度ノ健康保險法案ガ制定セラレタノデアリマス、之ヲ以テ先ツ將來施行スベキ他ノ健康保險制度ノ基礎ト致シマシテ、追々調査ヲ進メマシテ、漸次此法案ニ改訂増補ヲ加ヘマシテ、所謂世間テ謂フ所ノ勞働保險ト云フモノ、全部ヲ完成致シタイト云フコトヲ考ヘテ居リマスノデゴザイマス、ドウゾ十分ニ御審査ノ上御協賛ヲ賜ランコトヲ御願ヒ申上ゲマス
○副議長(粕谷義三君) 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○岩崎勳君 本案ハ板野友造君提出、工場法中改正法

律案外七件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス
〔贊成〕贊成下呼フ者アリ
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイモノト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
次ハ日程第五、陪審法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長鴉澤總明君

第五 陪審法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
報告書
一 陪審法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十一年三月十一日
陪審法案委員長 鴉澤 總明
衆議院議長 奧繁三郎 殿

〔鴉澤總明君登壇〕
○鴉澤總明君 諸君、陪審法案ノ委員會ノ結果及經過ノ報告ヲ致シタイト思ヒマス、陪審法案ハ第一章、第二章、第三章、第四章、第五章、第六章全部ニ於キマシテ百十四箇條ヨリ成ル極テ簡單ナル法案デアリマス、併ナガラ制度ト致シマシテ之ヲ確立スルコト云フコトニナリマシテハ、先ツ極テ重要ナル審議ヲ要スルモノデアアル、斯様ニ考ヘラル、ノデゴザイマス、委員會ハ八回開キマシテ、先ツ逐條ノ質問前ニ案ノ全體ニ涉リマシテ、委員諸君ヨリ詳細ナル質問ガアリ、之ニ對シテ政府ノ答辯ノアツタ次第デアリマス、次ニ各條審議ニ移リマシテ、各條ニ付キマシテ又委員諸君ヨリ極テ詳細ナル審議及質問ガゴザイマシテ、之ニ對シテ政府ノ鄭重ナル答辯ガアツタ次第デアリマス、而シテ先ツ此質問ノ極テ要領ダケヲ擧擧シテ御報告ヲ致シマスレバ、陪審制度ヲ此度政府ノ提案ヲ致シタコト云フコトハ、如何ナル理由ニ基クモノデアアルカト云フ質問ガ、委員諸君カラ提出セラレタノデアリマス、例ヘバ横山勝太郎君ノ質問ニ依リマスレバ人民ガ司法ノ運用ニ參與スルノハ、何故ニ憲法上適當ナルカ、其論理的ノ根據、倫理的ノ根據ハ何レニアルカ、官僚裁判官ノ獨斷專行ヨリモ、人民ノ裁判ガ論理的、倫理的ニ優テ居ルト云フノデアアルカト云フヤウナ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ大木司法大臣ハ、常職裁判官ノミガ或ハ陥ラントスル時弊ヲ匡救スル爲ニ、國民ニ事實ノ判斷ニ與カラシムルト云フコトガ必要デアアルト思フ、斯ウ云フヤウナ答辯ガアリマシタ、又山内司法次官ハ、常職裁判官ノミノ裁判ニハ民情ニ徹底セザルコトガナイトモ限ラヌ、又專門裁判官ヲシテ事

ニ徹底セザルコトガナイトモ限ラヌ、又專門裁判官ヲシテ事

實ノ判斷ニ至ルマデノ全責任ヲ負ハシムルト云フコトハ、畢竟酷ニ失スル譯デハナイカ、此點ニ付テハ人民モ亦責任ヲ荷フベキデハナイカト云フヤウナ答辯ガアリマス、ソレカラ鈴木富士彌君ハ、何故ニ陪審法案ヲ獨立法案トシタノデアアルカ、事實ノ判斷ハ裁判ト言ハナイカ、マア斯ウ云フヤウナ諸點ニ付テハ質問ガアリマス、之ヲ獨立ノ立法ト致シマシタコトニ付キマシテハ十分ナル説明ト致シマシテ、別ニ論理的ノ根據ニ依ツタモノデハナイケレドモ、刑事訴訟法ニ對スル所ノ特別ノ立法ト致シマシテ、又此度新ニ陪審制度ヲ確立スル上カラ見レバ、獨立ノ立法ニ致シマシタ方ガ、總テノ上ニ於キマシテ都合ガ宜シイト云フヤウナ答辯デアリマシタ、ソレカラ或ハ又此陪審制度ヲ置クト云フコトハ、是ハ裁判官ニ對スル不信任ノ爲デアルカ、斯ウ云フヤウナ御間モアリマシタガ、之ニ對シマシテ、日本ニ於テ特ニ各官廳ノ關係カラ見テ、獨リ司法官ニ過テアリシコトハ大木司法大臣、平沼檢事總長等、或ハ其時ノ鈴木司法次官等ノ訓令ヲ發シテ戒飭ヲセラレタ所ニ依テモ明白デアルカラシテ、專門司法官ノ或ハ陥ルト云フヤウナ弊害ヲ救済スル爲ニ陪審制度ガ必要デアラスウ云フヤウナ政府ノ答辯モアリマス、ソレカラマダ專門ノ事柄ニ涉ルヤウナ質問ハ大分ゴザイマシタガ、其方ハ之ヲ省略致シマシテ、委員會ノ速記ニ依ツテ御覽ヲ願ヒタイト思フデアリマス、此全體ノ質問ノ中ニ於キマシテ、案其モノニ付テハ反對デハナイ、陪審法ト普通選舉法ト云フモノハ、是ハ立憲政治ノ當然ノ歸結デアル、斯ウ云フコトハ信ズル、併ナガラ政府ハ此大法案ヲ出スニ方リマシテ、何故ニ廣ク之ヲ一般ニ世間ニ公知セシムルノ手段ヲ執ラナカクデアアルカ、斯ウ云フヤウナ質問カ野村嘉六君カラ提出セラレタデアリマス、之ニ對シテ政府ノ答フル所ハ如何ニモ大法案デアレドモ、此陪審法ト云フモノハ十數年前ニ民間ノ法曹ガ天下ノ國民ヲ代表致シマシテ、陪審法ト云フモノハ裁判ノ上ニドウシテモ施行センケレバナラスモノデアルト云フヤウナ意見ノ開陳ヲセラレテ居ル、又衆議院ニ於キマシテモ、松田源治君カラノ提案デアラウト思ヒマスルカ、陪審法案ノ施行ノ建議案ガ出マシテ、多數ヲ以テ通過ヲ致シテ居ル、而シテ政府ハ朝野ノ裁判制度等ニ經驗ノアリ、或ハ知識ノアル者ヲ集メテ、法制審議會ト云フモノヲ組織シテ、此處ニ於テ十分ニ審議立案セシメ、更ニ此法律案ト云フモノガ樞密院ノ議ヲ經キマシテ、提案サレルト云フヤウナ順序ニナツテ、ゴザイマスカラ、一般ノ國民ニ對シテ之ヲ公知セシムルト云フ時間ハナカクデアアルケレドモ、併ナガラ此事柄ハ一般國民ニ知ラレテナイトハ申ス譯ニ參ラヌ、ソレカラ若シ此法案ガ通過ノ曉ニ於キマシテハ、有

エル方法ヲ執ッテ之ヲ一般國民ニ理解シ得ルヤウナ途ヲ立テタイト思フ、斯ウ云フヤウナ點ガ政府ノ答辯デアリマシタ、以上ガ先ツ大體質問ノ要領ゴザイマシテ、更ニ各條ノ質問ニ入ツテデアリマスガ、此各條ノ質問ニ付キマシテハ、直ニ質問ノ點ヲ申上ゲテモ或ハ不明瞭ニナルコトヲ懼レマシテ、大體此法案ニ於ケル陪審員ト云フモノハドウ云フ者デアアルカ、陪審制度ト云フモノハドウ云フモノデアアルコトヲ、極テ簡單ニ御報告ヲ申上ゲマスルコトハ、委員長ノ責任デハナカラウカト考ヘル次第デアリマス、ソレデ甚ダ恐縮ノ次第ゴザイマスルカ、暫ク其點ニ付テ御清聴ヲ煩シタインゴザイマス、謹聽ニ陪審員ノ資格ハ第十二條ニ規定サレテ居ルデアリマスガ、ドウ云フ者ガ陪審員ニナルコト申シマスレバ、帝國臣民タル男子ニシテ三十歳以上タルコト、引續キ二年以上同一町村内ニ住居スルコト、引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト、讀ミ書キヲ爲シ得ルコト、斯ウ云フ條件ガ其テ居リマスレバ、即チ陪審員ト云フモノヲ構成スル、陪審員ト云フ者ガ出來ルデアリマス、而シテ此陪審ノ構成ハドウ致シテ構成スルカト申シマスレバ、本法ニ於キマシテハ大體外國ノ例ニ於ケルガ如ク、十二人ノ陪審員ヲ以テ陪審ト云フモノヲ構成スルコト云フコトニ相成ッテ居ルデアリマス、何故ニ十二人ト云フ數ヲ選ンダカト云フ質問ニ對シマシテハ、特ニ此外國ノ例ヲ變ズル程ノ理由ヲ見出サナカクデアアルカラ、之ヲ十二人ト致シテ居ルト云フデアリマス、尤モ此陪審制度ニ先立チマシテ、明治六年、明治八年等ニ於キマシテ、日本ニ於テハ一タヒ參座制ト云フモノヲ採用致シタコトデアリマス、此參座ノ制度ニ於キマシテハ、或ル場合ニ於テハ九人ノトキガアリ、或ル場合ニ於テハ十二人ノトキガゴザイマス、此參座ノ事柄ハ今日カラ申シマスレバ、取モ直サズ即チ陪審制度デアル、ソコデアラニ於テ、既ニ日本ニハ陪審制度ノ第一歩ガアツタデアラ、斯様ニ申スノゴザイマス、此十二人ノ陪審員ハドウシテ造ルカト申シマスレバ、先ツ第十二條ノ公明ニ當ル所ノ者、此中カラ致シマシテ色々陪審員タル資格ヲ喪フ規定ガ出來テ居ルノガ即チ十三條ゴザイマス、禁治産者デアルトカ、準禁治産者デアルトカ、或ハ被産者ニシテ復權ヲ得ザル者トカ、ソレカラ弱者、啞者、盲者デアルトカ、懲戒六年以上ノ禁錮ノ後刑法ノ重罪ノ刑、又ハ重禁錮ニ處セラレタル者ハ是ハ陪審員タル資格ガナイデアリマス、即チ陪審員タルコトヲ得ズト云フ方ノ規定ニ入ルデアリマス、又職務ノ關係其他カラシテ、陪審員ニナルコトノ出來ナイ者ハ、第十四條ニ規定ヲ致シテ居ルデアリマス、ソコデアラ、先ツ町村ノ公明ノ中カラ致シマシテ、假ニ一府縣ニ於テ一萬五六千人ノ適當

ナル陪審員ガアルト致シマスレバ、其中カラシテ、一ツノ事件ニ付テノ陪審員ヲドウシテ選ブコト申シマスレバ、先ツ地方裁判所長ガ年々其地方裁判所管轄内ニ於キマシテ、本年陪審三懸クベキ所ノ事件ガ十件アルトカ、或ハ二十件アルトカ、或ハ三十件アルトカ云フ大體ノ豫想ヲ立テマシテ、其豫想ニ從ヒマシテ、其年度ニ所要ノ陪審員ノ數ヲ定メルデアリマス、定メラレタル所ノ數ヲ先ツ村々ニ依ツテ抽籤ヲ致シマシテ、而シテ一ツノ陪審席ヲ構成スル爲ニハ、十二人ゴザイマスルカ、此十二人ヲ選ビマスル爲ニハ、三十六人ノ陪審員ヲ抽籤ヲ致シマシテ、而シテ此三十六人カラ十二人ヲ選ブト云フコトニ相成ルデアリマス、三十六人ハドウ云フコトニシテ採ルカト申シマスレバ、町村ノ順序ヲ豫メ定メテ置キマシテ、一ツノ陪審席ヲ構成スル爲ニ、甲ノ村カラ一人、乙ノ村カラ一人、丙ノ村カラ一人、丁ノ町カラ二人ト云フヤウナ工合ニ致シマシテ、先ツ三十六人、之ヲ抽籤ニ依ツテ選出シマシタ、三十六人ヲ裁判所ニ喚出スト云フコトニナルデアリマス、ソコデアラ、此三十六人ノ中カラ愈々陪審ノ席ヲ構成スルコトニ依ツテ區別ガアルノゴザイマシテ、一日ニ濟ム所ノ陪審デゴザイマスルカ、事件ガ一日以上ニ互ルコトニナリマスレバ、陪審ノ中カラ病氣其他ノ故障ガ起ラヌトモ限リマセヌカラ、補充陪審ト云フ者ヲ十二人ノ外ニ三人ナリ四人ナリ選ンデ置キマシテ、其補充陪審ガ他ノ陪審ト同ジヤウニ、訟廷ニ於キマシテハ事件ノ審理ヲ聽イテ居ルデアリマス、ソコデアラ、故障ノアル場合ニハ、其補充陪審カ之ニ代ルト云フコトニナルデアリマス、ソコデアラ、三十六人ノ中、ドウ云フヤウニシテ十二人ヲ選ブコト申シマスレバ、先ツ此事件ニ依ツテ定メラレテ居ル、抽籤ニ依ツテ選出サレテ居ル陪審員デゴザイマスルケレドモ、マダ陪審員ト云フ者ガ不公平ナル裁判ヲヤルカモ知レナイ、或ハ國家ノ方カラ見マスナラバ、被告ニ利益ノ裁判ヲスルカモ知レナイ、被告人ノ方カラ見マスナラバ、被告人ニ不利益ナル裁判ヲスルカモ知レナイト云フヤウナ所カラ致シマシテ、忌避ト云フ方法ヲ採ルデアリマス、ソコデアラ、先ツ此陪審ノ三十六人ノ中カラ名前ヲ取上ゲマシテ、加藤正清、斯ウ言ヒマス、檢事ガソレハ結構デアル、被告モソレハ結構デアルト云フ、其次ニ福島則正ト云フ者ハ立派ニ陪審員トナルデアリマス、其次ニ三浦島則正ト云フ者ガ出テ參ル、檢事ガソレヲ忌避スルト云フ者ガ參リマス、是ハ檢事ハ通過シテモ、被告ガ忌避スルト云フ、斯ウ云フヤウナ工合ニ、檢事ガ第一ニ忌避ヲシ、其次ニ被告ガ忌避ヲ致シマシテ、段々ト忌避ヲシテ參リマシテ、十二人ノ所ニ至ラ、而シテ數ガ揃

へバ、之ヲ以テ陪審席ヲ構成スルト云フコトニナルノデアリマス、デハハ補充陪審ノトキニハ、其外ニ補充陪審三人、或ハ四人ト云フモノヲ選シテ、茲ニ陪審席ト云フモノ、構成ガ出來ルノデアリマス、ソレカラ奇數偶數ニ分レルコトゴザイマスガ、若シ此數ガ忌避ニ依リテ餘リマストキニハ、之ヲ忌避スル所ノ權利ヲ被告ニ與ヘル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、ソレカラ今ノ刑事訴訟法、先般御協賛ヲ經マシテ法律ニナリマシタル場合ニハ、一々後カラ理由ヲ疏明シナケレバナラスノデアリマスガ、陪審ノ忌避ニハ理由ノ疏明ナドト云フモノハ要ラナイ、唯忌避ヲスル、斯ウ云フ事ニナレバ、其人ハ職務カラ離レルト云フヤウナコトニナリマシテ、茲ニ二人ガ出來レバ、先ヅ陪審員ノ席ハ構成サレル、陪審官ノ席ハ構成サレル、官ト云フト語弊ガアリマスガ、陪審ノ席ガ構成サレル、斯ノ如クシテ出來マシテ、之ガ即チ陪審員デゴザイマス、而シテハ、地方裁判所ガ管轄裁判所ニナリマスカラ、地方裁判所ニ三人ノ判事ガ居リマシテ、其三人ノ判事ノ外ニ陪審員十二人出來ル、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマス、之ガ即チ陪審ノ構成デアリマス、ソレカラ公判手續ハドウナルカト申シマスレバ、此陪審ニ於キマシテノ一番ノ特色ハ、公判ハ總テ直接審理ノ原則ニ從ヒ、公判以外ニ於テ調ベマシタル所ノ證據、豫審ノ證據デアルトカ、或ハ檢事ノ調書デアルトカ云フヤウナモノヲ以テ參リマシテ、之ヲ證據ニスル譯ニハ參ラヌノデアリマスガ、公判ニ於テ陪審ノ前ニ於テ公ニ取調ベラレ、直接ニ取調ベラレル所ノモノノ證據ニナリマシテ、此證據ニ依リマシテ、裁判ヲスルコトニ相成ルノデアリマス、ソコデ先ヅ此陪審ガ出來マシテ、事件ガ始マル、茲ニ放火事件ガアル、火ヲ放ケタ事件ガアルト云フコトニナリマスト、此事件ニ付キマシテ、先ヅ其檢事ガ被告ノ某ト云フ者ハ、何月幾日何時頃ニ何處其處ニ於テ、某ノ家ヲ燒イタ者デアルト云フヤウナ事ヲ述ベテ、而シテ此審理ヲ求メルノデアリマスガ、此法案ニ於キマシテハ、檢事ノ今ノ公訴ヲ述ベマシタル前ニ、公訴ヲ述ベマサル前ニ、陪審ニ依ルコトヲ被告ガ不利益ナリト考ヘマスレバ、之ヲ辭退スル事ガ出來ルノデアリマス、歐羅巴諸國ノ法律ハ、陪審審理ヲ辭退スルコトノ出來ルト云フ例ハ少イノデアリマス、唯英吉利ニ於テ、近頃簡單ナル事件ニ對シマシテハ、拋棄ガ出來ル辭退スル事ガ出來ルト云フコトニナリテ居リマスガ、大體陪審ノ裁判ヲ辭退スルコトハ出來ナイノデアリマスガ、本案ニ於キマシテハ、檢事ノ公訴陳述前ニ於キマシテハ、辭退スルコトガ出來ル、專門裁判官、常職裁判官ノ裁判ノ方ガ被告ノ爲ニ公平ニシテ、利益ノ裁判ヲ受クルコトガ出來ルト考ヘマヌルナラバ、公訴陳述前ナラバ之ヲ辭退スル事ガ出來ル、斯

ウ云フヤウニナリテ居ルノデアリマス、所ガ辭退シナイト云フ事ニ依リテ公判ガ開カレル、サウナリマスト、檢事ガ公訴ノ事實ヲ述ベル、裁判官ガ之ヲ調ベル、檢事ガ又證據ヲ調ベマスル、辯護士モ亦證據ヲ調ベマスル、即チ陪審制度ニ於キマシテハ、裁判官、辯護士、檢事ト云フヤウニ主ニ事實ノ調ベト云フモノヲ各獨立致シマシテ、調ベルコトガ出來ルト云フヤウニナルノデアアル、之ガ今日迄ノ訴訟手續ト餘程違フノデアリマス、サウ云フヤウニナリマシテ、愈、此調ベガ済ミマスト、ドウ云フコトニナルカト申シマスレバ、所謂證據調ベガ終ルト云フコトニナルノデアリマシテ、其證據調ベガ終リマスト、陪審ノ事件ニ於キマシテハ、辯論ガ二ツニ分レルノデアリマス、今日ノ刑事訴訟法ニ於キマシテハ、先ヅ事件ヲ調ベテシマヒマシテ、最後ニ檢事ガ被告事件ニ對スル事件ノ概略ヲ述ベ、而シテ刑ノ量定ヲスル事ニ付キマシテ、裁判官ニ請求ヲスルコトニナリテ居ルノデアリマスガ、陪審ニ於キマシテハ、立前ガ先ヅ此陪審ニハ事實ノ判斷ヲセシメル、斯ウ云フコトニナリテ居ルノデアリマシテ、即チ此本案ノ第一條ニ於キマシテ、裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得トスウ云フ事ニ相成テ居リマスカラ、事實有タカ無イカ、即チ火ヲ放ケタト云フガ、火ヲ放ケタヤウナ事ガ有タカ無イカト云フ、此事實ノ判斷ヲ陪審ニサセルト云フコトニナルノデアリマスカラ、一度證據調ベ済ミマスト、此時ニ始マル所ノ辯論ハ即チ此事實ニ對スル辯論ト云フコトニ相成ルノデアリマス、ソコデ本案ノ第七十六條ニ於キマシテ、證據調ベリタル後檢事被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ即チ犯罪ノ構成要素ニナル部分ニ於テノ辯論ヲスルコトニナルノデアリマス、其辯論ノデアリマシテ後、初テ此裁判官カラ致シマシテ、陪審員ニ對シマシテ、初テ此裁判官カラ致シマシテ、即チ其事件ノ說キ明シデアリマスガ、說キ明シテヤルノデアリマス、ソレガ第七十七條ニ當ルノデアリマス、前條ノ辯論終結後裁判官ハ陪審員ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルベキ事實並證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スベキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス、斯ウ云フコトニナリマシテ、先ヅ極ク平たく申シマスルナラバ、裁判官ガ大體ノ此事件ノ說キ明シテ致シマシテ、而シテ檢事ノ述アル所ノ議論、辯護人ノ述アル所ノ說、檢事カラ出テ居ル證據、辯護人カラ出テ居ル證據ニ付テ唯說キ明シテ居ルノデアリマス、此證據ハ信ズルコトガ出來ルトカ、出來ナイトカ云フコトハ申サナイ、唯有リノ儘ニ說キ明シテ致シマシテ、而シテ此事實ガ有タカ、無イカト云フコトヲ陪審員

ニ評議ヲセシムルコトニナルノデアリマス、此說示ヲ受ケマスト、說示ヲ致シマシテ問ヒテ發スルノデアリマシテ、其問ハ即チ主ナル問ト、ソレカラ補充ノ問ト、即チ主問補問ニ區別ヲ致シマシテ、陪審員ニ於テ然リ、例ヘバ放火ト云フコトガ有ルト云フコトニナリマスレバ、然リト云フコトニナリマス、又放火デナクシテ、之ガ過失デ火ガ起ッタノデハナイカト云フヤウナ補問ト云フモノガ出來マスレバ、補問ニ對シテ答ヘルト云フヤウニ、主問ト補問二分チマシテ、極テ簡單ニ然リトカ、然ラズトカ云フヤウニ答ヘル問ヲ出スノデアリマスガ、其問ヲ受取リマシテ、陪審員ガ陪審ノ評議室ト云フモノニ退イテ參リマシテ、評議室ニ於テ陪審員長一人ヲ選シテ、此陪審員長ノ下ニ十二人ノ者ガ評議ヲスルノデアリマス、ソレデ陪審員長ガ一番後ニ於テ意見ヲ述ベルコトニナリテ居ルノデアリマス、ソコデ說ガ六人六人ニ別レマスレバ無罪ニナル、本案ニ於キマシテハ、ソレカラ有罪ガ七人無罪ガ五人ト云フ場合ニハ、初テ有罪ト云フコトニナリテ居リマス、英吉利ノ如キノ例ニ依リマスレバ、十二人ノ者ガ悉ク有罪ナリト言ハナケレバ有罪ノ判斷ガ出來ナイ、十一人有罪ト言フデモ、一人無罪ト言ヒマスレバ、有罪ノ判斷ガ出來ナイノデアリマス、日本ニ於キマシテハ、有罪無罪ヲ決セシムルノデアリマス、甲ノ事實ガ有タカ、無イカト云フコトヲ決セシメルノデアリマスガ、之ニ對シマシテモ七人マデ放火ノ事實アリトスレバ、初メテ然リト云フ答ヲスルガ、六人六人ニ別レマスレバ、然ラズトスウ云フヤウニ答ヘルノデアリマス、而シテ斯ノ如ク出來マスト、今度ハ答申ト云フモノヲ、裁判官カラ出シマシテ問書、即チ問書ト云フモノニ記載致シマシテ、陪審員長ガ署名捺印シテ、之ヲ裁判官ニ提出スルノデアリマス、ソレカラ書面ニ出シマシテ、之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムルコトニナルノデアリマス、此所マデガ先ヅ陪審ノ仕事ニナルノデアリマス、所ガ本案ニ於キマシテ、屢、議論トナリマシテ、質問應答ヲ重ネラレマシタノハ、即チ本案ノ第九十五條デゴザイマスガ、本案ノ第九十五條ニ於キマシテハ、裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルコトヲ得陪審ノ答ヘマシタ事柄ガ、裁判官ガ考ヘテ見テハ不當アル、斯様ニ思ヒマストキハ、今マデノ陪審ヲ解キマシテ、今度新ニ他ノ陪審ニ其事件ヲ判斷セシムルコトガ出來又其陪審ノ判斷ト云フモノハ不當ト認メマスルトキハ、更ニ他ノ陪審ニ判斷セシムルコトガ出來ル、斯ノ如ク反覆致シマシテ、法律ノ規定カラ致シマスレバ、數十回、數百回ニ互ルト云フコトガ出來ルト云フ意味ニ解釋ガ出來ルノデアリマス、ソレ故ニ之ニ對シマシテ、委員諸君ノ中ノ質問ニ依リマスレバ、陪審ノ意見ガ裁判

官ヲ拘束スルコトニナレバ、陪審制度ノ效能ガ十分有ルコトニナラザラウガ、裁判官ノ不當ナリト認ムル意見ニ依リテ常ニ此陪審判斷ヲ變ヘテ答申セシムルコトガ出来ルコトアリコトデハ、陪審ノ效力ガ薄イモノナリト云フ質問ルコトアリマシタ、之ニ對シテ、政府ノ答ニ依リマスル、成程法律ノ條文ヲ極テ冷タク解釋致シマスレバ、幾遍モ變ヘルコトガ出来ルヤウニナラテ居リマスケレドモ、併シ陪審制度ノ必要ト云フ事柄ハ、常識ヲ以テ普通ノ專門ノ法律上ノ判斷ヲ補フコトニナル、又吾々人間ガ共同生活ヲ遂ゲ居ル以上ハ、事實ノ判定ニ於ケル吾々ノ常識ノ判斷ト云フモノガ、左様ニ甲ノ人ト乙ノ人ニ於テ非常ニ大ナル違ヒヲ生ズベキモノデナカラウト思フ、ソレ故ニ先ツ甲ノ陪審ガ答申ヲシテ、裁判長ガ之ヲ不當ト認メル、次ニ乙ノ陪審ガ答申ヲ致シマシテ、又裁判長ガ不當ト認メル、一回二回ト同一ノ答申ヲ得ルコトニナレバ、裁判官モ自省致シマシテ、之ガ適當ノ判斷デアラウト云フコトハ、常識ノ上カラ、又道德ノ上カラ、又日常ノ吾々ノ生活ニ色々共存シテ居ル所ノ思想ノ關係カラ落付クコトデアラウ、ソレ故ニ理論トシテハ、數十回、數百回繰返スコトガ出来ルケレドモ、實際ニ於テハ、斯様ノ場合ガ無イ、加之裁判官ニ陪審ノ答申ヲスル事件ニ於テハ、陪審ノ答申無シニハ、ドウシテモ裁判官ガ出来ナイコトニナルデアリマスカラ、此意味ニ於テ相當ニ考慮ガアルト認メル、斯ウ云フ事柄ガ政府ノ答辯デアリマス、先ツ以上ガ陪審ト云フモノ、大體デゴザイマシテ、而シテ此陪審ノ制度ニ對シマシテ、陪審員ナル者ヲ構成シ、是カラ陪審ノ答申ヲ得テ、事實ノ判斷ヲ致シスル以上ハ、其事件ニ對シテ控訴ガ出来ナイ、斯ウ云フコトニナルデアリマス、併ナガラ上告ハ出来ル、上告ノ場合ト云フモノモ、相當ニ廣ク本案ニ於テハ、規定致サレテ居ルデアリマス、次ニハ陪審ノ費用、ソレカラ陪審ニ對スル所ノ罰則ト云フヤウナモノデゴザイマシテ、之ガ此本案ニ於キマスル所ノ大體ノ極ク簡單ナモノデアリマスルガ、大體ノ説明デゴザイマスル、ソコデ私ハ先ヅ是ダケノ事ヲ説明申上テ置キマシテ、然ル後ニ此委員會ニ於ケル修正ノ事ヲ御紹介致シタイト思フデアリマス、本案ニ對シマシテハ、討論ノ際ニ憲政會ノ鈴木富士彌君カラ修正ノ意見ガ提案セラレタデアリマス、即チ此陪審法ノ中、第二條ヲ修正スルト云フ御意見デアリマス、死刑又ハ無期ノ懲役、若ハ禁錮ニ該ル罪、刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪、之ヲ陪審ノ評議ニ付スルト云フコトニナル次第デアリマス、ソレカラ第四條ノ第一號ヲ修正スルト云フ御意見デアリマス、第七十六條ノ第二項、即チ辯護士ノ辯論ハ重複スルコトヲ得ズト云フコトヲ削ルト云フ修正ノ御意見、ソレカラ七十九條第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ一刑ノ加重減

免又ハ執行猶豫ノ原因ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルコトキ亦前項ニ同シ、之ガ鈴木君ノ修正意見デアリマス、ソレカラ決議條件デハ、ゴザイマセレバ、希望條件ト致シマス、鈴木君ノ述ベラレマシタ所ニ依レバ、第一ニ陪審法ヲ實施シテ其成績ヲ見ルト上他日適當ノ機會ニ於テ法條ニ左ノ如キ改正ヲ加フルコト、一、裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認メ更ニ事件ヲ他ノ陪審ノ評議ニ付シタルトキ其ノ陪審ノ新ニ爲シタル評議答申ハ裁判所之ヲ廢棄スルコトヲ得サル旨ノ規定ヲ設クルコト、二、陪審法ノ評議トアルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ設クルコト、三、陪審法ノ評議トアルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ設クルコト、四、皇室ニ對スル罪、内亂罪、外患罪、國交ニ關スル罪及騷擾罪(刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪)ニ該ル事件ハ之ヲ法定陪審(第二條)ノ範圍ニ加フルコト、四、刑ノ加重減免事若ハ被告人ノ申立アルトキ又ハ職權ヲ以テ其ノ事實ニ付陪審ニ副問ヲ發スルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ設クルコト、之ガ第一ノ希望條件、第二ノ希望條件ハ、前記改正要目中若シ帝國憲法ノ正條ニ低獨スルモノアルトキハ憲法改正ニ付慎重ノ考慮ヲ加フルコト、第三ハ、陪審裁判ニ干與スル司法官ハ特ニ練達堪能ノ士ヲ以テ之ニ補シ且ツ之ヲ優遇スルコト、此希望條件デアリマス、此希望條件ノ第一、第二ニ對シテハ、政府ハ今日直ニ同意ヲ與ヘルコトハ出来ナイ、第三ノ點ニ付テハ、大ニ此希望ヲ諒トスルノミナラズ、之ヲ歡迎スル、斯ウ云フ意味ノ答辯ガアリマシタ、ソレカラ國民黨ノ板野君カラ修正意見ハ、矢張大體ニ於テ鈴木君ノ修正意見ト似テ居ルデアリマス、是ハ第二議會ニ於キマシテ、國民黨ノ諸君カラ修正意見ヲ提案セラル、コトニナラテ居リマス、此處デ之ヲ申上ゲルコトハ極ク簡略ニ致シマスルガ、詰リ第一條ノ陪審ノ評議ニ付シテ事實ヲ認定セシムルト云フコトニ改ムルコト、ソレカラ第一條ニ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪、刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪、之ヲ陪審ノ評議ニ付スルト云フコト、ソレカラ第四條ノ陪審ノ評議ニ付セザルモノト致シマシテ、裁判所構成法第五十條第二末段ニ規定セル罪ト云フヤウナ點、マダ外ニモ修正ガアリマス、第九十一條ニ於ケル修正、第九十五條ニ於ケル修正、是ハ何レ委シク第二議會ニ現レマスカラ省キマス、ソレカラ庚申俱樂部ノ森下龜太郎君カラ第二十二條ニ對スル修正、即チ「第二十二條地方裁判所長ハ毎年十一月三十日迄第三十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格名簿ニ基キ各市

町村ヲ管轄スル區裁判所判事ノ意見ヲ聽キ翌年所要ノ員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ各市町村別ニ陪審員候補者名簿ヲ調製ス可シ」第二項「區裁判所判事ハ前項ノ意見ヲ述フルニ付市町村長ニ必要ナル資料ノ供給ヲ求ムルコトヲ得」斯ウ云フヤウナコト、ソレ以外ニ、第二十三條、第二十五條、第二十六條等ハ此修正ニ依リ結果トシテノ修正ナルデアリマス、即チ陪審員ヲ定ムルニ抽籤ニ依ラズシテ、地方裁判所長ノ意見ニ依リ陪審員ヲ選定スルコトニシタル宜カラウ、斯ウ云フ趣旨ノ修正デアリマス、ソレカラ作問耕逸君カラシテ、第十二條ノ第一項第四號ノ「讀ミ書キヲ爲シ得ルコト」トアルノ、之ヲ「義務教育ヲ卒ヘタルコト」斯フ云フヤウニ改ムルト云フ修正案ガ出タデアリマス、是等修正案ニ對シマシテ、先ツ各案ニ付テ採決致シマシタガ、鈴木案、板野案ソレカラ森下案、作問案ハ、何レモ少數否決デアリマス、ソレカラ原案ニ付テ決ヲ採リマシテ、殆ド大多數ヲ以テ可決セラル、ト云フコトニ相成ッタデアリマス、以上ガ此審查ニ於ケル經過及結果ノ報告ノ概要デアリマス、茲ニ私ハ極テ簡單ニ最後ニ一言スルコトヲ御許ヲ願ヒタイト思フデアリマス、我國ニ於ケル陪審制度ト致シマシテハ、此度ノ提案ガ初デアゴザイマスガ、御承知ノ如ク參座ト云フモノ、誠ニラレマシタト云フコトハ、明治六年——明治八年ニアル、然ラバ、斯ノ如キ思想ガ東洋ニ有タモノデアルカ、無カタモノデアラカト云フコトニ付キマシテハ、東洋ニ於テハ制度トシテハ現レマセケレドモ、斯ノ如キ制度ノ精神ハ極テ古イ所ニ現ハレテ居ルト申シタイデアリマス、ソレハドウデアラカト申シマスレバ、(周禮ノ中ノ司刺ノ中ニ「刺曰ク群臣ニ訊ル再刺曰ク群吏ニ訊ル三刺曰ク萬民ニ訊ル云々、民情ヲ求メテ然ル後刑殺ス」斯ウ云フコトデ一タビハ群臣ニ訊リ、再ビハ群吏ニ訊リ、三度ハ萬民ニ訊シ、而シテ民情ヲ求メ、然ル後ニ或ハ刑シ、或ハ殺スト云フコトガ周禮ノ司刺ノ中ニアルデアリマス、ソコデ諸君ノ極テ御承知ニナラテ居リマス、孟子ノ中ニ「左右皆殺ス可ジト曰フモ聽ク勿レ、諸大夫皆殺ス可ジト曰フモ聽ク勿レ、國人皆殺ス可シト曰ヒテ然ル後之ヲ察シ、殺ス可キヲ見テ然ル後之ヲ殺セヨ」斯ウ云フヤウニ書イテ居ルハ、孟子ノ一家言デハナイデアリマス、周ノ時代ノ制度ヲ彼ガ説イタニ過ギナイデアリマス、斯様ニ考ヘテ見マスルト、此支那ノ制度ガ唐ニ傳ハリ、唐代ニ於テ裁判ノ一番ノ必要ナル事柄ハ、民情ヲ求ムルト云フコトニアルデアリマス、唐ノ制度ガ我國ニ傳ハテ、矢張同ジ民情ヲ求ムルト云フコトガ、極テ重要ナコトニ相成テ居ルデアリマス、而シテ事實ノ判斷ト云フモノハ、即チ此民情ヲ求ムルト云フコトニ外ナラヌデアリマス、ソレカラ更ニ此民情ヲ求ムルト云フコトハ、ドウ云フコトニナ

ルカト言ハバ唯法律的ニ冷酷ニ流レル所ノ裁判ノ弊ヲ矯
 メテ、民情ニ依テ極テ寛大忠恕ノ政治ヲスルト云フ事柄ガ
 民情ヲ求ムルト云フ刑政ノ本領デアリマス、明治二年九月
 ニ刑律改撰ノ詔ト云フモノヲ御發布ニナシテ居ルデアリマ
 ス、是ハ私ハ諸君ト共ニ茲ニ一言此詔勅ヲ拜讀スルコトヲ
 許サレタト思フデアリマス「我大洲ノ國體ヲ創立スル途
 古ハ措テテ神武以降二千年寛恕ノ政以テ下ヲ率ヒ忠
 厚ノ俗以テ奉ス大寶ニ及シテ唐令ニ折衷ス雖モ其律ヲ施
 スニ至テ上ヲ常ニ常律ヨリ寛ニス其間政ノ汚隆時ノ治亂
 ナキニ非サルモ大率光被ノ德外蒸ニ及フ保元以降乾綱紐
 ヲ解キ武士權ヲ專ラニシ法律以テ政ヲ爲シ刀鋸以テ下ヲ
 率ユ寛恕忠厚ノ風遂ニ地ヲ掃フ今ヤ大政更始宜ク古ヲ稽
 へ今ヲ明ニシ寛恕ノ政ニ從ヒテ忠厚ノ俗ニ復シ、萬民所ヲ
 得テ國威始テ振フヘシ頃者刑部新律ヲ撰定スル時仍テ茲
 旨ヲ體シ凡ハ八虐故殺強盜放火等ノ外異常法ヲ犯スニ非
 刑ハ無刑ニ歸スルニ在リ宜シク商議シ以テ上聞セヨ」斯様
 ナ詔勅ガ出テ居リマシテ、此詔勅ニ從ヒマシテ、更ニ立案セ
 ラレタレドゴザイマスルガ、斯ウ云フヤウナ精神ガ既ニアル
 デアリマス、ソレカラ委員會ニ於ケル質問應答ノ結果ト致シ
 マシテ、外國ニ於ケル陪審制度ノ傾向ハドウデアリカト云フ
 ヤウナ事、陪審員ガ之ヲ好ムカドウカト云フヤウナ事ニ對スル
 所ノ質問應答ガゴザイマシテ、大陸ニ對スル答辯ハゴザイマ
 シタガ、併ナガラ英國ニ對スル方ノ答辯ハナイデアリマス、
 私ノ思ヒマスルニ、詰リ此陪審制度ヲ施クト云フ事柄ハ、
 第一ニ民情ヲ求メル、ソレカラモウツハ吾々ノ——是ハ私
 ガ思フノミナラズ、司法大臣ノ說明ニアルノゴザイマスルシ、
 法制審議會ニ於ケル前原總理大臣ノ御演說ニモゴザイマ
 スルガ、吾々ガ立憲政治ヲ施行スルニ當リテ、吾々ハ立法ノ
 部ニ於テ民意ヲ發揚スル場所ヲ求メテ居ル、吾々ハ自治制
 度ノ上ニモ民意ヲ發揚スル途ヲ求メテ居ル、然ルニ司法ノ
 部ニ於テハ、人民ハ入ルベカラズト云フヤウナコトニナシテ居
 ルハ、立憲政治トシテ完全ナリト申スコトハ出來ナイ、此意
 味ニ於テ司法部ニ民意ヲ入レル、又裁判ガ此民意ヲ重シ
 テ裁判ヲスルト云フヤウナコトニナルコトハ必要デアアルマ
 イカ、斯様ナ說明デゴザイマシタガ、此意味ハ詰リ警察部ニ
 致シマシテモ、司法裁判ノ上ニ致シマシテモ、今日ノ狀態ニ
 於テハ國民ハ常ニ司法警察ノ前面ニ在ルノデアアル、國民ハ
 常ニ司法警察ノ敵ニナシテ居ルノデアアル、貴様一寸來イト斯
 ウ言ハレ、バ警察ヘ出ナケレバナラヌ、呼出サレ、バ證人ハ
 出ナケレバナラヌト云フコトニナル、證人ノ義務ガアルカラト
 云ウテ引張り出サレル、而モ國民ハ常ニ此前面ニ在リテ、或
 ハ司法權ノ敵ニナルコトガアリ、或ハ警察ノ敵ニナルコトガ

アリマスケレドモ、秩序ノ維持ト云フコトニ當リマシテハ、司
 法ノ背後ニ於テ、或ハ司法ト共ニ司法ノ後援ヲ爲シ、敵ノ
 後援ヲ爲スト云フヤウナコトハ、今日マデハ無カタノデアアル
 ソレデ此意味ニ於テ即チ司法ノ後面ニ吾々國民ヲ持ツ、司
 法ノ同列ニ吾々國民ヲ持ツ、事實ノ判斷ハ此國民ニ依ッテ
 之ヲ實行セシメルト云フヤウナコトニナルノハ、他ノ立法行
 政ト云フモノト對照致シマシテ、是ハ當然ノ事デハナカラウ
 カト云フヤウナ說明ガアッタノデアリマス、ソレカラ尙ホ是ハ
 所謂秩序維持ノコト、民情ヲ盡スコト、又人民ノ側カラ申
 シマスルナラバ、國民ノ側カラ申シマスルナラバ、前面ノ裁判
 官ト云フ者ノ裁判ニ依リマシテ、或ハ自由ノ拘束ヲ受ケル
 場合ガアルソレデ英國等ニ於キマシテハ、七八百年前以來
 陪審制度ヲ施行致シテ居リマシテ、或ハ英國ノ大憲章、或
 ハ英國ノ憲法政治ハ、此陪審制度、公衆裁判ノ制度ニ對
 セシメタト云ウテモ、差支ナイデアリマスガ、此國ニ於テハ、
 今日ト雖モ矢張此陪審制度ヲ以チマシテ、是ハ英國人ノ
 自由ノ守本尊デアアルト云フコトヲ言ウテ居ル位デアリマス、
 ソレカラ一千九百十三年ニ於テ、英國ノ陪審制度ニ關スル
 調査報告ガゴザイマスルガ、此報告ニ依リマシテモ、ドウシテ
 モ此刑事ノ事件ニ於テ、陪審制度ニ付スルト云フコトハ極
 テ必要ナモノデアアルト云フ答辯ガ出テ居ルノデアリマス、而
 シテソレハ制度ノ長所ハ人民ヲシテ法律ニ親シマシメ、法律
 ノ運用ヲ通俗化スルノ效ガ極デ大キイト云フコトヲ、最後ニ
 附加ヘテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスルシ、又獨
 逸ノ如キ國民ノ自由ガ多少或ル方面ニ於テハ拘束セラレ
 テ居ル、哲學者デアルトカ、學者ノ頭ニ思想ノ自由ト考ヘラ
 レテ居リマスルケレドモ、國民ノ日常生活ニ於テ大ナル自由
 ヲ抑ヘ付ラレテ居ル、斯様ナ國ニ於テハ、陪審制度ハ十分ナ
 ル發達ハ出來ナイ、ソレ故ニ斯様ナル國ニ於テハ、陪審制度
 ニ對スル幾ラカノ非難ガアル、佛蘭西ニ於キマシテハ、ナポレ
 オンガ陪審制度ヲ採用致シマシテ、此陪審制度ニ對シテハ
 佛蘭西ノ學者等ニ非難ガアルノデアリマスケレドモ、此佛蘭
 西ノ學者ノ非難、例ヘバ「タルド」等ノ非難ハ、陪審制度ハ
 事ニ依ルト感情ニ激シテ困ルケレドモ、併ナガラ今日ノ陪審制
 度ヲ廢シテ他ニ善良ナル裁判ノ方法ハ無イ、若シ善良ナル
 裁判ノ方法ヲ求メルナラバ、專門的、科學的判事ヲ以テ裁
 判所ヲ構成スル外ハナイ、ソレ故ニ今日ノ陪審制度ヲ改善
 スルニハ、科學的判事ヲ以テ裁判所ヲ構成スルノ途ヲ取ル
 ヲリ外ハナイ、斯ウ云フ論ヲ致シテ居リマスルガ、是ハドウ云
 フ事ニナルカト申シマスレバ、詰リ再犯、三犯等、吾々ノ社會
 ヲ毒害スル事ヲ重シク、斯様ナル者ニ對シテハ、一時ニ裁判
 ヲサシテハイカヌノデアアルカラ、是等ヲシテ眞ニ遷善悔悟ト
 云フヤウナ趣旨カラ見ルナラバ、科學的專門ノ判事ヲ以テ

裁判シテ宜カラウト云フニ過ギナイデアリマス、之ニ對シ
 テ獨逸ノ法理學者デアリ、而モ此佛蘭西ノ制度ヲ極テ能ク
 研究致シテ居リマス「コロー」ノ如キハ「ナポレオン」ハ流石
 ニ炯眼デアアル、彼ガ此陪審制度ヲ佛蘭西ニ施キマシテ、國
 民ノ法律感情、即チ東洋デ申シマスルナラバ民情デアアル、此民
 情ヲ求ムルト云フコトニカヲ注イデ、民情ノ在ル所ヲ裁判ノ
 上ニ現サント欲シタル所ノ「ナポレオン」ハ、流石ニ立派ナル
 炯眼ナル者デアアルト云フコトヲ言ッテ、稱讚致シテ居ルノデア
 リマス、斯様ナ次第デアリマスルカラ、先ッ此制度ニ當リマ
 シテハ、宜シク諸君ニ於カレマシテ、十分御討議ノ上ニ私一
 個人ノ考カラ申シマスルナラバ、願クハ此原案ニ御賛成ヲ願ヒ
 タイノデアリマス、甚ダ長イ時間ヲ取ッテ恐縮ノ次第デアリ
 マス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 是ヨリ討論ニ移リマス、通告順
 ニ依リマシテ發言ヲ許可致シマス、上島益三郎君

(上島益三郎君登壇)

○上島益三郎君 諸君、私ハ本案ニ對シテ絕對反對ノ意
 見ヲ持テ居ル者デアリマス、デ本案ハ政府ノ提出デアリマ
 スルガ、政友會ノ政綱ノ第一義デゴザイマスカラシテ、大
 數ヲ以テ通過スルコトハ固ヨリ何等ノ疑ノナイ所デアリマ
 ス、併ナガラ此普通ノ政治問題、又ハ法律問題ト異リマ
 シテ、只今鶴澤委員長カラ深切丁寧ノ御說明ガアリマシ
 タヤウニ、陪審問題ハ實ニ此國家百年ノ長計ニ關スルモノデ
 アツテ、吾々ハ單ニ目前ノ一時ノ弊害ヲ矯正スル所ノ對症
 的ノ考ヲ去テ、根本ノ二後世子孫ノ爲ニ永遠無窮ノ禍福
 利害ヲ慮ッテ、之ヲ決定シナケレバナラナイデアリマス、而
 テ只今鶴澤委員長ノ言ハレマシタ通りニ、歐羅巴諸國ニ於
 テモ、此陪審制度ノ弊害ニ非常ニ苦シク、多數ノ實際家學
 者ハ之ニ對シテ非常ナル反對ヲ表示シテ居ル事實ガアル、デ
 我國ニ於キマシテモ、此贊成スルト贊成セザルトヲ問ハズ荷
 毛實際ニ關係ノアル所ノ法律家ト云フモノハ、陪審制度ノ
 實際ノ結果ニ付テハ、前途一種ノ不安ナリ危惧ナリヲ、多
 少感ジテ居ラナイ者ハ恐ラクアルマイト考ヘマス、而シテ此大
 阪地方裁判所ノ所屬辯護士會ニ於キマシテハ、一昨年ノ
 一月ニ總會ヲ開キマシテ、陪審制度ハ我國ニ採用スベカラ
 ズト云フ決議ヲ致シテ居ルノデアリマス、斯ル次第デアリマ
 スカラシテ、私ハ此議場ノ形勢ガ可決セラル、コト判然タル
 ニ拘ラズ、事態ノ甚ダ重大ナルニ鑑ミ、此演壇ヨリ反對ノ意
 見、而モ此法曹界ニ於テ最モ有力ナル團體タル大阪辯護
 士會ノ有スル所ノ反對ノ意見ヲ發表致シマシテ、直接ニハ
 諸君ノ御參考ノ爲ニ一ニ供シタイ、又間接ニハ廣ク國民
 ニ向テ、只今鶴澤委員長ノ御報告ニナリマシタ陪審ノ可
 ナル所以下、サウシテ私ノ口ヲ藉リテ出ズル所ノ陪審ノ非ナ

ル所以、此利害雙方ヲ能ク總分ケテ、サウシテ今後此陪審ノ運用ニ參加シテ貴ヒタイト云フ考カラ、私ガ比演壇ニ立テテ諸君ニ暫時御清聴ヲ願フコト云フコトハ、私ノ重大ナル義務ノ一ツアラウト考ヘテ居リマス(拍手)先ツ多少理論マヤウニ涉リマスガ、第一ニ只今鴻澤委員長ノ御進ニナリマシタ如ク、陪審ノ議論ト云フモノハ矢張「デモクラシー」ニ其根本ノ基礎ヲ置クノデアリマス、政治上ニ民意ヲ代表スル爲ニ、各種ノ議會ヲ設ケルノデアリカ、司法上ニモ矢張民意ヲ代表スル爲ニ、陪審ト云フ所ノ代表機關ヲ設ケルノハ當然デアアル、大切ナル裁判ヲ單ニ官吏ノミニ一任スルト云フコトハ、是ハ甚ダ專制デアアルト云フ議論デアリマス、此議論ニハ私モ一種ノ敬意ヲ表シマス、謹聽ハ致シマス、併ナガラ一歩退イテ考ヘマシレバ、凡ソ此少數ノ權力階級ガ、自由ニ裁判官ヲ任命シ、自由ニ裁判官ヲ驅使シ、己ノ欲スル通りノ裁判ヲ爲サシメテ以テ生殺與奪ノ重大ナル權利ヲ、自己ノ掌中ニ握ルト云フ事ニ於テ、初テ其裁判ガ專制的デアルト云フコトガ言ヘルノデアリマス、我國ノ維新前、茲ニ歐羅巴ニ於ケル十八世紀マデノ状態ハ即チ此通りデアアル、併ナガラ今日ハ我國ニ於テハ決シテ然ラズ、判事ノ資格ハ法律ガ限定致スノデゴザイマス、憲法ハ諸君御承知ノヤウニ、文武諸官吏ノ任免ト云フモノヲ、少シモ法律ニハ委ネテ居ラナイ、特ニ裁判官ニ限テハ憲法ハ特別ノ規定ヲ以テ、全然法律ニ其資格ノ決定ヲ一任致シテ居ルノデアリマス、故ニ此裁判官ノ資格ト云フモノガ惡イ、今日ノ裁判官ガ一般民衆——國民ノ氣ニ入ル所ノ裁判官ニ乏シイト云フコトデアレバ、是ハ其資格ノ定メ方ガ惡イカテデアアル、諸君ハ此憲法ノ與ヘタル所ノ權利ニ依テ、國民ノ意思ニ從テ、此資格ヲ變ヘテ、國民ノ期待ニ副ワダケ、裁判官ノ資格ヲ定メテ、國民ノ希望ニ副フ裁判官ヲドシ、裁判所ニ送り込ムコトガ出來ルノデアリマス、而シテ此法律ハ裁判官ノ資格ヲ定ムルト同時ニ、一旦其資格ガ定テ、裁判官トナリマシタ以上ト云フモノハ、何人モ自由ニ之ヲ黜陟スルコトガ出來ナイ、其裁判官ハ終身官タル擔保ヲ受ケテ居ルノデアリマス、而モ此裁判官ガ裁判ヲスルノハ、自己ノ知識ナリ、經驗ナリ、良心ナリノ命ズル所ニ從フデアラ、國家ノ如何ナル權力モ一指ダモ之ニ觸ル、コトハ許サレナイノデアリマス、故ニ此組織ノ上、此系統ノ上カラ申シマスレバ、今日ノ裁判ハ專制的トハ正反對デアアル、而モ此判事ノ資格ヲ定ムルニハ、誰ガ定メルノデアアルカ、即チ國民ノ代表者タル所ノ諸君ガ、法律ヲ以テ之ヲ定メルノデアリマス、諸君ノ制定シタル所ノ法律ニ從テ任命セラレタル判事ハ、諸君ノ制定シタル所ノ手續ニ從ヒ、諸君ノ制定シタル所ノ法律ヲ適用スルノデアリマス、國民ノ意思ト云フモノハ、系統ノ上ニ於テハ、

總テ完全ニ司法ノ運用ノ上ニ現レテ居ルノデアアル、若シ其間ニ不完全ナルモノアリトスレバ、ソレハ法律ノ規定任用ノ資格ノ定メ方ガ惡イト云フコトトシ、六千萬ノ人民ガ直接ニ裁判官ヲシナケレバ、裁判官「デモクラシー」デナイト云フコトハ決シテ言ヘナイ、此ニ至テハ諸君ニ申上ゲナケレバナラナイ、言葉ノ不穩當デアアルコトハ、ドウカ御寛恕ヲ願ヒタウゴザイマス、是等ノ理窟ヲ棚ノ上ニ上ゲテ置イテ、籤ヲ抽イテ定メタ所ノ十二人ノ陪審員ヲ法廷ニ列ベテ、然リ若クハ然ラズ、鴻澤委員長ノ御報告ニアリマシタヤウニ、陪審ノ答ハ如何ニモ重大ニシテ、如何ナル複雜ナル所ノ事件ニ付テモ、恰モ病氣ニ罹リテ機嫌ガ惡イ子供ガ、母親ノ等ニ答ヘルヤウニ、然リ若クハ然ラズ、頸ヲ縦ニ振ルカ横ニ振ルカノ唯此一言行ノ返答デス、此一言行ノ返答ヲ聽イテ、其通り裁判シナケレバソレモ「デモクラシー」デハナイ、民意ヲ代表スルモノデアハナイト云フ理窟ハ、是ハ何處カラ出テ來ルノデゴザイマセウ(拍手)凡ソ民意ヲ代表スルト云フコトハ、總テ衆望ヲ荷ヒ、多數ノ民衆カラ選出セラレタル一事ニ依テ、吾々ガ之ヲ理解スルコトガ出來ルノデアアル、所謂代表、所謂民意、所謂參政權ノ行使、是等ノ事ト云フモノハ、總ア此多數人民ノ信任、即チ選舉ト云フコトヲ基礎トスルノデアリマス、選舉ナクンバ民意ナシ、民意ナクンバ「デモクラシー」ナシ、宛ニ明白ナル所ノ理由デアアル、抽籤ニ依テ小兒ノ戯ニモ劣タル所ノ籤ヲ抽クト云フ、其籤ニ當ラズト云フコトニ依テ、唯訟廷ニ立列ンデ居ル所ノ十二人ノ陪審員ガ、抑、何ノ權利ガアツテ、吾ハ國民ヲ代表スル、我輩ハ即チ國民ノ聲デアアルト云フコトヲ主張スルノ權利ガアリマセウカ(拍手)諸君、此一地方裁判所ニ於ケル陪審員ノ數ハ、私ハ正確ナコトハ申上ゲルコトガ出來マセウガ、恐ラク少クトモ一萬人、二萬人、多ケレバ二十萬人、三十萬人ト云フ人間ガアリマセウ、此多數ノ人間ノ中ニハ、固ヨリ智者モアレバ愚者モアル、賢者モアレバ或ハ惡人モアル、其智愚賢不肖ヲ問ハズシテ、其人ノ善惡邪正ヲ問ハズシテ、唯籤ニ當ラズト云フコトニ依テ、誰ガ出來ルト云フナラバ、諸君、世ノ中ニ代議政體程簡便ナ事ハアリマセウ、四百六十本ノ籤ガアレバ、立ドコロニ選舉モ要ラズ、運動モ要ラズ、衆議院ノ構成ガ出來ルデアリマセウカ、故ニ私ハ此點ニ於テ、單ニ「デモクラシー」ト云フモノヲ基礎トシテ、陪審ヲ肯定スルノ甚ダ不合理ナルヲ信ズルノデアリマス、ソレカラ第二ニ陪審ノ必要ヲ人權擁護ノ上ニ据エルコトデアアル、今日法官タル者ハ濫ニ人ヲ訊問シ、或ハ家宅搜索ヲ爲シ、或ハ未決勾留ヲ爲シテ、人權ヲ蹂躪スル惡弊ガアル、此惡弊ハ人民ヲ司法ニ參與セシメタ後ニ於テ、初

テ之ヲ防止スルコトガ出來ルノデアラ、官吏ノミニ一任スレバ、到底惡弊ガ絶エルコトガナイ、即チ陪審ハ人權擁護ノ止ノ最モ有力ナル方法デアアルト云フ説デアリマス、此説モ成程尤ナコトトシテ、之ニ對シテ敬意ヲ表スルケレドモ、併ナガラ此議論モ其内容ハ甚ダ私ハ貧弱デアラウト考ヘル、何トナレバ諸君ノ御承知ノヤウニ、成程事實ニ於テ人權擁護ハ諸君ト其感ヲ同ジウスル者デアリマセウ、是等ノ人權擁護ノ行爲ト云フモノハ、悉ク公判前ニ表ハルノデアリマス、公判前殊ニ檢事若クハ司法警察官ノ處分ノ上ニ、人權蹂躪ト云フ惡弊ガ表ハレルノデアリマス、進ンデ豫審判事トナルト、人權蹂躪ノ非難ガ甚ダ少ナイ、更ニ進ンテ公判ニ移レバ、公判シテ辯護人ヲ付ケテ審判ヲスルノデアリマスカ、今日マデ人權蹂躪ノ非難ヲ公判廷ニ於テ現出ラシタコト云フコトハ私ハ聞キマセウ、斯ノ如キ次第デアリマスカ、若シモ此陪審ト云フモノヲ檢事ノ搜查處分ニ付シ、或ハ豫審處分ニ付スルト云フコトデアレバ、依テ以テ人權蹂躪ノ防止ト云フコトガ出來マセウケレドモ、豫審ニ付セズ、搜查ニ付セズ、而モ人權蹂躪ノ何等非難モナク、嫌疑モナク、虞モナイ所ノ公判ニ付スルノデス、人權蹂躪ニ何ノ關係モナク、人權蹂躪ハ諸君ノ御協贊ニナリマシタ刑事訴訟ノ改正ニ依テ、其大部分ハ殆ド防止ハ出來ルデアラウト考ヘル、又足ラザル所ハ、此手續ヲ改良シテ、依テ以テ人權蹂躪ノ防止ヲスベキモノデアアル、陪審ノ設置ニ依ラズバ人權蹂躪ノ防止ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイト云フコトハ、恰モ大阪ニ行カント欲シテ上野ノ「ステーション」ニ駈付ケルト同様デアアル、其間ニ何等ノ關係、何等ノ交渉ノナイト云フコトハ、諸君ガ實際ノ手續ヲ御承知ニナラデ居ル御方ニハ、私ハ恐ラク異議ノアルマイコトデアラウト考ヘル(ノウ)尙ホ茲ニ一言致シマスルノハ、陪審法ノ規定ハ私ノ考ヲ以テスレバ、或ハ寧ロ此人權蹂躪ノ問題ヲ大キクスルヤウナ事ガアルカト云フコトヲ憂ヘル、何トナレバ人權蹂躪ハ悉ク被告ニ自白ヲ強イント欲スル所カラ出テ來ルノデアリマス、而シテ陪審法ハ被告ノ自白ト云フコトニ重キヲ置イテ居ル、被告ガ自白スレバ陪審ヲ付ケナイ、自白ヲシナイ場合ニ陪審ヲ付ケル、斯様ニ陪審ヲ被告ノ自白スルト否トニ掛ケテ居ルノデアラカラ、檢事司法警察官ハ勢ヒ從來ヨリハ尙ホ一層力ヲ盡シテ被告ニ自白ヲ強ユルト云フコトニ熱中スルコトハ、是ハ事實ノ當然デアアル、隨テ此機會ニ於テ人權蹂躪ガ行ハル、懸念ガ生ズルコトハ、吾々ハ是ハ當然デアラウト考ヘルノデアリマス、ソレカラ第三ニハ私ハ此陪審ト云フモノハ、司法ノ根本ノ性質ト矛盾シテ居ルモノデアラウト私ハ考ヘル、此政治ハ多數人民ノ一般的ノ支配デアリマシテ、總テノ國民ガ其利害間

ニ係ケタ所ノ國ト云フモノハ、未ダ一箇國モナイノデアリマス
此故ニ此陪審制度ガ有ルト無イト云フコトハ、決シテ此文
明國ノ汚點ニモナラナケレバ、缺點ニモナラナシト云フコトガ
此事實ガ私ハ證明シテ居ルトスルヘマ、私ハ此機會ニ於テ
陪審ノ弊ヲ實際的ニ證明スル爲メ、一ノ例ヲ申上ゲル
コトヲ御許願ヒタイト思ヒマス、ソレハ總テ今日ノ社會的
科學ノ研究ト云フモノハ、物ノ現實性、即チ「リアリテイ」ト
云フモノガ、今日ノ科學ノ特色デアリマス、單ニ空疎ナル理
論ノミデ、制度文物ノ改廢ヲ期スベキモノデナイト云フコト
ハ明カデアリマスカラ、私ハ甚ダ僥倖デアリマス、ケレドモ、狹
隘ナル知識ノ中カラ、二三ノ例ヲ申上ゲテ、如何ナル弊害ガ
アルカト云フコトヲ、一班ニ依テ、全豹ヲ推測スルコトヲ諸
君ニ御願ヒ致シタイト思フデアリマス、テ甚ダ陳腐ナル例
デアリマス、ケレドモ、佛國ニ於ケル最モ顯著ナル弊害トシテ、
總テノ教科書ニ書カレテ居ルノハ、即チ決斷ノ裁判デアリマ
ス、決斷ハ詰リ正義ヲ劍ノ尖先ニ置クノデアデ、野蠻ノ遺
習デアルト云フコトハ、識者ノ常ニ唱ヘテ居ル所デアアル、而シ
テ佛蘭西ノ刑法ニ於キマシテモ、千八百三十七年ノ六月
二十一日、有名ナル大審院ノ判例ガアリマシテ、之ニ依テ
立派ニ犯罪トシテ罰スルノデアアル、故ニ決斷ヲシテ相手方ヲ
殺ス、檢事ハ是ハ殺人罪トシテ重罪裁判所ニ起訴スル、重
罪裁判所ノ陪審ハ、故ナクシテ之ヲ無罪トスル、若シ殺サズ
シテ單ニ相手方ヲ傷ケル、檢事ハ之ヲ傷害罪トシテ輕罪裁
判所ニ起訴スル、輕罪裁判所ハ陪審ガナイ故ニ、判事ハ法
律ノ精神ニ從テ之ヲ有罪トスル、罪重クシテ人ヲ殺セバ
無罪トナリ、罪輕クシテ人ヲ傷ケレバ有罪トナル、不權
衡是ヨリ甚ノキハナイ(「ヒヤ」)此ニ於テ、檢事モ一切ノ
決斷罪ニ對シテ起訴ヲ見合ハスヤウニナリマシテ、人ヲ
傷ケ人ヲ殺ス決斷罪ト云フモノガ、其後ニ於テハ白晝公行
スルコト大ノ咬合ヒ、鷄ノ蹴合ト相異ラナイノデアリマス、此事
ガ餘リ甚シキニ至ラザルト云フコトハ、唯是ハ文化ノカデアリマス
斯様ナ白晝殺傷行爲ヲシテ、其殺傷行爲ヲ國法ガ禁ズル
コトガ出來ナクシテ、偏ニ文化ノ力ニ待ツ、是ハ私ハ國法ノ
恥辱デアルト確信スルノデアリマス、又著シキ例ヲ舉ゲマス
レバ、嬰兒殺「エシファンシド」ト云フ初生兒ヲ殺ス罪ガア
ル、生レタ子供、墮胎トハ違フノデアリマス、立派ナ人間ヲ殺
シテシマフ、此嬰兒殺ハ普通ノ立派ナ謀殺又ハ故殺罪デア
リマス、佛蘭西ノ法律ハ特ニ產婦ノ事情ヲ斟酌ヲ
致シマシテ、普通ノ殺人罪ヨリハ減刑シテ、重キトキハ無期
懲役輕キトキハ有期懲役ニ處スルト云フ規定ニナリテ居ル
ノデアリマス、然ルニ實際ハ如何デアルカ、初生兒ヲ殺ス、之
ヲ重罪裁判所ニ起訴スル、私ハ子供ヲ殺シマシタ、併ナガラ
是ハ貧苦ノ爲デアリマス、陪審員曰ク無罪、私モ子ヲ殺シマ

シタ、私ハ不義ノ子デアリマシテ、世間ニ面目ナイカラ殺シマ
シタ、殺入ノ邪惡ニナルカラ殺シマシタ、陪審員曰ク無罪、此
嬰兒殺ト云フ人殺ノ犯罪ガ、今日モ明日モ是ハ重罪裁判
所デ悉ク無罪ニナリテ居リマス、單ニ之ガ斯様ナ一ツノ犯罪
ノミデハゴザイマセズ、他ニ多數アルノデアアル、之ニ關聯シテ
申上ゲレバ、婦人ニ對スル女ニ對スル、所ノ犯罪ト云フモノ
ハ、其統計ニ於テ百分ノ六十ガ豫審ヲ經タル事件ハ無罪ニ
ナルノデアアル、而モ其中テ女ガ人ヲ殺スト云フ罪、就中此男
ヲ殺スト云フ罪ハ悉ク是ハ無罪デアアル、殆下是ハ例外ナシニ
無罪ト云フテ宜イト云フコトハ、先輩ガ「其事情ニ通ジテ
居ル先輩ガ擧ゲテ、吾々ニ語ル所デアリマス、諸君モ御承知
ノヤウニ、先年日本ノ新聞ニ迄電報ガアッテヤカマシカ、マ
ダム、カイヨ」ノ人殺事件ノ如キ、矢張無罪デアッタ、ダカラ
シテ此男子ヲ殺スヤウナ罪ハ、婦人ハ其後顧ノ憂ガナクシテ
犯スコトガ出來ルノデアアル、唯男子ヲ殺シタ場合ニ幾分カノ
間、未決勾留ヲ受ケルト云フコトガ、唯一ノ制裁デアルト云
フガ如キ有様ニナリテ居ルノデアリマス、佛國ニ於ケル陪審ノ
實際ノ有様ガ此通りデゴザイマスカラ、私ハ決シテ諸君ノ司
法改善ノ意ニ反對スルノデモナケレバ、其精神ニ反對スルノ
デモナイ、反對スル爲メ、反對ノ意思ハ毛頭ゴザイマセズケレ
ドモ、此佛國ニ於ケル所ノ、或ハ伊太利ニ於ケル所ノ、拉
丁民族ノ性格ト云フモノト、日本人ノ性格ト云フモノハ極
テ相近似シテ居ルト云フ點カラ見レバ、恐ラクハ是ハ日本ニ
實施シタ後ニモ、佛國ノ如キ或ハ伊國ニ於ケル所ノ、拉丁民
族ノ國ノ弊害ト、同ジ弊害ヲ日本ニ現實シハスマイカト云
フコトヲ私ハ衷心カラ憂フルノデアリマス、ソレデ此頃ハデス、
産兒制限論デ有名ナル「サンガ」夫人ガ來朝スルト云フ事
ニ付テ、政府ハ非常ニ頭ヲ御悩シニナテ、殆下一箇月間上
陸ヲ許可スルカ許可シナイカト云フコトヲ御考慮ニナリテ居
ル、洵ニ之ハ慎重ナルヤリ方デアアル、然ルニ此嬰兒殺、或ハ男
子殺ノ此事件ヲ擧ゲテ無罪ニシテ、殆下之ヲ公許スルガ如
キ履歷ノ付イテ居ル陪審制度ヲ容易ク我國ニ上陸セシメ
テ、十日ノ間ニ衆議院ヲ通過シテ、確定議トシヤウト云フ此
事ハ、私ハ政府ノヤリ方ハ、一面ニハ餘リ小膽デアッテ、一面
ニハ餘リ大膽デアルト考ヘマス、ソレカラ第五ニハ私ハ此陪
審ノ存在ハ、此裁判ノ存在ト兩立スベカラザル不合理ノ性
質ヲ持テ居ルト云フ事ヲ申上ゲテ置キタイ、總テ此事實ノ
判斷ト云フモノハ、自己良心ノ満足スベキ證據ヲ十分ニ取
調ベテ、良心ノ得心ヲ得タ上デナケレバ、出來ナイト云フコト
ハ明カデアリマス、而シテ陪審ハ本法ノ規定スル所ニ依リマ
シテモ、證據調ヲスルノ權利ヲ持テ居ラナイ、唯法廷ニ現レ
タル所ノ被告人及證人ニ向テ、裁判長ニ告テ問ヲ發ス
ルダケデアリマス、其他ニ總テノ必要ナル證據調、此證據調

ヲ自カラ請求スルコトハ許サレテ居ラナイ、自ラ決定スルコ
トハ無論許サレテ居ラナイ、其裁判ニ付テ意見ヲ述ブルコト
モ許サレテ居ラナイ、全然證據調ニハ陪審員ハ無關係既ニ
諸君モ十二分ニ御承知ノ如ク裁判ト云フ上ニ於テ、百聞
ハ一見ニ如カズト云フ彼ノ實地檢證ノ場合、法廷内デ取
返シノ出來ナイ「補充」ノ出來ナイ唯一ノ檢證ヲスル場合
ニモ、陪審員ハ之ニ立會スルコトガ出來ナイ、斯ノ如クニシ
テ自己ノ良心ノ満足スベキ、良心ノ確信ヲ得ベキ證據調ヲ
スルコトノ出來ナイ陪審員ニ、汝ハ此事件ノ判斷ヲ爲スベ
シ、證據調ヲスル判事ニハ、汝ハ判斷ヲ爲スベカラズ、斯ノ如
キ制度ト云フモノハ、是ハ冷靜ニ私ハ御聽取ヲ願ヒタイ思ヒ
マスルガ、全ク是ハ心證ト云フモノト、判斷ト云フモノヲ二ツ
ニ分ケルノデス、心證ト判斷ト云フ二ツニ分ケテ如何ニシテ物
ノ現實、物ノ眞實ト云フコトガ發見スルコトガ出來ルノデア
リマセウカ、恰モ之ハ陪審員ニ向テ正確ナル事實ノ判斷ヲ
求ムルト云フコトハ、旨ニ物ヲ見ヨト命ズルト同ジデアアル、ソ
レダケノ權利ガ與ヘラレテ居ラナイ、故ニ陪審ノ判斷ガ往々
ニシテ盲滅法ノ當推量ニナル、之ハ數ノ免カレ可カラザル所
デアラウト私ハ考ヘル、故ニ歐羅巴諸國ニ於ケル立法例ト
同ジク、我が此陪審法ニ於キマシテモ、第八十八條ニ於テ
先刻申上ゲマシヤウニ、陪審ノ判斷ト云フモノハ、然リ、或
ハ然ラズトノ規定十分デアアル、是レ以上ニ事由ヲ附スルコ
トヲ許サナイ、理由ヲ附スベカラズト云フコトノ規定ニナリテ
居ルノデアリマス、併ナガラ吾々カ冷靜ニ考ヘマス、吾々ノ
身體、生命、財產、是等ヲ處分スルノ權利、即チ生殺與奪ノ
權利、地上ニ於テ是レ以上人間ニ取テ重要ナル所ノ問題
ハナイ、其最重要ノ問題ヲ何等ノ理由ヲ示サズシテ、自由ニ
之ヲ生殺與奪スルコトガ出來ルト云フ事柄ハ、實ニ私ハ責
任ト云フモノ、觀念ニ對シテ、兩立スベカラザル制度デア
ルト考ヘル、理由ヲ附セザル裁判ハ即チ闇黒ノ裁判デアリマス、
闇黒ト云フコトハデス、或ハ脅迫、或ハ請託、或ハ情實、或ハ
愛憎、或ハ賄賂、有ユル惡徳ト云フモノ、伏在スル所ノ伏魔
殿デアアル、此闇黒ノ裁判ガ英吉利ニ於テ甚シキ弊害ヲ現サ
ナイト云フコトハ、是ハ畢竟此「サクソン」人種ノ性格ノ然ラ
シメル所デアアル、訓練ノ然ラシメル所デアアル、此闇黒ノ裁判
ガ既ニ英吉利カラ一步海ヲ渡テ佛蘭西ニ行キ、獨逸ニ行
ケバ、是ハ重大ニシテ殆下國人ノ堪ヘ忍ブ事ノ出來ナイヤウ
ナ弊害ヲ現シテ居ルノデアリマス、有名ナル心理學者、社會
學者ノ「ギユスターブ、ルボン」ト云フ人ハ、民族心理ニ付テ
書物ヲ著シテ總テ同一ノ制度デモ、同一ノ思想デモ、サクソ
ン」ト拉下ト兩民族ノ間ニ全く異ク、各方面ニ效果ヲ發生シ、
現象ヲ發生スル、所謂此江南ノ橋ガ江北ニ行テ積トナル、
民族ニ從テ其心理ニ從テ、全ク同ジ物ガ別々ニナルト云

フコトヲ極論シテ居ル、陪審ハ即チ其一例デアリマス、私ハ英、佛兩國民ノ相隔ツルヨリハ、我國ト英吉利ノ國民ノ人情、風俗、歴史、習慣、性格ト云フモノハ、更ニ百倍、千倍ノ隔リガ多クト云フコトニ著目スル、而シテ此英、佛兩國ノ間ニ於テモ、陪審制度ガ如キ相違ノアル結果ヲ發生シテ居ル、然ラバ之ヲ我國ニ移シ來テ、サウシテ鵜澤委員長ノ申サレマシヤウニ、英吉利ニ於ケル完全ナル效果ト同一ノ美果ヲ我國ニ收メント致スモノデアルト云フコトヲ論斷スルノハ、蓋シ私ハ餘リ大膽ニ失シテ居ナイカト云フコトヲ心配スルノデアリマス、尙ホ今日ハ總テ秘密ト云フコトヲ斥ケル、内治ニ、外交ニ、行政ニ、立法ニ、總テ暗黒ヲ排シ、秘密ヲ斥ケル今日ノ世ノ中デアル、此世ノ中ニ於テ、人ノ身體、生命財產ヲ與奪スル所ノ此大切ナル司法裁判ニ、單リ理由ヲ付セザル秘密ノ裁判、暗黒ノ裁判ヲ許容スルト云フコトハ、私ハ申シ過ギテハゴザイマセウケレドモ、自分ノ心ノ中デアハ斯ル陪審制度ノ存在ハ、全ク歴史ノ隋力ニ於テ西洋ニ存在スルニ過ギナイ、寧ロ其存在ハ、二十世紀文化ノ恥辱デアルト考ヘルデアリマス、歴史ノ隋力ガアレバ、如何ナル事デモ人ガ注意セズニ通スト云フコトハ、亞米利加ニ於テ「リンチ」ガ存在スレバ、「リンチ」ヲ公行シテ憚ラナイノ少シモ異ル所ガナイト思フデアリマス、此機會ニ於テ、私ハ陪審ノ不合理カラ生ズル一例トシテ、鵜澤委員長ノ舉ゲラレマシタ陪審ニ對スル無原因ノ忌避權ニ付テ一言シタイ、若シモ此陪審ト云フモノガ民意ヲ代表スルモノデアラナラバ、原因無シニ之ヲ忌避スルコトガ出來ルトハ何事デアリマスカ、何等ノ原因ヲ示サズシテ忌避スルコトノ主張ハ、私ハ容レルコトハ出來ヌ、而シテ此無原因ノ忌避權ト云フコトガ、如何ナル方面ニ依リテ利用サレテ居ルカ、西洋ニ於テハ吾々先輩ノ説ニ依リテ依リマスレバ、總テ無原因ノ忌避權ト云フモノハ、被告人ニ依リテ常用許リサレテ居ル總テ教育ノアリサウナ、物ノ分リサウナ人間ハ、片端カラ忌避シテ行ク、成ベク御人好シシ、大キナ聲デ言ハバ當ニスルヤウナ人間ヲ定メテ置イテ、其陪審員ニ對シテ隨分無責任千萬ナル議論ヲスル、斯ノ如クシテ被告人ノ爲ニ萬一ヲ僥倖スルト云フ弊害ガアル、此弊害ガ歐羅巴ニ於テ顯著デアルト云フコトハ、蓋シ諸君モ十二分ニ御承知ノ事ト考ヘマス、現ニ巴里ニ於ケル重罪裁判所ノ公判デ、第一流ノ立派ナル辯護士ガ、陪審員ニ對シテ陪審員諸君ハ證據ノ十分ナル、サウシテ犯罪ノ責任ノ顯著ナル事件ニ對シテモ、無罪ノ判決ノ言波ガ出來ナイト云フ答ハナイ、諸君ハ毎日婦人ニ對スル嬰兒壓殺等ニ付テ、無罪ノ判決ヲシテ居ルデハナイカ、陪審員諸君ハ可哀相ト思ヘバ、本件ニ對シテ無罪ノ判決ヲシナイサイ、斯様ナ趣旨ノ無責任千萬ナル辯

論ヲシタコトヲ私ハ書物ノ上デ讀シタコトガアリマス、是等ハ畢竟西洋ニ行ハル、所デアテ、我國ニ於テモ是ト同一ノ弊害ヲ生ズルト云フコトハ、固ヨリ斷言シ能ハザル所デアリマスケレドモ、併ナガラ此兩民族ノ性格ノ相似タル點カラ考ヘレバ、是ト同時ニ斯様ナル弊害ガ我國ニ斷ジテ生ズナイト云フコトヲ、何人ガ保證シ得ル者ガゴザイマセウ、ソレカラ第六トシテ、私ハ陪審ト云フモノハ、極テ公衆心理ニ動カサレ易キ最大ノ危險性ヲ帶ビテ居ル、而シテ此危險性ハ司法ノ威信ヲ失墜セシムル所ノ最モ惡質ナルモノデアルト云フ意見ヲ一言申上デ置キタイデアリマス、今日ハ所謂「プロバカンダ」ノ世ノ中デアリマシテ、ドンナ事デモ善カレ惡カレ總テ之ヲ世一宣傳ヲ致シマシテ、多數ノ力ヲ以テ其目的ヲ貫徹セントスル傾向ガ、追々顯著ニナツテ參リマス、而シテ人ノ動作ヲ決定セシムル所ノ心理ニハ、御承知ノヤウニ個人ノ心理ガアル、共同心理ガアル個人トシテ冷靜ニ考フレバ誠ニ馬鹿々々シクシテ、何故ニア、云フ事ヲシタカ譯ノ分ラヌ事モ、共同心理デ動カサレル場合ニハ譯モナク興奮シテ、之ヲ實行スルモノデアリマス、而シテ此共同心理ハ、人ガ密集スレバ所謂群衆心理ニナリ、散在スレバ所謂公衆心理ニナテ來ル、共ニ個人ノ思考ヲ離レタ、判斷ヲ離レタ妄斷ニ出デシムルコトハ同一デアリマス、野蠻時代ニハ密集シテ談話ヲ交換スル外、宣傳ノ機會ガアリマセウニ進ムニ從ヒマシテ、アテ公衆心理無シ、然レドモ追々教育ノ進ムニ從ヒマシテ、新聞、雜誌、印刷物、總テノ方法ニ依リテ、最モ廣ク、最モ多ク自己ノ思想ヲ宣傳スルト云フ、即チ公衆心理ヲ煽動スルト云フコトノ争ヒガ増加シテ參ルノハ今日ノ勢ヒデアリマス、假令今重大被告トシテノ刑事事件ガ起ルトシテ、サウシテ此被告人ニ對スル保護者或ハ反對者ト云フモノガ、全力ヲ盡シテ被告人ノ利益或ハ不利益ノ爲メ、盛ニ宣傳スルト云フコトヲ假定致シマス、此場合ニ於テ、此宣傳ガ陪審ニ對スル影響ニ想ヒ到ラナラバ、吾々ハ實ニ寒心ニ堪ヘヌデアアル、斯様ナ場合ニ於テ、新聞、雜誌、其他ノ宣傳ト云フモノガ何トナク判事ノ四圍ノ空氣ヲ重カラシメ、判事ノ自由ナル處分ヲ何トナク困難ナラシムル氣配アリト云フコトハ實際ノ事實デアアル、故ニ例ヘバ茲ニ或ル一地方ニ於テ、非常ナ暴威ヲ揮ウテ居ル一人ノ親分ガアルト假定シテ、其被告事件ガ起リマシタトキハ、常職ノ判事デアレバ、自己ノ終身ノ名譽、自己ノ終身ノ榮辱、自己ノ終身ノ禍福ガ之ニ繫テ居ルノデアアルカラ、總テノモノヲ賭シ、總テノモノヲ犧牲トシテモ、斷然タル自信ノ許ス裁判ヲスルデアリマセウケレドモ、陪審ハ其日限り、其場限りデアアルカラ、其陪審ガ果シテ四圍ノ壓迫ニ抵抗シテ、自己ノ總テノ危險ヲ犯シテ、斷然タル判決ヲ下シ得ルカ、下シ得ナイカト云フコトハ、是ハ非常ニ

考慮スベキモノデアルト思フ、斯ウ云フ場合ニハ他ニ裁判管轄ヲ移ス規定モアリマスガ、ソレハ今日マデ當テ實行シタコトガナイ、是ハ特別非常ナ場合デアテ、其裁判管轄ヲ移シテモ、脅威ノ手ハ直ニ新ナル管轄ニ向テ及ブコトヲ禁ズルコトハ出來ナイデアリマス、無論此陪審法ニ於テ、斯ウ云フ外部カラ陪審員ノ心裡ヲ攪亂スル危險ヲ慮テ、裁判ノ言渡マデハ陪審員ニ歸宅ヲ禁ジテ、一切外部トノ交渉關係ヲ禁止致シテ居リマスケレドモ、是ハ公判ノ宣告マデ、公判開廷前ニ宣傳威壓ト云フコトハ、是ハ如何トモスルコトガ出來ナイデアリマス（「簡單」ト呼フ者アリ）ドウカ暫ク御謹聽ヲ願ヒタイ（「謹聽」ト呼フ者アリ）私ハ愚論取ルニ足ラナイコトデゴザイマセウケレドモ、多年自分ノ確信スル所デアテ、正心誠意國益ノ爲ニ一般民衆ニ此陪審ノ利弊ヲ諒解シテ戴ク爲ニ申上デ置クデアリマス、御耳ヲ藉シテ下反對論ニ對スル所ノ憎惡ノ感情ヲ去ラセ、御耳ヲ藉シテ下サルヤウニ御願ヒ致シマス、私ハ此機會ニ於キマシテ、更ニ物ノ實際ヲ申上ゲル趣旨ニ於キマシテ、物ノ現實ヲ明カニスル趣旨ニ於キマシテ、更ニ一ツノ例ヲ私ハ申上ゲタイ、是ハ近代ニ於ケル所ノ大事件デアテ、其判決ガ全世界ヲ驚倒セシメタル所ノ「ラウールピレン」ト云フ者ノ佛國ニ於ケル事件ガアル、諸君モ御承知ノヤウニ千九百十四年ノ七月三十一日ニ、此「ピレン」ト云フ者ガ有名ナル佛國ノ社會黨ノ領袖「チャヤンジョー」ト云フ者ガ有名ナル佛國ノ社會黨於テ食事中ニ暗殺シタ事件ガアリマス、此「ジョー」ト云フ人ヲ「ラウールピレン」ト云フ青年ガ賣國者ナリト誤信ヲ致シマシテ、二日間此人ヲ附狙ウテ、二挺ノ拳銃ヲ懷ロシテ、遂ニ珈琲店ニ於キマシテ其目的ヲ達シタデアリマス、此事件ハ證據ガ明瞭デアテ、犯人ガ其場ニ於テ捕ヘラレタ、其時ニ自分ハ此「ジョー」ヲ暗殺シタル事ニ依リテ、國賊ヲ掃蕩シタルデアアル、此暗殺ニ依リテ自分ハ満足ト名譽トヲ感ズルト云フコトヲ公言致シテ、豫審ニ於テモ言ヒ、公判ニ於テモ言ウテ居ル、而シテ四名ノ鑑定人、專門ノ醫者ハ殆ト一年半ニ亙リテ詳細ナル鑑定ヲ致シマシテ、此犯人ハ犯罪ノ前ニ於キマシテモ、犯罪ノ時ニ於キマシテモ、犯罪ノ後ニ於キマシテモ、共ニ精神ニ異常ガ無イト云フコトニ確定致シタ、而シテ此「ラウールピレン」ノ判決ノアル所ノ千九百十九年三月二十九日ヨリ一二週前ニ於テ、時ノ宰相デ威權赫々タル「クレマンソー」ニ對シテ暗殺ヲシテ遂ナカテ所ノ「エミールコテン」ト云フ無政府黨員ガアテ、此「クレマンソー」ニ對シテ八日ノ疾病ニ至ルダケノ輕イ傷ヲ負ハセタ、此人間ハ死刑ニ處セラレタ、然ルニ此有名ナル「ジョー」ハ社會黨員デアリマスケレドモ、其學力ト云ヒ、其雄辯ト云ヒ、其人格ト云ヒ、歷史上實ニ類ヒ稀ナル所ノ大人物ヲ誤

解ニ依テ殺シタ、此「ラウレル」は無論死刑ニナルコトデアラウト何人モ疑ハナカク、故ニ「ジョー」氏ノ遺族カラ裁判所ニ對シテ、ドウカ酌量減刑ニテ輕キ刑罰ニ處シテ吳レト云フコトヲ嘆願シタ、檢事モ同ジ意見デアアル、辯護人モ殆ド同ジ意見デアアル、唯辯護人ノ一人「ミ」ガ此陪審ニ對シテ、諸君ハ何者ヲモ無罪ニスル權力ヲ持ッテ居ル、諸君ガ今日此法廷ニ於テ御考ニスルベキコトハ、被告シテモ國家ノ爲ニ殺シタモノデアルカ、自己ノ利益ノ爲ニ、殺シタモノデアルカ、此二ツノ問題ヨリ外ナイ、是ダケヲ諸君ガ御考ニスレバ宜シ、若シモ國家ノ爲メデアテ利益ノ爲メデアテスレバ、國家ハ被告人ニ對シテ無罪ノ判決ヲスルコトガ諸君ノ義務デアアル、是ダケノ事デアリマス、之ニ對シテ即日ニ圖ラザリキ陪審ガ無罪ノ判決ヲ下シテ居ル、蓋シ此陪審ガ「ジョー」氏ガ社會黨ノ首領タリシコトヲ憎ミ、「ジョー」氏ガ社會黨運動ニ多大ノ援助ヲシタコトヲ事ヲ憎ミ、寧ロ「ビレン」ガ「ジョー」氏ヲ暗殺シタル事ヲバ衷心快シトシテ、欣然トシテ此辯護人ノ暴論ニ應ジテ、即日無罪ヲ言渡シタノデアリマス、斯ノ如クドウモ世ノ中立派ナル所ノ政治家、一面カラ言ヘバ士志仁人ヲ殺ス行爲ヲ所謂此屠牛場デ牛ヲ殺ス行爲ト同視ヲシテ、之ヲ不問ニ付シテ顯ミナイ、私ハ世道人心ノ爲ニ實ニ恐レベキ所ノ弊害ヲ生ジハシナイカ、之ヲ怖ル、ノデアリマス、ソレデ此結果ガ如何ト云ヒマス、此無罪ノ意外ナル判決ト云フモノハ、單ニ全世界ヲ驚カシタル、ミナラズ佛國ノ政界ニ於テ非常ナル大動搖ヲ來シタノデアリマス、總テ社會黨員即チ労働黨員、大戦ノ時ハ最モ忠實ニ働イタ所ノ此労働黨員、社會黨員ノ憤懣ト云フモノハ、極度ニ達シテ、此無罪ノ判決ハ即チ所謂「ブルジョワ」ノ陪審、所謂「クラス」ノ陪審、階級の資産家の陪審ガ、吾々社會黨並ニ労働黨ニ對スル宣戰デアルト云フコトヲ公言ヲ致シマシタ、越エテ四日ニ宣戰ヲシタ所ノ敵對的ノ「ブルジョワ」ノ陪審ニ對スル所ノ大々的ノ示威運動ガ始リマシテ、會スル者ガ四十万人、歴史有リテヨリ以來ノ最モ多數ノ盛大ナル示威運動ヲ致シマシテ、慷慨激昂ナル告文ヲ公ケニシテ、之ニ依テ本國ニ於ケル「ブルジョワ」階級ニ對シテ、反感ヲ煽クノデアリマス、是ヨリ後労働黨、社會黨ノ運動ガ頓ニ惡化シテ激烈トナリテ、佛國ノ政府ハ遂ニ已ムヲ得ズ「ター」デヲ使用シテ解散ヲ命ジテ、其首領株ヲ一網打盡ニ收監ヲシテ、以テ漸クニ一時ノ小康ヲ得タノデアリマス、是ハ決シテ押シテレモノデナイ、此陪審ノ弊害ト云フモノハ、斯ノ如ク吾々ガ最モ危険トシテ甚ダ恐レテ居ル階級のノ思想、階級のノ憎惡心ヲ火ヲ點ケテ團扇ヲ煽ルヤウニ煽リテ行クモノデアリマス、他年佛國ガ是等ノ社會黨員、労働黨員ノ暴動ニ依リテ、大革命ノ慘禍ヲ再ビ受クルコトガア

タナラバ、私ハ大部分ノ責任ハ不完全ナル民意ヲ代表セザル陪審ニ在リト云フコトヲ、私ハ斷言スルノデアリマス、ソレデ私ハ其次ニ一言致シテ置キタイノハ、私ニ對シテ君ノ議論ハ餘リ極端デアアル、成程陪審ガ不當ノ判決ヲスルコトガアルガ、ソレハ恐ラクハ十中ノ一二ニ過ギナイ、此十中ノ一二ニ過ギナイ不當ナル判決ヲ取リテ、其全體ヲ攻撃スルト云フコトハ、餘リ極端デアルト云フ議論ガ出ルダラウト思ヒマスガ、併シモ尤ニ違ヒナイ、其通りデゴザイマセウ、悉ク陪審ノ判決ヲ吾々ハ不當ナリト申シマセヌ、併ナガラ今日ノ所謂官僚裁判、之ガ百ガ百マデ悉ク不當デアアルノデハナイ、此不當ナル裁判ハ百中ノ一二ニ過ギヌノデハゴザイマセヌカ、舊幕時代ノ拷問裁判ト雖モ、拷問ニ依リテ口供結案ヲ作ル、口供結案ニ依リテ裁判ヲスル、此舊幕時代ノ裁判デモ、其不當ナル犯罪者ヲ罰スルト云フコトハ、恐ラクハ百中ノ二三ニ過ギナイと思フ、百中ノ二三ニ此缺點ガアルガ爲ニ吾々ハアノ制度ガ惡シ、此制度ガ惡弊ガアルト云フ議論スルノデアリマス、陪審制度ガ既ニ此顯著ナル有名ナル事件ニ付テ、今迄斯ノ如ク容シテ可ラザル所ノ缺點アル以上ハ、故ラニ好シク今日我國ニ多大ノ經費ヲ投ジテ、闇雲ニ輸入スル必要ハアルマイト私ハ考ヘマス、ソレカラ其次ニ陪審ノ裁判ハ絕對ニ裁判官ヲ拘束シナイ、不當ナル場合ハ裁判官ハ更ニ他ノ陪審ヲ選定シテ、其評決ニ付スルコトガ出來ルデヤナイカト云フ所ノ議論モアルノデアリマス、是モ御尤デアアル、陪審ノ弊害ハ此點ニ付テ幾分矯正スルコトガ出來ル、併ナガラ諸君若シ此理論ガ陪審制度ノ缺點ヲ宥恕スル原因トナレバ、吾々ハ第二審ハドウデモ良イ、上告審ガアルカラ、第一審ノ判事ハドウ云フ判事デモ宜シ、第二審ガアルカラ、第一審ハドウ云フ判事デモ宜シ、大臣ガ確カリシテ居レバ長ハドウ云フ人物デモ良イ、次官ガ確カリシテ居レバ局長レバナラヌ、ダカラシテ、陪審制度ノ善惡可ト云フコトハ總テ此陪審ノ弊害ヲ矯正シ得ベキ所裁判長ノ特別ノ非常ナル承認權ト云フモノヲ眼中ニ置カズシテ、陪審ノ自體ニ付テ徐ニ之ヲ研究シナケレバナラナイノデアリマス、最終ニ私ハ尚ホ諸君ノ御許ヲ得テ、モウ一ツ實例ヲ引クコトヲ御許可ヲ願ヒタイと思ヒマス——モウ長クハアリマセヌ（謹聴）歴史上ニ於ケル有名ナル裁判上ノ空前絶後ノ出來事ハ、諸君ノ御承知ノヤウニ佛國大革命ノ際ニ於ケル路易十六世ノ審判事件デアリマス、是ハ革命政府ノ民約議會ニ於テ、數百人ノ代議士ガ悉ク自ら裁判官トナリテ、サウシテ有名ナル佛國ノ法典ヲ編纂シタル「マルセル」ド、ロント「ド、ド、ド」是等三名ノ辯護士ノ辯論ノ下ニ、諸君ノ理想トセラレ、所ノ方法トシテ、直接國民ノ裁判ヲ開イタノデアリ

マス、此場合ニ於テ直接國民ノ裁判——代議士ノ裁判ト云フモノガ其中ノ過激派ノ——最モ激越ナル旨激派ノ跋扈スル所トナリ、控制スル所トナリテ、悉ク之ニ盲從致シマシテ、之ガ爲ニ「ド、ド、ド」等ノ最モ熱誠溢ル、ガ如キ所ノ冷靜ノ辯論ヲ悉ク斥ケテシマシテ、一言ノ反證モ許サズシテ、善良ナル路易十六世ニ對シテ、直ニ死刑ノ宣告ヲシタノデアリマス、百世ノ下、吾々歴史ヲ讀ム者ハ實ニ此頁ニ至リテ卷ヲ掩ウテ流涕セザルヲ得ナイヤウナ殘忍冷酷ノ判決ヲ下シタデアリマセヌカ、此故ニ單ニ此議會ノ多數ノ政治ト、政治上ノ事實トヲ之ヲ同一視シテ、單ニ多數ノ民意ヲ以テ標準トスルモノガ至上ノ裁判デアルト云フコトニナレバ、司法ノ根本タル所ノ眞實正義ト云フコトヲ眼中ニ置カナイ結果ト云フモノハ、實ニ私ハ他日吾々並ニ諸君、皆様ノ頭ノ上ニ恐ルベキ弊害トナリテ落下シ來ルコトヲ懼ル、者デアリマス、總テノ是等ノ事情ヲ綜合シテ私ガ考ヘマスレバ、司法ト政治トハ全ク別物デアアル、司法ノ絕對無比ノ標準タル所ノ眞實ト云フモノ、正義ト云フモノハ、單リ老練ニシテ嚴正ナル所ノ判事ガ、深思精考ノ結果ニ成リタル所ノ判斷ニ依リテ之ヲ求ムルコトガ出來ルノデアリマス、決シテ此多數ノ心理、群衆若クハ公衆ノ心理ニ動かサレテ、多數ノ顔色ヲ見テヤルト云フガ如キ、多數決ノ所謂民意代表ノ機關ニ於テ之ヲ求ムルコトガ出來ナイト云フコトモ、私共確信スルノデアリマス、現ニ最近ニ於テ千九百十九年四月一日ノ「ブラブダ」ト云フ新聞紙上ニ「デユケルト」教授ノ質問ニ答ヘテ、露國ノ「レーニン」ハドウ云フ「レーニン」ハ極デ黨派心ノ旺盛ナ、執著心ノ最モ鞏固ナル人デアリマスケレドモ、此人ガ「デユケルト」教授ノ質問ニ答ヘテ、露國ニ於ケル革命裁判所ノ裁判ハ最モ誠實ニシテ公平ナル、サウシテ總テノ黨派ニ關係ヲ持タナイ、教育ノ高イ人士ノ能力ニ俟タナケレバ、其目的ヲ達スルコトガ出來ヌト云フ居ル、總テ「ソビエト」政府ニ依リテ露國ヲ構成シタル「レーニン」ハ、裁判官ダケハドウシテモ一切ノ黨派ニ關係ノナイ人間、サウシテ高等教育ノアル人間ガヤラナケレバナラヌト云フコトヲ「レーニン」ハ言フ、居ルノデアアル、諸君ハ今日我國ニ於ケル政黨ト云フモノガ、西洋ニ於ケル政黨トハ甚シク其根本ノ形體ヲ異ニシテ居ルト云フコトヲ御考ヲ願ヒタイ、我國ノ政黨ハ政治家ノ團結デハナイ、政治家ノ團結以外ニ、政治家ニ非ザル所ノ總テノ人民ヲ勸誘シテ政黨ニ入レテ居ル、之ガ黨勢擴張デアアル、所謂宣傳デアアル、日本ノ國民ニ大約二種アル、曰ク政友會ノ系統ノ國民、曰ク憲政會ノ系統ノ國民、之ニ副ウテ國民黨ノ系統ノ國民、總テノ人民ヲ悉ク平素カラ黨籍ヲ拵ヘ、之ニ登錄シテ權兵衛ハ國民黨デアアル、八兵衛ハ政友會デアアル又ハ憲政會デアアル、此様ニ人民ヲ色別ヲシテ居ルノデアアル、

故ニ市會ニ於テモ村會ニ於テモ、甚シキニ至テハ、純乎タル經濟本體タル所ノ銀行、會社ニ於テモ、各政黨執レモ勢力ヲ爭フテ、互ニ排擠シテ居ルコト云フコトハ、諸君ノ熟知セラル、所デアリマセウカ、斯ノ如キ狀態ノ下ニ陪審ヲ施カウト云フコトハ、恐ラク此陪審ガ諸君ノ理想ノ通りニ漸次完全ニ進ムニ從テ、彼ノ拉丁民族ノ伊太利或ハ佛蘭西ヨリハ、更ニ五倍、六倍、十倍スル所ノ弊害ヲ呈シハシナイカト云フコトハ、今日カラ私ハ非常ニ心配シテ居ルノデアリマス、私ノ信ズル所ハ此通りデアアル、定テ私ノ述ベタル所ニ粗漏杜撰ガアテ、事實ノ誤謬モ澤山アリマセウ、或ハ理窟ノ誤謬モ澤山アリマセウガ、私ハ唯諸君ガ全部吾々ノ此熱誠ノ意思ノ在ル所ヲ諒トシテ、之ヲ取捨選擇シ、万一ノ御參考ニ供シテ下サイマシタラバ、私ノ最モ光榮トスル所デアリマス、諸君ノ努力ニ依テ此陪審ガ我國ニ行ハレルト云フコトハ、是ハ唯單ニ一時ノ問題デアリマセウ、願クハ諸君ガ十二分ニ御注意ニナテ、此陪審ヲシテ我國ニ行ハレテ、美果ヲ收メルコト英國ノ如クデアタラバ、私ハ今日此演説ガ極テ先見ノ明ガナカクコトヲ立證スルモノデアリマスカラ、即チ私ノ不幸ガ國民ノ幸デアアル、ドウカ諸君ハ黨派心ヲ去リ、反對論ニ對シテ憎惡心ヲ去テ、正心誠意ニ慎重ニ熟考ヲ遂グラレテ、若シモ諸君ノ意思ガ回轉スルコトガ出来ナカッタラバ、願クハ十二分ノ注意ヲ其實行ノ上ニ用井テ、斯ノ如キ憂慮スベキ弊害ヲ生ジナイヤウニ努力セラレシコトヲ、謹デ私ハ諸君ニ御願スルノデアリマス、終リニ臨ムコトヲ、謹デ此辯論ノ爲ニ、長時間諸君ノ貴重ナル時間ヲ割愛セラレタルコトヲ謹デ謝スルデアリマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 原夫次郎君

〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 本員ハ只今議題ト相成リマシタル陪審法案ニ付テ賛成ノ意見ヲ開陳セントスル者デアリマス、申スマデモナク此陪審制度ノ是非、若クハ利害關係等ニ付テハ從來多年ノ間、朝野ニ論議セラレタ問題デアアルデアリマス又去ル明治四十三年、即チ第二十六回帝國議會ニ於キマシテ、本院ニ於テ建議案トシテ論議セラレ、審査ヲセラレタ其建議案ガ、大多數ヲ以テ通過シタ歴史ガアルノデアリマス、爾來法曹社會ニ於キマシテモ、又政治社會ニ於キマシテモ、十分ニ論議セラレタ問題デアリマスガ一昨年ニ於テ勇斷果決ノ原前首相ニ依リマシテ、此朝野ノ論議ガ段々ニ具體化シテ參リ、原前首相ノ熱烈ナル提唱ニ依リ、遂ニ法案ノ具體化トナリ、幾多ノ審査機關ノ審議ヲ經テ終ニ今日茲ニ委員會ヲ通過シ、本會議ノ議題トナテ論議セラレシコトハ、本員等轉ク回顧ノ情ニ堪ヘナイモノガアルノデアリマス、遮莫此陪審制度ニ付テハ、從來世ノ論者ハ或ハ

主トシテ、此問題ニ付キマシテ、政治論ヲ以テ之ガ根據ト爲シ、或ハ或ル論者ハ單純ナル法律論トシテ、主トシテ法律問題トシテ取扱テ論議シ來タデアリマスルガ、政治論ト致シマシテ、從來論セラレタ所ハ、多少難駁ノ點ガナイデモナイト思ハレルノデアリマス、又法律論ノ側カラ論ゼラレル議論ト致シマシテハ、餘リ大局ヲ闕却致シマシテ、極テ微細ナル點ニ向テ、著眼シテ、本末ノ大局ヲ顛倒シタル議論モ、タノデアリマス(ノー)本員等ノ考ヘル所ニ依リマス、ドウシテモ此陪審制度ハ其出發點ヲ政治ニ置カナケレバナラヌト思フノデアリマス、次テ來ルベキ問題ハ純然タル法律問題ノ見地カラ之ヲ論及シナケレバナラヌ問題デアルト思フノデアリマス、即チ陪審制度ハ是ハ施設ト致シマシテハ、法律的施設若クハ司法的施設デアリマススケレドモ、同時ニ政治的施設ノ最モ大ナルモノデアルト思フノデアリマス、即チ此政治的施設ガ司法的施設ト相俟テ、憲政有終ノ美ヲ濟スベキモノデアルト思フノデアリマス、故ニ本員ガ以下述ブル所ノモノハ、先ヅ此政治論ノ上カラ立論致シマシテ、次デ純然タル法律論ニ依テ、此制度ノ根柢ヲ論究セントスルノデアリマス、實ハ只今斯クマデ詳論スルコトヲ欲シナカッタノ意見ノ開陳ガアリマシタノ、本員ハ同君ノ後ヲ承ケテ此演壇ニ立チマシタ以上、勢ヒ政論並ニ法律論ノ兩點カラ此制度ガ我國ニ必要デアル所以ヲ力説セネバナラヌコトニ立至リ、ドウシテモ此二論點ニ俟タレバナラヌ、羽目トナッタデアリマス、抑、陪審制度ガ今日萬國ノ裁判制度ト化シ、又世界各國共ニ陪審制度ナルモノハ憲法政治ノ後ニ追隨致シマシテ、何レノ憲法政治ノ國家ニ於キマシテモ、此陪審制度ヲ伴ハナイ國家ハナイデアリマスガ、何ガ故ニ斯ノ如キ陪審制度ト立憲政治トガ相密著シ、相追隨スルモノデアルカ、是ハドウシテモ政論ノ側カラ、此陪審制度ヲ立論シナケレバナラヌ點デアリマス、我國ニ於キマシテ、申ス迄モ無ク憲法政治ガ施カレテカラ、地方自治制度ヲ設ケテアリマス、故ニ唯、一ツ殘テ居ル問題ハ、此陪審制度、即チ司法權ニ國民ノ參與ヲ許サナイト云フ點ガ殘テ居ルノデアリマス、從來此點ヲ論ズル者ハ唯憲法政治ノ後ニ此陪審制度ヲ設ケナイコトハ、國民ノ參政權ト約合ガ取レナイノデアルト云フ議論ガ止マレテ居ルノデアリマスガ、私ハ今何ガ故ニ立法府ニ國民ノ參與ヲ許シ、地方自治制度ニ地方民ノ參與ヲ許シ、而シテ我が國民ヲシテ國家ノ裁判ニ參與スルコトヲ爲サシメナイカト云フ理由ニ向テ、簡單ニ其所見ヲ述ベヤウト思フノデアリマス、言フマデモナク此陪審制度ノ起原ハ、是マデ諸君ノ論ゼラレマシタ通り英國デアリマス、英國ノ憲法政治ノ後ヲ承ケ、憲法政治カラ此陪審制度ヲ産

シタノデアリマス、次デ佛蘭西革命ノ後ヲ承ケマシテ、先程鵜澤委員長カラ申サレタ如ク「ナボレオン」一世ニ依リマシテ英吉利ノ陪審制度ヲ佛蘭西ニ移植シ、次デ獨逸ガ此佛蘭西ノ陪審制度ヲ模倣シテ、段々歐米各國ニ傳播シ歐米各國ノ思想界ノ怒濤狂瀾ニ乘ジテ、殆ド先程申上ゲマシタル如ク、憲法政治ノ國家ニアリマシテ陪審制度ヲ布カナイ所ノ國家ハ殆ドナイト云テ宜イ位ニ猛烈ニ此制度ガ採用セラレタノデアリマス、吾々議員ガ此立法權ニ參政致シテ居リマシテ、此議會ガ豫算權ノ議定、決算ニ依リ審査、其他議員ノ質問權、政府ニ對スル彈劾權是等ノ權限ヲ認メテアリマスルガ爲メ、吾々立法府ニ列スル者ハ、否、吾々立法府ハ行政權ト司法權ヲ監督シテ居ルノデアリマス、即チ吾々立法府ハ行政權ト司法權ニ對スル監督權ヲ有シテ居ルノデアリマス、此監督權ノ行使ハ當然ニ行政各部ニ向テ、若クハ國家ノ司法權ニ向テ、吾々ガ議定シタル所ノ法律ガ如何ニ執行セラレト、アルカト云フコトヲ、常ニ監督スル權能ヲ有シテ居ルモノ見ナケレバナラヌモノデアリマス、彼ノ十八世紀ニ於キマシテ、世界各國ヲ風靡シタル「モンテスキエ」ノ三權分立論ノ如キハ、今日ニ於キマシテハ政論家間ニ大ニ非難攻撃ヲ致シテ居ル點ガアルノデアリマス、ソレハ彼ノ三權分立論ニ依リマスルコト云フト、國家ノ統治權ガ分レテ三ツトナリ、各自對立ヲ致シテ居ルト云フ議論デアリマススケレドモ、今日國法學者ノ論難スル所ノモノハ然ラズシテ、立法權ト法律執行ノ權力ヲ持テ居ル行政司法ノ兩權ヲ合セタモノガ、立法府ニ對立スルモノデアルト、斯ウ云フ議論ガ有力デアリマスルガ如ク、即チ立法府デ法律ヲ作りマシタラバ、行政司法ノ府ニ於キマシテ其法律ヲ執行スル任ニ當テ居ルノデアリマス、行政權ト云ヒ司法權ト申シマシテモ執レモ、法律執行ノ府デアアルノデアリマス、其法律執行權ニ任ズル行政權ト司法權ナルモノハ、即チ唯行政權ト司法權トノ對立問題デアリマシテ、之ヲ以テ司法權ガ立法府ニ對立シ、若クハ行政府ガ立法府ニ對立スルト云フヤウナ議論デアリマシテ、斯ノ如ク觀察致シマシタラバ一旦法律ガ出来、其法律執行ノ任ニ當ル所ノ行政權、並ニ司法權ニ於キマシテ、如何ニ法律ガ執行セラレテ居ルカ、例ハ行政府ニ在リマシテハ、人民ニ對スル便宜ノ處置ヲ執ルコトニ付テハ如何ニシテ行ハレテ居ルカト云フコトヲ監督シナケレバナラナイ、又司法權ニ於キマシテハ、如何ニ此法律ガ運用セラレベキモノデアルカ、即チ法律ハ如何ニ裁判官ニ依テ活用セラレテ居ルカト云フ點ニ向テハ、ドウシテモ吾々國民ガ協力シテ吾々國民ノ參與權ヲ認メナケレバ、立憲政治ノ下ニ在リマシテハ未ダ十分デアルト云フコトハ言ヒ得ラレナイノデアリマス、此

意味ヲ以テマシテ、即チ國家ノ法律執行權ニ吾々國民ガ參與スルト云フコトハ、司法管轄ノ下ニ於キマシテ、其地方地方ノ人民ガ、法律ノ規定ニ基キテ、ソレト選出セラレタ所ノ者ガ、裁判ニ參與シテ、裁判官ノ法律適用ノ前ニ事實ニ關スル評議ノ權限ヲ持ツノデアリマス、我ガ陪審法案ニ於キマシテハ、歐羅巴各國ノソレト異リマシテ、總テ事實ノ側ノ認定ニ付テハ、陪審員ノ全權ヲ有シナイ事ニナリテ居ルノデアリマスルガ、是ハ我國現在議題ニナリテ居ル法案ノ特徵デアリマシテ、此特徵ニ付キマシテハ、從來本會議議ニ委員會議ニ於テ政府當局ガ詳シク述ヘマシタ如ク、我ガ憲法ノ條章ニ基キ、我國民ノ文化ノ狀況ニ應ジマシテ、斯ノ如キ世界各國ニ例ヲ持タナイ所ノ制度ヲ設ケテ、之ニ依リテ實際ノ側ニ於テ裁判所ト人民ノ側ニ、圓滿ニ此法律ヲ施行シ、而シテ歐羅巴各國ニ於テ行ハル、此制度ノ實際上ノ弊害ヲ其點ニ於テ總テ除去シヤウト期シテ法案デアアルノデアゴザイマス、是等ノ點カラ見マスルナラバ、此法案ノ立方ニ付キマシテ、或ハ世間ノ骨抜き案デアルトカ、或ハ不徹底な案デアルトカ、非難攻撃ヲ致シマスレドモ、本員等ノ見所ニ依リマスルコト云フト、却テ是ハ世界各國ノ陪審法ニ優ルモノデアハナイカト思フノデアリマス、即チ世界各國ノ陪審制度ニ於キマシテハ、陪審員ニ事實ノ側ノ認定權全部ヲ持タシテデアリマスルガ爲ニ、此點カラ總テ色ナ弊害ガ生ズルノデアリマスルガ、本案ニ於キマシテハソレ等ノ弊害ハ今ノ不徹底な點、若クハ骨抜き點ニ依リマシテ大ニ緩和セラル、ノデアリマス、全ク歐羅巴各國ノ陪審制度ノ弊害ノ點ノ骨抜きマシテ、我國ニ於キマシテハ老人デモ子供デモ、素人デアアテモ、何デモ此陪審法ヲ食ヘル事ガ出來ルヤウニ能ク取捨折衷ヲ致シテ能ク調理ヲ致シテ、我ガ國民ニ提供致シテアルノデアリマス、是ハ我ガ陪審制度ノ最モ特徵デアリマシテ、今後陪審制度ノ機能ヲ發揮スル、是ガ本統ノ骨子ニナリテ居ルト思フノデアリマス、一體吾々立法府デ審議シタ所ノ法律ナルモノハ、國民ノ生活利益ヲ保護致シ、社會國家ノ福祉ヲ増進スルガ爲ノモノデアリマスルガ、併ナカラ固ヨリ人爲ニ成タル所謂死物デアリマス、國民多數ガ豫メ其全般ノ生活利益保護ヲ認定シタ繩墨ニ過ギナイノデアリマス、如何シテ之ニ依リマシテ各地方獨特ノ習俗デアルトカ、或ハ人情デアルトカ云フモノヲ悉ク此法律ニ網羅シテ、各場合ヲ細則スルト云フコトハ、法律デアハ到底出來ナイモノデアアルノデアリマス、況ヤ社會ハ有機體デアリマシテ、時々刻々ニ變轉致スノデアリマスカラ、理想ト致シテハ法律ハ出來ルダケ各地方ノ人情風俗ニ基キタル法律ヲ制定シ、又時々刻々ニ變ルベキ世態人情ヲ酌ンテ隨時時々ニ改良ヲ加ヘナケレバナラヌモノデアルト思フノデアリマスルガ、事ノ實際ニ當リマシテ、決シテ斯ノ如ク容易

ナモノデアハナイノデアリマス、故ニ法律ハ各地方全體ヲ取纏メ、又本來ノ豫想シテ一ツノ一般ノ法律ヲ拵ヘルノガ近時法治國家ニ於テ行ハレル所ノ立法ノ形式デアゴザイマス、所デ一面ニ於テ此法律ヲ實行スル所ノ任ニ當ル行政權並ニ司法權ハ、先程申上ケル如ク法律ヲ活用シナケレバナラヌ、其法律ヲ活用スルト云フコトハドウ云フ事デアアルコト言ヘバ、即チ時々時勢ニ順應シ、又其地方々々ノ人情風俗ニ照シテ、能ク適合スルヤウニ此法律ヲ適用シナケレバナラヌデアリマス、是ニ於テテコト法自治國ニ於キマシテ、一面ニ於テ法律ヲ活用シナケレバナラヌ同時ニ、一面ニ於テハ法律ガ儼乎トシテ存スルガ爲ニ、之ヲ活用スルニ當リテ非常ニ困難ヲ感ズルノデアリマス、論ヨリ證據、例ハ各府縣ニ於キマシテ、各府縣ノ地方々々ニ應ジタル違警罪規則ハ各府縣ニ制定スルコトガ出來ルガ如ク、若シ理想カラ申シテ此法律ガ各地方毎ニ各種ノ狀況ヲ參酌シテ制定スルコトガ出來ルナラ、之ニ越シタ事ハナイノデアリマス、併ナガラ事ノ實際ニ當リマシテハ、サウ云フ譯ニハ參ラナイノデアリマスルガ故ニ、裁判官其法律ヲ一一般ノ法律ヲ各地々々ノ狀況ニ應ジテ之ヲ活用シ、之ヲ適用スル場合ニ於テハ、ドウシテモ其地方々々ノ人情風俗ニ照シ、時代ノ變遷ニ應ジテ、其法律ノ適用ヲ爲シ、活用ヲ爲サナケレバナラヌノデアリマスカ、之ガ即チ一面ニ於テハ立憲治下ニアル所ノ國民ハ國家裁判ニ關與スル所ノ權利ヲ持ツト同時ニ、又法律適用ノ裁量ノ根柢ニナルノデアリマス、以上主トシテ政論ノ側カラ論ジタノデアリマスルガ、次デ純然タル法律論ノ上カラ陪審制度ヲ論ジマスルナラバ、即チ陪審制度ハ刑事裁判ノ機關ノ一ツデアリマスルカラ、或ハ憲法ノ條章ニ基キ、或ハ刑法若クハ裁判所構成法若クハ刑事訴訟法等ノ諸法律ニ立論シナケレバナラヌノデアリマス、申ス迄モナク刑事訴訟學ノ上カラ申シタナラバ其沿革ニ徴シ、或ハ又理論ニ徴シマシテモ、近時世界各國デ段々行ハレツ、アル所ノ彼ノ訴訟法上ノ彈劾主義デアゴザイマス、申ス迄モナク訴訟法上ノ理論ト實際トニ於キマシテハ、彼ノ彈劾主義ト糾問主義ト一ツガアルノデアゴザイマスガ、其彈劾主義ナルモノハ原告トシテ犯罪人ヲ訴フル者ト、又被彈劾者即チ被告トシテ其犯罪行為ヲ訴ヘラレタル所ノ者ガデアリマシテ、第三者タル所ノ裁判所ガ其兩方ノ言フ事ヲ聽イテ之ガ判斷ヲ爲ス、之ガ即チ彈劾主義ノ根本觀念デアリマスガ、此根本觀念カラ割出サレタル所ノ幾多ノ正シイ主義ガ包含致シテ居ルノデアゴザイマス、先ヅ第一ニ彈劾主義ノ訴訟手續ニ於テハ、裁判手續ハ公開ノ上デヤラネバナラヌト云フ原則デアリマス、此公開主義ハ總テ裁判ガ公平ニ行レ、公ケニ行レタ審理裁判ニ付テハ專横ノ弊

ガナイ、隨テ國民ヲ安心セシムルモノデアアル、國民ヲシテ誦メシムル所ノ裁判手續デアアル、是ガ一ツノ原則デアリマスガ、第二ニハ其裁判公開ト同時ニ總テ審理ハ口頭審理ヲナケレバナラナイ、即チ口頭ヲ以テ或ハ被告人ヲ訊問シ、或ハ證人ヲ訊問シ、是モ總テ公ケナル場所デアケケ手續ヲ經ベキモノデアアル、冤角裁判ガ公行セラレ、又口頭審理ヲナサナイ場合ニ於キマシテハ、唯書面ノ上デ審理ヲ爲ス場合ニ於キマシテハ、或ハ今日ノ如ク檢事ノ聽取書ヲ證據ニナリ、豫審判事ノ密行主義ニ基キテ取調ヲ爲シタル所ノ書類ガ裁判ノ證據ニナルヤウナ場合ニハ、餘程裁判官ノ素質ヲ良クシ、檢事ノ素質ガ良カラナケレバ自然ニ密行主義ノ下ニ行ハレマシタル所ノ密理主義ハ、專横ノコトガ起ル、或ハ又人權蹂躪ノヤウナ種ハ總テ此審理ノ密行若クハ書面審理ノ作用カラ出發致スノデアリマスガ、彈劾主義ノ原則タル裁判ノ公行、若クハ口頭辯論ノ審理ト云フコトニナレバ、斯ル弊害ヲ除去スルコトガ出來ルノデアリマス、又彈劾主義ノ第三ノ主義ト致シマシテハ、斯ノ如ク國民ノ前ニ公行セラレ、斯ノ如ク口頭總テ審理ヲ致サル、ト云フト、其代リ裁判ノ證據ハ判斷者ノ自由デナケレバナラナイ、濫ニ之ニ向テ制限ヲ附シテハナラナイ、例ハ被告人ガ自白シナケレバ裁判ヲスルコトガ出來ナイノデアルトカ、或ハ二人以上ノ證人ガ口ガ合ハナケレバ其證言ヲ採ルコトハ出來ナイノデアルト云フヤウナ證據ノ制限ヲ附スルコトヲシナイ、總テ判斷者ノ自由ナル心證ニ基キテ判斷ヲ爲サシムルコトガ出來ル、斯ウ云フノガ彈劾主義ノ本據デアリマス、彈劾主義カ行ハレ來タ所ノ大キナル主義デアリマシテ、此大キナル主義ハ古代羅馬希臘ニ行ハレタル時代カラ、今日理想ノ訴訟法ノ原則論理トシテ採用致サレテ居ルノデアリマス、之ニ反シテ彼ノ糾問主義ナルモノハ訴ヘル者ガナクシテ、唯被告人ラシキモノヲ引張テ來テ、之ヲ裁判スル、之ヲ審理スル、ソレガ爲ニ公ケニ行ハレナイ、隨テ唯被告人ラシキ者若ハソレニ對スル證人ヲ引張テ來テ、ソレト判事ト對談ノ二種々ナ訊問ヲ爲スノデアアル、而シテ其訊問ヲ錄取シタル所ノ調書ヲ後日判斷ヲ爲ス所ノ公判判事ノ下ニ持ッテ行ッテ、其書面ニ基キテ公判判事ガ心證ヲ作り、之ニヨリテ裁判ヲ爲ヘト云フコトデアリマス、所デ此糾問主義ノ不合理ナルコトハ今更申ス迄モナイノデアリマスルガ、殆下今日ニ於キマシテハ此糾問主義ノ不都合ナリト云フコトハ、皆異口同音ニ唱ヘテ居ル所デアリマス故ニ、多ク論辯ヲ要セナイノデアリマス、併ナガラ今日ノ現在ノ訴訟手續ニ於キマシテハ、此糾問主義ト先程述ベマシタル彈劾主義ヲ相折衷シ、相混淆シテ、現在ノ訴訟手續ヲ成シテ居ル點デアリマス、成程彈劾主義ニ基キマシテ、今日檢事制度ヲ採用シテ居ル、是ハ寔ニ結構ナコトデアアル、併ナ

ガララ問主義ノ遺物デアアル所ノ豫審制度ヲ採用シテ居リ、又公判ニ於キマシテハ豫審若クハ檢事ノ作製ニ係ル所ノ調書ハ、之ヲ證據ニ採用スルコトガ出來ルト云フ、矢張糾問主義ノ遺物ヲ採用シテ居ルノデアリマス、茲ニ於テカ冤角現在ノ訴訟手續ニ於キマシテハ、前ニ糾問主義、若シクハ彈劾主義ノ下ニ述ベマシタ如ク、人權蹂躪ノ聲ガ絶エナイノデアリマス、甚ダ遺憾千萬ナ事デアリマス、是ハ何故デアルカト申シマスナレバ、即チ今日ノ豫審制度ガ密行主義、只調ベラル、者ト調ベル者トノ對談ニ過ギナイ、公ケナル場所デ公ケニ取調ベテ受ケナイノデアリマス、檢事ノ取調ベモ矢張左様デアリマス、茲ニ於テカ冤角專横ノ事ガ有勝チニテテ參ルノデアリマス、此意味カラ申スナラバ即チ陪審制度ナルモノハ全ク訴訟法上ノ理想案デアリマシテ、先程委員長カラ詳シク報告アリマシタル如ク、總テ事件ガ起リマシテカラ其事件ニ對スル判斷ヲ爲スノニハ、陪審員參列ノ上裁判所ガ公ケナル法廷デ公ケニ取調ベテ爲シ、公ケニ得タル所ノ證據ニ依ルニ非ズンバ其被告事件ヲ判斷スルコトガ出來ナイト云フ大原則ノ下ニ行ハル、ノデアリマス、又先程政論ノ下ニ申上ゲル如ク、一般ノ法律ガ地方ノ人情風俗ニ合シタル所ノ其事情ノ下ニ陪審員ノ意見ヲ參酌致シマシテ、サウシテ裁判官ガ事實ニ關スル陪審員ノ意見ノ下ニ、法律ノ判斷ヲ下スノデアリマス、一體此刑事事件ニ於キマシテ、犯罪ノ事實ガ無ケレバ刑罰ガ無イノデアリマス、犯罪ノ事實ガ有テ之ニ對スル法律ノ規定シタル刑罰ガ出テ來ルノデアリマス、其事實ニ對シテ眞デアルカ、眞デナイカ、即チ犯罪ヲ犯シタ者デアアルカ、犯罪ヲ犯サザル者デアアルカト云フコトノ此事實ノ認定ナルモノハ、之ヲ裁判ト見レバ一ツノ裁判デアリマス、併ナガラ是ハ裁判ニ非ズト見レバ矢張裁判デハナイノデアリマス、即チ裁判ナルモノハ確定シタル事實ニ對シテ法律ヲ適用スルコトガ裁判デアアル、此確定シタル事實ニ對スル法律ノ適用ガ、即チ事實ヲ法律化スルノデアリマス、刑罰スルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ從來専門家ノ非常ニ論難ヲ致シタ所デアリマス、現在本案ノ審議ニ際シマシテモ、朝野法曹ノ間ニ此問題ニ付テハ非常ニ論難ヲセラレタ所デアリマステドモ、本員等ノ考ヘル所ニ依リマスルト、是ハ左マデノ問題デアリナイと思フ、何トナレバ從來訴訟法ノ沿革ニ徴スルト、事實ノ確定ト云フコトニ向テハ、是ハ全ク證據ノ問題デアルコトガ出來ル問題デアリマス、若シ法律ヲ以テ裁判官ノ心證ニ基ク證據ノ制限ヲ爲シタナラバ、制限ヲ爲スト云フ法律ノ下ニ裁判ヲ爲サシムルナラバ、其法律ヲ以テ制限スルコト、ソレ自體ガ即チ之ガ事實ノ裁判ニ歸スルト云フコトモ言得ラル、ノデアリマス、事實

ノ裁判ハ法律デ如何様ニモ極メタルコトガ出來ルノデアリマス、是ハ非常ニ複雜ナル法律問題ニ歸スル問題デアリマスガ、冤角モ本案ニ於キマシテハ總テ是等ノ複雜ナル點ヲ避ケ、又其避ケタル理由ニ至リマシテハ、或ハ政府當局若クハ樞密院邊リニ於キマシテハ、是ハ憲法違背ノ點ヲ避ケル爲ト云フ理由デアラタカモ知レナイノデアリマステドモ、幸カ不幸カ存ジマセウガ、本員等ノ認メル所ニ依リマス、此陪審員ヲシテ事實認定ニ關スル全權力ヲ取ラセナカク點、即チ刑事裁判ヲ爲スニハ陪審ノ評議ハ要スルガ、併ナガラ裁判所ハ必ズシモ此評議ニ拘束セラレナイ、併シ此陪審員ノ評議ナクシテハ刑事裁判ガ出來ナイト云フ極テ微妙ナル法律規定ヲ設ケタ點ハ、是ハ立案者並ニ審議者ニ向ヒマシテ、本員等ハ大ニ稱讚ノ辭ヲ呈シタイト思フノデアリマス、若シ歐米各國ノ陪審制度ガ我ガ日本ノ本案ノ如キ立案ノ趣意デアラタナラバ、歐羅巴各國ノ現狀ニ照シテ彼等ノ弊害續出スル點ハ、恐ラク此點ヲ除却ガ出來テ居ルト思フノデアリマス、日本ノ現狀ニ照シ且ツ法律上ノ議論カラ見マシテモ、本案ガ斯ノ如キ微妙ナル規定ヲ爲シテ總テ裁判所ト陪審トノ間ニ協力シテ法律ヲ運用ノ妙ヲ得セシメントスル此法律條ハ、誠ニ時勢ニ適スル理論ニ通スル、非常ニ良イ法律デアテ、世界第一ノ陪審法デアルト云フ讚辭ヲ呈シテ差支ナイと思フノデアリマス、以上申シ述ベマシテ趣意カラ見マシテ本本案制定ノ後ハ、我ガ國民自由ノ守ト尊トシテ尊重セラレ、コト、思フ彼ノ本案ニ對シテ攻撃ヲ爲ス人ハ未ダ陪審制度ノ本當ノ本義ヲ諒解シナイノ議論デアルト思フノデアリマス、立法事業ヲ爲ス場合ニ於テハ、決シテ虛榮ハ要ラヌノデアリマス、歐羅巴各國ノ陪審制度ガ陪審員ニ事實認定ノ全權ヲ與ヘルノデアラカ、陪審ト云フモノハ、斯ノ如クアラネバナラヌモノデアアル、斯ウ云フヤラナ外國ノ制定ヲ鵜呑ニシテ斷定的ナ議論ヲ爲スノハ、是ハ餘リニ西洋カブレヲ爲シタル議論デアテ、陪審ト云フコトノ本義ヲ究メナイデ唯鵜呑ニ致シテ居ル議論デアルト思フ、陪審制度ナルモノハ先程モ縷々申上ゲマシタ如ク、政治論ノ上カラ見ラバ、唯裁判、即チ國家ノ司法權ニ地方人民ヲ參與セシメル、是デ宜イノデアリマス、此參與ノ結果、事實認定權ノ全部ヲ國民ガ奪ハナケレバナラヌ、全部陪審員ガ其權力ヲ持タナケレバナラヌト云フ程度ノモノデアリナイ、ソレハ全ク程度論デアリマス、全ク其國民ノ文化ノ程度ニ依ルベキ問題デアルト思フノデアリマス、唯徒ニ垣ヲ隔テ、隣ヲ眺メテ、隣ノ庭ガ良イカラ自分ノ庭ニモ叶ハナイノ隣ノ庭ノ通りニシナケレバナラヌト云フコトハナイノデアリマス、私共ハ此陪審法案制定ノ後ニハ必ズヤ我ガ司法部ハ一大革

新ヲ來スモノト思フノデアリマス、本案ヲ審議スルニ當リマシテ、唯陪審員ガ事實全部ノ認定權ヲ持タナイカラ、此陪審制度ガ何等効用ヲ爲サナイモノデアルトカ、或ハ此陪審法案ニ情狀酌量ノ問題若クハ刑ノ減免ノ問題ニ關スル認定權ヲ持タナイノデアラカ、ソレデ此陪審法案ハ不徹底極マルモノデアラカ、贊成スルコトハ出來ナイト云フヤウナ議論ハ、是ハ角ヲ矯メテ手ヲ殺スノ類デアリマシテハホンノ枝葉ノ問題デアリマス、且又此法案ノ真髓カラ立論スル時ニ於キマシテハ、斯ノ如キ枝葉ノ論、程度論ハ、是ハ些末ナ議論デアルト同時ニ、此本案ノ立法方我ガ日本ノ文化ノ程度ニ應ジテハ、ドウシテモ斯ノ如キ議論ニ贊成スルコトハ出來ナイノデアリマス、孰レ後ニ本案ニ對スル修正意見ガ出マスカラ、ソレニ對シテ我ガ同僚カラ反對ノ意ヲ述ベル場合ニ、議論ガ出ルコト、思フノデアリマスカラ本員ハ之ヲ省略シマス、一體一個ノ意見ト致シマシテハ、以上述べタル大體ノ政治論、大體ノ法律論カラ申シマシテ、本案ハ無修正ノ儘、即チ本案ハ極テ佳作デアリマシテ、無修正ノ儘贊成スベキモノデアルト斷定致スノデアリマス、唯巨細ナ修正ヲシテハ、ドウカト云フヤウナ意見ガ絶対ニ無イノデアリマセウカレドモ、是等ハ他日論議ヲ盡シ修正ヲ致ス機會モアリマセウカ、大體ニ於キマシテハ、以上述べタル所ニ依ッテ、此法案ニハ全然贊成ヲ致ス者デアリマス、之ニ反スル議論ハ大體ニ於テ反對デアリマス(拍手)

○副議長(柏谷義三君) 森下龜太郎君

(森下龜太郎君登壇)

○森下龜太郎君 本案ハ政友會ノ五大政綱ノ一ツトシテ數ヘラレタ重要法案デアリマス、斯ノ如キ法案ニ對シマシテ、眞正面カラ反對意見ヲ述ベルト云フコトハ、固ヨリ本員共ノ本意トスル所デアリナイノデアリマス、併ナガラ此本案ヲ無條件デア入レマシテ、之ガ實施ノ曉ニ於ケル效果ヲ想見致シマスナラバ、私共ハ今日マデ長ク築キ上ゲタル司法權ノ尊嚴ナルモノヲ、其根柢カラ破壊サレルト云フコトヲ想見サレルト云フ、甚ダ遺憾トスルノデアリマス、ソレト同時ニ本案ノ施設ガ無代價ニ依ッテ施設サレルト云フコトデアリマスナラバ、或ハ試ミノ爲ニ之ヲ施行シテ見テモ宜カラウト云フ、極テ不徹底ノ意見ヲ之ニ加ヘルコトモ出來得ラレマステドモ、政府委員ノ意見ヲ承リマスレバ、本案ノ設備ニ付テハ、其設備費ニ於テ三、四百万圓ト云フ莫大ナ金額ヲ要スルノデアリマス、番ニ設備費ニ於テ、是ダケノ莫大ナル金額ヲ要スルノミナラス、之ガ施行ニ當リマスレバ、年々歳々經常費トシテ三百五十六万圓ト云フ、又大金ヲ吾々國民ノ負擔ノ下ニ支拂ハナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、固ヨリ私共ハ此陪審制度其モノ、立

法ノ趣旨ニハ、上島君ト同シヤウナ歩調ヲ執ルモノデハナイノデアリマス、併ナガラ私共ハ此立法ノ内容ヲ吟味スルニ至リマスルト、此陪審制度ノ資格ノ構成ニ關スル基礎條件ニ於テ、到底忍ブ能ハザル一大缺陷ヲ發見致スノデアリマス、ソレハ先程委員長カラモ委員會ニ於テ經過ノ報告ガアリマシテ、其一端ヲ此席ニ於テ御報告ニナリマシタガ、私ハ實ニ此木案ニ於ケル十二條ノ規定、即チ陪審員タル所ノ資格ト致シマシテハ、第一二年齡三十歲以上、而シテ納稅資格直接國稅三圓以上ヲ納ムル者ト云フコトノ外ニ、僅ニ讀ミ書キヲ爲シ得ル程度ノ者ニ、悉ク此陪審員タル資格ヲ與ヘルト云フノデアリマス、斯ノ如ク廣キ意味ニ於テ、廣キ範圍ニ於ケル陪審員資格者ノ中ニ付テ、特ニ有能力者、有能者若クハ有識者ヲ、茲ニ銓衡シテ選出スト云フコトデアリマスナラバ、私共ハ雙手ヲ舉ゲテ贊成ヲ致ス、併ナガラ本案ノ規定ハサニアラズ、僅ニ讀ミ書キヲ爲シ得ルト云フ極テ廣キ意味ニ於テ、其中カラ籤引ヲ以テ陪審員ヲ選出スト云フノデアリマス、熊公ガ出ルカ、八公ガ出ルカ、是ハ運ヲ天ニ任セルト云フ、運主義ニ於ケル本案ノ規定デアリマス、斯ノ如キ立法ノ下ニ選出サレタ所ノ熊公八公ノ下ニ、吾吾ノ貴重ナル身體生命、自由ヲ全部被奪ノ下ニ捧ゲルト云フダケ、吾々ハ襟度ヲ取ルコトハ出來ヌノデアリマス、私ハ委員會ニ於テ、政府委員ニ其點ヲ確カメテ、セメテ中等學校卒業程度ノ者ト云フ位ノ陪審員ノ資格範圍ニ限定シテアルナラバ、或ハ籤引ニ依テ之ヲ極メルト云フ事柄モ、或ハ或ル程度ニ於テ其弊害ヲ緩和スルコトガ出來得ルダラウケレドモ、僅ニ讀ミ書キヲ爲シ得ルト云フ者ノ中カラ、籤引ヲ以テ採ルト云フコトハ、餘リ無責任デハナイカト云フコトヲ以テ諒タ所ガ、ソレニ對スル政府委員ノ辯明ハ、實ニ驚クベシデアリマス、若シアナタノヤウナ御説ヲスルト云フコトナラバ、折角此陪審制度ヲ民衆化セシメントスル吾々ノ希望ト云フモノガ、或ル程度ニ於テ官僚化スル虞ガアルト云フコトノ辯明デアリマス、諸君、果シテ市町村長ノ作リマシタ資格名簿ノ中ニ付テ、唯僅ニ地方裁判所長ガ其中カラ相當ノ銓衡方法ニ依リマシテ、適當ナル人物ヲ銓衡シテ、之ヲ選定シタト云フ一事ニ依リマシテ、何ガ故ニ陪審員ガ官僚化スルカト云フコトヲ言得ルノデアリマスセウカ、或ハ陪審員ノ選定セラル、ト云フ事柄ガ、非常ニ利害ノ關係デモアルト云フコトデアリマスナラバ、或ハ官僚ノ御機嫌ヲ取ラナケレバナラヌト云フ必要ニ迫ラレドモ、或ハ官僚化スルカト云フ虞モアリマセウケレドモ、多數ノ有能者名簿ノ中カラ、僅ニ裁判所長ガ適任者ト云フモノヲ銓衡ノ上ニ、而モ私ノ提案ト云フモノハ、私ガ委員會ニ於テ述ベタ修正案ト云フモノハ、獨リ地方裁判所長ノ全權ニ之ヲ一任スルニア

ラズシテ、地方裁判所長ハ、自分ノ管内ノ區裁判所ノ判事ノ意見ヲ聽イテヤル、而モ區裁判所ノ判事ハ、又自分ノ意見ヲ定ムルニ付キマシテハ、各市町村長ニ就キマシテ、自己ガ地方裁判所長ニ意見ヲ述ブル其參考資料トナルベキ所ノモノ、提供ヲ求ムル所ノ權利ヲ、區裁判所ノ判事ニ與フル、斯ウ云フコトニ致シマシタナラバ、此籤引ヲ以テ旨減法界ニ選出スル一私ハ選出ストハ言ハヌ、籤引ヲ以テ旨減法界ニ引張り出スノハ、之ヲ當テ出スト云フ、當テ出スト云フコト、選出スト云フコトハ、其意味ニ於テ非常ニ違フ、サウ云フ意味ニ於キマシテ、之ヲ地方裁判所長ニ一任スルト云フコトデアリマスナラバ、或ル程度ニ於テ、此陪審法案ノ弊害ヲ緩和スルコトガ出來得ルト考ヘマシテ、斯ク私ハ修正案ヲ出シタノデアリマス、ケレドモ其修正案ハ極テ少數ヲ以テ否決サレタノデアリマス、而モ恐ラクハ是ハ個人別ニ此黨派ト云フモノ、黨魁ト云フモノヲ離レテ、本當ニ各自ノ自己ノ良心ノ指令スル所ニ依リマシテ、之ヲ一般ノ評議ニ付シタト云フコトデアリマスナラバ、恐ラクハ吾々ノ議論モ、或ル程度ノ賛成ヲ得ルニ相違ナイト考ヘルノデアリマス、ケレドモ何様ノ政友會ノ五大政綱ノ一トシテ、黨議ヲ以テ拘束サレテ居ル案件デアリ、吾々ガ如何ニ正シキ議論ヲ以テ申述ベマシタ所ガ、到底是ハ通過ノ見込ハ真ニ無イト言ハネバナラヌ、少數黨ノ怨メシサ、甚ダ吾々ハ可憐ナル地位ニ在リト云フコトヲ考ヘルト同時ニ、併ナガラ此議會ノ後ヘニ控ヘテ居ル所ノ七千万ノ國民ハ、如何ナル考ヲ以テ之ヲ迎ヘルカト云フコトヲ、諸君ガ考ヘナケレバナラヌト云フコトヲ御警告ヲ申上ゲタイ、單リ私ハ唯本案ノ立法ニ付テ斯カル非難ヲ申上ゲルノミデハナイノデアリマス、之ヲ外國ノ立法例ニ付テ見マシテモ、本案ノ如ク極テ廣イ範圍ニ於ケル有能者ヲ定メテ居ル場合ニ於キマシテ、之ヲ無條件ニ籤引ヲ以テ引出スナシテ云フヤウナ立法ハ、一モ當ルコトガ出來ナイノデアリマス、御承知ノ通り、此陪審制度ノ鼻祖デアアル英國ニ於ケル大陪審制度ニ付テ見マシテモ、或ハ十五以上ノ窓ヲ有スル店舖、若クハ住宅ノ所有者ナルコトヲ要スルト云フ資格ノ制限ヲシテ見タリ、或ハ百磅以上ノ動産若クハ不動産ノ所有者ナルコトヲ要スルト云フ規定ヲ拵ヘテ見タリ、或ハ巡回裁判所ニ於キマシテ、是ハ法律ヲ以テ規定シテ居ルモノデアリマセウケレドモ、英國ニ於ケル巡回裁判ニ於キマシテハ、事實上ニ於キマシテ、地主若クハ貴族ノ次位ニ位スル身分アル者ガナケレバ、之ヲ選定ヲシナイト云フ慣習ヲ持ッテ居ルノデアリマス、又先程上島君カラ此陪審制ヲ實施致シテ居リマス佛國ナドニ於ケル、實ニ忌ムベキ所ノ事例ヲ澤山舉ゲラレマシタガ、實ニ諸外國ニ於キマシテ、此陪審制度ヲ實施シテ居ル國マ

ニ於キマシテハ、此陪審制度ノ實施ヨリ生ズル弊害ノ非常ナル甚シキモノニ鑑ミマシテ、如何ニカシテ此陪審制度ヲ歴史ヲ持ッテ居ル陪審制度ノ之ヲ全廢スルト云フヨリカ、之ガ改善ノ緒ニ付キタイト云フ所ノ考ノ下ニ、最モ新シキ法案ト致シマシテハ、彼ノ壞地利ノ陪審制度ニ關スル立法デアリマス、其陪審制度ニ關スル新法案ノ第十一條ニ依リマスルト、此陪審員ノ選定ヲ郡長ト云フモノニ一任致シテ居リマスルガ、併シ其郡長ニ一任スルニ付キマシテハ、二ツノ條件ヲ附シテ居ルノデアリマス、其第一ハ、公正ナル理解力ヲ有スルト云フコト、第二ハ、尊嚴スベキ人格ヲ有スル所ノ人デアルト云フコト、此二ツノ條件ヲ有スル所ノ人ヨリ之ヲ選定スルト云フ事ヲ郡長ニ一任スル、而モ此規定ト云フモノハ、法律ノ第十一條ヲ以テ明ニ之ヲ明定致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク既ニ外國ノ方ニ於キマシテモ、此陪審制度ノ實施ニ由テ來ル所ノ弊害ト云フモノヲ取除クニ付キマシテハ、非常ナル苦心ヲ拂ッテ居ルト云フコトハ、或ル程度ニ於テ之ヲ認メル事ガ出來得ルノデアリマス、ソレヲ今日我ガ帝國ニ於キマシテハ、或ハ先程委員長カラノ報告ニ、日本ニハ明治六年ニ參議院ト云フモノガアタト云フヤウナコトデアリマス是ハ僅ニ一年カ、半年ノ試ニ依テ之ヲ直ニ消滅シテシマッタ所ノ事柄デアリマス、之ガ真ニ事實上良イト云フコトデアリマナラバ、今日迄ソレガ段々ト或ハ改善ノ緒ニ就イテ、今日迄ソレガ生命ヲ保ッテ居ラネバナラヌノデアリマセウケレドモ、是ハ日本ノ國情ニ適セヌト云フ所デ、僅カ半歲カ、一年ノ生命ヲ以テ葬リ去ラレシマッタ所ノモノデアリマス、斯ノ如ク日本ニ於キマシテハ、何等ノ經驗ヲ持ッテ居ラヌト云フ事ハ、事實上ニ其經驗ヲ持ッテ居ラヌ所ノ帝國ニ、初テノ試トシテ致シマス所ノ此陪審法案ニ對シマシテ、諸外國ノ立法ニ於テ、未ダ會テ殆ド見ルコトノ出來ヌ程ノ無責任ナル立法ヲ以テ、此陪審法案ニ擬シヤウトスル此政府者ノ御意思ハ、私ハ果シテ一片君國ヲ思フト云フ日本ノ司法權ナルモノ、森嚴ニ對シテ、如何ナル程度ニ於テノ御考ヲ運バレルモ、アルコト云フ事ヲ私ハ疑ハネバナラヌ、寧ロスノ如キ杜撰ナル籤引ヲ以テ、熊公八公ヲ出スカ、若クハ太郎兵衛ヲ出スカ、權兵衛ヲ出スカ分ラヌヤウナ、萬一吾々ガ如キ裁判ヲ受クベキ地位ニ立ツト致シマシテ、而シテ斯ノ如キ無識無能ノ連中ヲ以テ集メラレタ所ノ、貧乏籤引イタ所ノ陪審員ヲ以テ受ケマシテ、果シテ日本ノ之ガ司法權ノ發動トシテ、吾々ハ茲ニ陛下ノ御名ニ依ッテ下サルベキ所ノ判決トシテ、之ヲ首肯スルコトガ出來得ルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、又ソレト同時ニ、陛下ノ御名ニ依ッテ行ハレル所ノ此裁

判、衣冠ヲ正シテ神聖ヲ保ツ所ノ此法廷ニ於キマシテ、貧乏之儀ヲ引イタ所ノ八公ヤ熊公ノ後ロニ並シテ、ソレガ此神聖ヲ保ツ所ノ裁判ノ意見ヲ左右スルモノデアルト云フ事ヲ考ヘマシタナラバ、吾々ハ此現在ノ司法制度ヨリカ、之ヲ改善スベク拵ヘルト云フ此陪審制度其モノニ對シマシテハ、海ニ吾々ハ一大懽哭ヲ禁ズルコトガ出來ヌデアリマス(ヒヤヒヤ)本案ヲ提出サレタ時ニ於キマシテ、司法大臣ハ只今原若ガ述ベラレタト同ジヤウナ意味ノ事ヲ以テ、提出ノ理由トサレタデアリマス、即チ今日ニ於テハ既ニ立法並ニ行政ニ對シテ、國民ノ或ル程度ニ於テノ參加ヲ許シテ居ル、然ルニ司法制度ノミニ於テ今日國民ノ參加ヲ許シテ居ラヌノデアルカラ、茲ニ國民ノ參加ヲ許スコトニ於テ、初テ立憲ノ本義ヲ全ウスルコトガ出來ルデアルト云フ御說明デアッタノデアリマス、中ニ諸君、此言葉ハ、吾々ハ耳ヲ傾ケルニ足ルベキ所ノ言葉デアリマシテ、其言葉ハ、洵ニ表面立派ナ言葉デアリマス、併ナガラ諸君、今日迄吾々ガ現ニ得テ居ル所ノ立法並ニ行政ニ對スル所ノ參與ノ權利ナルモノハ、如何ナル方式ニ依テ之ヲ取得シテ居ルデアリマセウカ、吾々ハ或ル有權名簿ニ依リマシテ、官憲法界ナル儀引ニ依リマシテ、吾々代議政體ト致シマシテ、代議士トシテ、茲ニ此席ニ立ツ所ノ地位ヲ得タノデアリナインデアアル、又地方制度ニ於テモ其通り、府縣制度ニ於テモ、市町村制度ニ於テモサウデアアル、地方制度ニ於テ、又此代議制度ニ於キマシテモ、或ル一ツノ資格ヲ以テ、其中カラ官憲法界ノ儀引ヲ以テ代表者ヲ出スト云フコトニ定メタナラバ、恐ラク滿場諸君ノ一人モ之ニ御賛成ナサル所ノ者ハ有ルマイト思フデアアル、然ルニ此司法制度ノミハ、未ダ會テ何等ノ歴史ヲ有セザル所ノ國民ガ參加シヤウト云フコトニ當リマシテ、官憲法界ニ儀引ヲ以テ之ニ當テルト云フコトハ、實ニ司法制度ノ尊嚴ヲ根本カラ破壊スルモノデアルト申シテ、何等茲ニ私共ノ言葉ガ間違テ居ルト云フコトガ言ヒ得ルデアリマセウカ、之ヲ眞實眞正面カラ考ヘ眞實何等政略若クハ黨派ト云フモノ、臭味ト云フモノニ因ヘラレズシテ、眞ニ自己ノ所信ニ向テ意見ヲ表示シ得ルト云フコトデアリマスマラバ、恐ラクハ上島君ノ意見ナリ、私共ノ意見ノ一部ニ對シマシテハ、少クトモ或ル程度ノ御賛成ヲ得ルニ相違ナイト確信スルデアリマス、併ナガラ私ハ到底其事ニ付キマシテハ、今日ノ時代錯誤デアアル黨弊ニ因ハレル此議會ノ有様ニ對シテハ、何等一縷ノ望モ囑スルコトハ出來ナイト云フコトヲ悲シム者デアリマス、唯私ハ衆議院ノ後ニハ貴族院ト云フモノガ控ヘテ居ル幾千萬ノ國民ト云フモノヲ控ヘテ居ル、諸君ガ官憲法界ニ唯陪審制度ト云フ名ノ下ニ總レ込シテ、若クハ之ガ大政黨ノ一大政綱デアルト云フ事柄ニ因ハレテ、黨議ニ依リ心ニモ無

キ御賛成ヲ爲サルト云フコトデアラナラバ、或ハ後日諸君ガ非常ナル政治的生命ヲ奪ハレルコトニナルト云フコトヲ御警告申上ダテ、唯私ハ眞實ナル偽ラザル國民ノ聲トシテ、諸君ノ前ニ反對論ヲ主張シテ此壇ヲ降ルコトニ致シマス
○副議長(粕谷義三君) 横山金太郎君
○横山金太郎君登壇
○横山金太郎君 諸君、本員等ハ委員會ニ於キマシテ、修正案ヲ一タビ提出致シタデアリマスガ、不幸ニシテ否決ニナッタ結果トシテ本會議ニ之ヲ提出センカトモ考ヘマシタケレドモ、大勢ハ既ニ定メテ居リマシテ、其運命ノ程モ自ラ察セラレノデアリマスカラ、茲ニ時間道徳ヲ以テ、敢テ修正案ヲ提出スルコトヲ致シマセヌ、而シテ直ニ本案ニ付キマシテ、警告附賛成ヲ致シタイト思フデアリマス、若シ此警告ト云フ言葉ガ峻烈ニ失スルト云フ嫌ガゴザイマスレバ、茲ニ希望附賛成ト改メテ宜シクデアリマス、即チ其趣旨ニ於テ簡單ニ賛成ノ意味ヲ表明致シテ置キマス、只今賛成論者ノ一人デゴザイマスル原氏ニ依テ試ミラレマシタ賛成論ノ中所謂正論ノ上ニ基調ヲ置カレル所ノ高遠ナル御理想ニハ、必シモ賛成ヲスルモノデアリナインデアリマス、唯本案ハ司法改革ノ爲ニ、黨派ニモ、感情ニモ超越ヲ致シテ、虚心平氣ニ冷静ニ、公平ニ取捨選擇ヲシナケレバナラヌト云フ理解ノ下ニ、之ガ賛成ヲ致ス者デアリマス、只今上島君ヨリ洵ニ調査研究ヲ重ネラレマシタル所ノ結果ヲ此壇上ニ公ニセラレマシタコトニ付テハ、私ハ多大ノ敬意ヲ拂フ者デアリマス、サリナガラ仰シヤク議論ノ内容ニ至リマシテハ、不幸ニ致シテ立場ヲ異ニシマスル所ノ結果ト致シテ、之ニ反對ヲセザルヲ得ナイノデゴザイマス、試ニ本論ニ入りマスル前ニ當テ、其一二ニ付テ駁論ヲ先ツ試ミタイト考ヘルノデアリマス、上島君ハ第一番ノ所論ト致シテハ、凡ソ此裁判所ガ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ、法律ノ定メタル資格ノ有ル裁判官ガ、法律ニ定メタル範圍ニ於テ、裁判ヲスルデアアル、而シテ其立法ナルモノハ、國民ガ參與ヲ致シテ作り出シタモノデアアルカラ自ラ、民本ノ思想ト云フモノノ其間ニ現レテ、所謂司法參與ノ實ハ、業ニ既ニ舉テ居ルデアリナインデアリマス、而シテ上島君ハ、業ニ既ニ舉テ居ルデアリナインデアリマス、併ナガラ若シ此論法ヲ不當ニ擴充シテ參リマスト云フト、世間總テノ事、殊ニ政治方面ニ關シマスル事ハ、總テ國民ガ料理按排ヲ致シテ居ルト云フ結論ニ到著ヲシナケレバナラヌデアリマス、司法參與ト云フコトハ、詰リ立法ト行政トニ獨立ヲ致シ、直接ニ其司法事務ニ參與スルト云フ意味ガ、此陪審法ノ上ニ現レテ居ルデアリマス、上島君ノ議論ヲ以テ致シマスナラバ、趙盾人ヲ殺スト云フ此春秋ノ筆法ハ、甚ダ其結果ニ於テ不當ニ陷ルデアルト云フコトヲ、私ハ實例ヲ擧ゲテ論破致シテ置キタイト思フデアリマス、試

ニ此警察官ニ對スル所ノ非難ノ聲ハ、洵ニ高イデアリマス併シ此警察官ト雖モ、悉ク法律ノ定メタル資格ノ範圍ニ於テ、法律ノ定メタル範圍ノ行爲ヲ致シテ居ルノデゴザイマスガ若シ此警察官ニ不當ノ行爲ガアッタトキニ、是ハ即チ法律ノ定メタル資格者デアアル、法規ノ定メタル範圍ニ於テ活動ヲ致シタデアアルカラ、國民ガ參與致シタデアルト云フ結論ニ接シナケレバナラヌデアリマス、此意味ヲ御理解ニナレバ第一ノ論ハ此以上申上ゲル必要ハ私ハ無イト思フデアリマス、サスレバ第二ノ議論ハト申シマスル、第二ノ議論ハ詰リ吾々ガ衆望ヲ荷ウテ議員トナッテ居ルト云フコトハ、選舉ニ依ッテナル抽籤トハ自ラ其間ニ趣ヲ異ニ致シテ居ル、勿論選出ノ方法ハ違ヒマシテモ、矢張一ツノ選ニ出ス所ノ方法ノ異ナルニ過ギヌデアリマス、殊ニ此抽籤規定ト云フモノハ、此過渡ノ時代ニ於テハ選出其モノニ付テ、極テ公平ノ價值アラシムベク、苦慮セラレタル結果デアルト云フコトヲ吾々ハ承テ、此意味ヲ諒ト致シテ居ルデアアル、ノミナラズ總テ此陪審員ト致シテ選マル、人ハ、悉ク陪審法ノ上ニ細カナル規定ガアッテ、其資格其モノ、細カナル事ニ付テハ、非難攻撃ヲスル餘地ガアリマスケレドモ、自ラ尺度ト標準ガ定マッテ居ルデアリマスカラ、此趣旨ニ於テ抽籤ヲシ、監督ト云フ者ガ其上ニ在ッテ宜シク得マシタナラバ、上島君ノ言ハル、其愛ハ、或ハ犯人ノ憂タルニ終ルカモ知レヌト私ハ考ヘルノデアリマス、第三ノ御議論ハ、人權蹂躪ノ聲ガ高イト云フコトハ、是ハ公判ニ付スル以前ノ事デアアル、一應御尤デアアル、ソレガ爲ニ吾々ノ方面デハ、鈴木君ガ起訴陪審ノ事ニ付テモ質問ヲシヤウナ譯デアリマスガ、暫クソレハ、別問題ト致シテ、人權蹂躪ノ聲ガアルト云フコトハ、成程起訴以前ノ事若クハ公判ニ移サル、以前ノ事トシマシテ、公判ニ於テ用キル所ノ證據ハ即チ其人人權蹂躪ノ結果ト致シテ移ルベキ或ルモノヲ齎シテ居ルト云フコトニ、御注意ニナラナケレバナラヌデアリマス(拍手)此弊ヲ防グノデアアル、而シテ陪審法ハ陪審法ノ中ニ明ニ規定シテゴザイマス如ク、委員長ノ御報告ニナリマシタ如ク、直接審理規定ニナッテ居ルノデゴザイマスカラ、恐クハ左様ナ愛ト云フモノハ、實際ニ於テハ多クナイト論斷シテ妨ガナイト思フデアリマス、今一ツ御注意ヲ願ヒタイノハ、此陪審ノ規定ヲ、單リ人權蹂躪ト云フガ如キ或種ノ事實ヲ排除スルノミデハナイ、從來極テ不合理ナル、沒常識ナル裁判官ガアッタデアリマス、是ハ裁判官ソレ自體ニ附著シ、纏綿ヲ致シタデアリマス、是ハ裁判官意味ヲ含シテ居ルデアリマスカラ、此兩箇ノ見地ヨリ御考ニナリマシタナラバ、此第三點ニ對スル駁撃モ、亦餘リ價値ノアルモノトハ私ハ考ヘヌデアリマス、第四ニハ自白ノトキニハ陪審ヲ辭シ得ルトカ、若クハ自白ノトキニハ陪審ニ掛

キ御賛成ヲ爲サルト云フコトデアラナラバ、或ハ後日諸君ガ非常ナル政治的生命ヲ奪ハレルコトニナルト云フコトヲ御警告申上ダテ、唯私ハ眞實ナル偽ラザル國民ノ聲トシテ、諸君ノ前ニ反對論ヲ主張シテ此壇ヲ降ルコトニ致シマス
○副議長(粕谷義三君) 横山金太郎君
○横山金太郎君登壇
○横山金太郎君 諸君、本員等ハ委員會ニ於キマシテ、修正案ヲ一タビ提出致シタデアリマスガ、不幸ニシテ否決ニナッタ結果トシテ本會議ニ之ヲ提出センカトモ考ヘマシタケレドモ、大勢ハ既ニ定メテ居リマシテ、其運命ノ程モ自ラ察セラレノデアリマスカラ、茲ニ時間道徳ヲ以テ、敢テ修正案ヲ提出スルコトヲ致シマセヌ、而シテ直ニ本案ニ付キマシテ、警告附賛成ヲ致シタイト思フデアリマス、若シ此警告ト云フ言葉ガ峻烈ニ失スルト云フ嫌ガゴザイマスレバ、茲ニ希望附賛成ト改メテ宜シクデアリマス、即チ其趣旨ニ於テ簡單ニ賛成ノ意味ヲ表明致シテ置キマス、只今賛成論者ノ一人デゴザイマスル原氏ニ依テ試ミラレマシタ賛成論ノ中所謂正論ノ上ニ基調ヲ置カレル所ノ高遠ナル御理想ニハ、必シモ賛成ヲスルモノデアリナインデアリマス、唯本案ハ司法改革ノ爲ニ、黨派ニモ、感情ニモ超越ヲ致シテ、虚心平氣ニ冷静ニ、公平ニ取捨選擇ヲシナケレバナラヌト云フ理解ノ下ニ、之ガ賛成ヲ致ス者デアリマス、只今上島君ヨリ洵ニ調査研究ヲ重ネラレマシタル所ノ結果ヲ此壇上ニ公ニセラレマシタコトニ付テハ、私ハ多大ノ敬意ヲ拂フ者デアリマス、サリナガラ仰シヤク議論ノ内容ニ至リマシテハ、不幸ニ致シテ立場ヲ異ニシマスル所ノ結果ト致シテ、之ニ反對ヲセザルヲ得ナイノデゴザイマス、試ニ本論ニ入りマスル前ニ當テ、其一二ニ付テ駁論ヲ先ツ試ミタイト考ヘルノデアリマス、上島君ハ第一番ノ所論ト致シテハ、凡ソ此裁判所ガ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ、法律ノ定メタル資格ノ有ル裁判官ガ、法律ニ定メタル範圍ニ於テ、裁判ヲスルデアアル、而シテ其立法ナルモノハ、國民ガ參與ヲ致シテ作り出シタモノデアアルカラ自ラ、民本ノ思想ト云フモノノ其間ニ現レテ、所謂司法參與ノ實ハ、業ニ既ニ舉テ居ルデアリナインデアリマス、而シテ上島君ハ、業ニ既ニ舉テ居ルデアリナインデアリマス、併ナガラ若シ此論法ヲ不當ニ擴充シテ參リマスト云フト、世間總テノ事、殊ニ政治方面ニ關シマスル事ハ、總テ國民ガ料理按排ヲ致シテ居ルト云フ結論ニ到著ヲシナケレバナラヌデアリマス、司法參與ト云フコトハ、詰リ立法ト行政トニ獨立ヲ致シ、直接ニ其司法事務ニ參與スルト云フ意味ガ、此陪審法ノ上ニ現レテ居ルデアリマス、上島君ノ議論ヲ以テ致シマスナラバ、趙盾人ヲ殺スト云フ此春秋ノ筆法ハ、甚ダ其結果ニ於テ不當ニ陷ルデアルト云フコトヲ、私ハ實例ヲ擧ゲテ論破致シテ置キタイト思フデアリマス、試

ニ此警察官ニ對スル所ノ非難ノ聲ハ、洵ニ高イデアリマス併シ此警察官ト雖モ、悉ク法律ノ定メタル資格ノ範圍ニ於テ、法律ノ定メタル範圍ノ行爲ヲ致シテ居ルノデゴザイマスガ若シ此警察官ニ不當ノ行爲ガアッタトキニ、是ハ即チ法律ノ定メタル資格者デアアル、法規ノ定メタル範圍ニ於テ活動ヲ致シタデアアルカラ、國民ガ參與致シタデアルト云フ結論ニ接シナケレバナラヌデアリマス、此意味ヲ御理解ニナレバ第一ノ論ハ此以上申上ゲル必要ハ私ハ無イト思フデアリマス、サスレバ第二ノ議論ハト申シマスル、第二ノ議論ハ詰リ吾々ガ衆望ヲ荷ウテ議員トナッテ居ルト云フコトハ、選舉ニ依ッテナル抽籤トハ自ラ其間ニ趣ヲ異ニ致シテ居ル、勿論選出ノ方法ハ違ヒマシテモ、矢張一ツノ選ニ出ス所ノ方法ノ異ナルニ過ギヌデアリマス、殊ニ此抽籤規定ト云フモノハ、此過渡ノ時代ニ於テハ選出其モノニ付テ、極テ公平ノ價值アラシムベク、苦慮セラレタル結果デアルト云フコトヲ吾々ハ承テ、此意味ヲ諒ト致シテ居ルデアアル、ノミナラズ總テ此陪審員ト致シテ選マル、人ハ、悉ク陪審法ノ上ニ細カナル規定ガアッテ、其資格其モノ、細カナル事ニ付テハ、非難攻撃ヲスル餘地ガアリマスケレドモ、自ラ尺度ト標準ガ定マッテ居ルデアリマスカラ、此趣旨ニ於テ抽籤ヲシ、監督ト云フ者ガ其上ニ在ッテ宜シク得マシタナラバ、上島君ノ言ハル、其愛ハ、或ハ犯人ノ憂タルニ終ルカモ知レヌト私ハ考ヘルノデアリマス、第三ノ御議論ハ、人權蹂躪ノ聲ガ高イト云フコトハ、是ハ公判ニ付スル以前ノ事デアアル、一應御尤デアアル、ソレガ爲ニ吾々ノ方面デハ、鈴木君ガ起訴陪審ノ事ニ付テモ質問ヲシヤウナ譯デアリマスガ、暫クソレハ、別問題ト致シテ、人權蹂躪ノ聲ガアルト云フコトハ、成程起訴以前ノ事若クハ公判ニ移サル、以前ノ事トシマシテ、公判ニ於テ用キル所ノ證據ハ即チ其人人權蹂躪ノ結果ト致シテ移ルベキ或ルモノヲ齎シテ居ルト云フコトニ、御注意ニナラナケレバナラヌデアリマス(拍手)此弊ヲ防グノデアアル、而シテ陪審法ハ陪審法ノ中ニ明ニ規定シテゴザイマス如ク、委員長ノ御報告ニナリマシタ如ク、直接審理規定ニナッテ居ルノデゴザイマスカラ、恐クハ左様ナ愛ト云フモノハ、實際ニ於テハ多クナイト論斷シテ妨ガナイト思フデアリマス、今一ツ御注意ヲ願ヒタイノハ、此陪審ノ規定ヲ、單リ人權蹂躪ト云フガ如キ或種ノ事實ヲ排除スルノミデハナイ、從來極テ不合理ナル、沒常識ナル裁判官ガアッタデアリマス、是ハ裁判官ソレ自體ニ附著シ、纏綿ヲ致シタデアリマス、是ハ裁判官意味ヲ含シテ居ルデアリマスカラ、此兩箇ノ見地ヨリ御考ニナリマシタナラバ、此第三點ニ對スル駁撃モ、亦餘リ價値ノアルモノトハ私ハ考ヘヌデアリマス、第四ニハ自白ノトキニハ陪審ヲ辭シ得ルトカ、若クハ自白ノトキニハ陪審ニ掛

ケナイト云フガ如キ規定ガアルト云フコトデゴザリマシタガ、是ハ陪審法ノ上カラ見マズレバ、中心規定ヲ外レテ居ルノデアリマス、規定其物ガ悪クナラバ、修正シテ運用宜シキヲ得ルノデアリマスカラ、眼目ヲ外レテ居ル、此點ニ多クノ力ヲ傾注スル必要ハナイト思ヒマス、第五ニハ司法ノ性質ト矛盾ヲスル、多數決以テ壓迫ヲスル嫌ガアル、是ハ勿論多數決ニテテ居ルノデアリマスガ、是トテモ英吉利ノ陪審法ニ定メテアリマスガ如ク、全會一致ト云フコトニシマスルカ、若クハ多數決ト云フコトニナルノガ是ガ惡ト云フコトニナリマスレバ、現行ノ構成法ノ規定ヲモ、非難ヲシナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、裁判官ガ評議ヲ致シマスル時分ニハ、總テ多數決ニ依ッテ、如何ナル事件ト雖モ裁判ヲ致シテ居タ、而シテ何等之ニ弊害ガ伴ウテ居ラヌト云フ事蹟ニ鑑ミラレタナラバ、恐ラク思ヒ半ニ及ブコトデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、其次ニハ議會ノ懲罰權、成程是ハ英吉利ノ政治家ガ嘗テ英吉利ノ議會ヲ評シテ、男ヲ女トスルト云フコトハ出來ヌケレドモ、其他ノ事ニ於テハ何等不可能ノ事ハ無イトシテ嘆ジテ、英吉利ノ議會ヲ評シテ云フコトガアルト云フコトヲ承テ、デアリマスガ、此評語ハ或時代ノ或政黨ノ評スル評語トハナルカモ存ジマセヌケレドモ、ソレハ稀有ノ關係デアッテ、稀ニアル事相デアリマスルカラ、一般普通ノ期スル法典ノ上ニ言フベキ非難ノ言葉トシテハ、ドウシテモ贊成スルコトハ出來ヌノデアリマス、其次ニハ總テ此陪審制度ノ上ニハ、其運用ノ上ニ殊ニ非常ニ弊害ガ伴ウテ居ル、是ハ一利一害デ、何事デモ實施ヲ致シマシタ際ニ於テ、利弊ノ伴フト云フコトハ是ハ當然ノ數デアリマス、ソナラズ此點ニ付テハ、嚮ニ我黨ノ代議士鈴木氏ガ質問ノ際ニ詳細述ベテ居ラレマスルガ如ク、弊害ノ聲モアルケレドモ、亦之ヲ廢止シナケレバナラヌト云フガ如キ、強イ意味ノ議論ガ無イノデアリカラ、而シテ實際ニ於テ此陪審法ヲ適用致シテ、自ラ效果ノ舉テ居ルト云フ此實例ハ、陪審法ヲ否定スル譯ニハ參ラヌト云フ議論ガ唱ヘラレテ居リマスルカラ、此點ヲ拜借致シテ御答ヲ致シテ置キマス、其次ニハ治外法權撤去ノ爲ニ陪審制度ヲ創設セヨト云フ聲ガ無イト云フコトデゴザイマシタケレドモ、是等ノ如キハ殆ド駁論スル迄モゴザイマセヌ、人ニ依ッテ自ラ意見ガ異ナル、殊ニ治外法權ヲ行ハナケレバナラヌ程、ソレ程文化ノ程度ノ低イ國ニ向テ、直ニ陪審制度ヲ施行セヨト云フコトハ、寧ろ難キヲ貴ムルト云フコトニナリマスカラ、此點ニ於テ必シモ治外法權撤去ノ爲ニ、ヨリ多ク完全ナル司法制度ヲ築ケト云フ言葉ノ中ニ特ニ陪審ト云フ二字ガ含マナカッタト云フガテ以テ反對論ヲ爲サルノハ、是ハ抑、理ノ當然ヲ言ヒ表ハシタモノデハナイ、若シ私ヲ以テ申シマスルナラバ、司法制度ノ改善ヲ圖リ、内容刷

新ヲ圖レト云フ言葉ニハ、自ラ陪審制度ト云フモノヲ合シテ居ルモノト見テモ妨ナイノデアリマス、是ハ人ニ依ッテ意見ガ違フノデアリマスソレカラ、其次ニハ此第九デゴザイマスガ九ノ分ニ付キマシテハ、或ハ佛蘭西ノ決斷ノ例トカ、若クハ嬰兒壓殺ノ例トカ、婦人ノ罪、色モノヲ舉ゲマシタガ、此點ハ九デゴザイマシタケレドモ、此十五ノ場合ニ於ケル所ノ社會黨ノ首領事例デゴザイマスルクレマンソノ事例デゴザイマス、ソレカラ十八ノ場合ニ於ケル所ノ佛蘭西ノ革命ノ場合はハ一括シテ御答スルコトガ出來ルノデアリマス、稀ニアル現象ヲ以テ一般ヲ律スルコトニハ參リマセヌ、此點ニ付テハ上島君ハ左様ノ議論ヲ屹度スルノデアラウト思フケレドモ、實際此人權蹂躪トカ、其他之ニ類スル行為ト云フモノハ、十中一二シカ無イモノデハナイカ、斯ウ云フ御議論モゴザイマシタケレドモ、是ハ此陪審法ヲ議スル場合ニ於テ、委員會ニ於テ質問應答ガ幾度モ重テラレマシタ、其經過ニ徴シマスルト、免ニモ角ニモ現在ノ司法ノ有様ニ於キマシテハ、此陪審法ト云フモノヲ實施致シテ、國民ヲシテ參與セシメテ、民衆的ノ裁判ヲ爲ス方ガ、免ニモ角ニモ從來ノ弊害ヲ防イデ、更ニ改善ノ實ヲ舉ゲ得ルト云フ議論ガ盡サレテ居リマス、此點ニ於テ私ハ仰テ承テ願ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ又陪審法ト云フモノハ、秘密ニ事ヲ處理スルモノデアリカラ宜シクナイ、併シ此秘密ト云フコトハ、先刻ノ多數決ト同ジヤウニ、從來ノ裁判ト雖モ、總テ人ノ名譽トカ自由トカ身體財產ト云フガ如キモノニ關係スル事柄ハ秘密ニ評決ヲ致シテ、公ニ裁判ヲ爲スコトニナラズ居ルノデアリマス、陪審法ト雖モ決シテ公ニ裁判ヲ爲ス、ソレ自體ヲ禁ジテ居ルノデアリマス、ソレカラ原因無クシテ忌避ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトハ、寧ろ是ハ此陪審法ノ特色デアルト考ヘテ居リマス、ソレカラ公衆心理ニ因ハレテ云々、是ハ時ニ依レバ左様ナ事ガアルカモ存ジマセヌガ、私ノ淺キ經驗ニ依リマスルト、實際ニ携テ人ト云フモノハ、事ノ真相ヲ理解シテ居リマスカラ、世ノ中ニ喧々囂々タル俗論ハアッテモ、之ニ動かサル、ヤウナ裁判ヲスルト云フコトハ、是亦裁判官其人ノ振テ居ル事例ニ徴シテ、斷ジテ私ハ無イト申シテ差支ナイト思フ位デアリマス、ソナラズ、公衆心理ニ因ハル、虞ガアルト云フコトニハ、陪審法ノ上ニハ、管轄ノ移轉ヲ爲スト云フコトノ規定ガアリマスカラ、其公平ヲ維持セシムルニ足ルダケノ餘地ガ置イテゴザイマスカラ、此點ニ對スル反對論モ自カラ價値ナキニ歸スルデアラウト私ハ思フノデアリマス、十七ノ場合ノ此陪審ノ繩束力ノ無イト云フ點ハ、寧ろ陪審法ノ特色デアリ、之ニ依ッテ調和スルコトガ出來ルト云フヤウナ事デアリマシタガ、私ノ意見トスレバ、此繩束力ノ無イ不徹底ナル點ガ

寧ろ本案ノ一大缺點デアルト考ヘテ居ルカラ、此點ハ後ニ私ノ本論ヲ述ベマス時分ニ、少シク論ヲ進メテ見タイト思フノデアリマス、其他ハ殆ド駁シマセヌトモ、自ラ理非明白ナル事デアルト思ヒマスカラ、私ノ駁論ハ此點ニ止メテ置キマス、本案ハ去ル八月ノ當議場ニ於キマシテ可決ニナリマシタ刑事訴訟法案ト共ニ、司法制度ノ一大革新デアルト考ヘテ居リマス、私共ノ黨ノ鈴木富士彌君ガ委員會ニ於テ用キマシタル言葉ヲ拜借致シテ、今少シク強キ言葉ヲ以テ申シマスルナラバ、本案ハ確ニ司法制度ノ上ニ於ケル所ノ、一大革命デアルト申シテ妨ガナイト思フノデアリマス由來此自由ノ存スル所ニハ、革命ハ無イノデアルト云フ見地カラ致シマスルナラバ、我國從來ノ司法制度ノ上ニハ、一大缺陷ガアリ司法事務ノ上ニ一大時弊ノアツタト云フコトヲ稟書スルノガ此案デアラ、即チ斯ノ如キ革命的立法行為ヲ企テ、モ、其弊害ヲ去ラナケレバナラヌト云フ此理由ガ自ラ伏在致シテ居ルガ爲ニ、本案ヲ提出セラレタモノデアルト云フ結論ニ到達ヲ致シテモ、妨ガナイト私ハ思フ次第デアリマス、司法大臣ナリ、茲ニ此本案提出ノ理由書ニ先ヅ依ッテ見マスルト云フト、斯様ニ相成テ居リマス、本案提出ノ理由書ニ依リマスレバ、人文ノ發達國運ノ進歩ニ鑑ミ、刑事事件ニ付陪審ノ制度ヲ樹テ司法制度ノ完備ヲ圖ルハ最モ時宜ニ適スルモノト認ムトアルニ過ギマセヌ、又司法大臣ガ本會議員ニ委員會ノ說明ニ於キマシテ、其理由書ノ趣旨ヲ祖述シ擴張セラレ、且ツ上職裁判官ノ陥リ易キ時弊ヲ防グ爲ニ云々ト附言セラレタルニ過ギナカッタデアリマス、之ヲ要スルニ本案提出ノ理由書ニ依リマスルモ、將タ大木司法大臣ノ御說明ニ依リマスルモ、單ニ我國ノ國情ト民度ニ顧ミテ、且ツ時ニ或ハ上職裁判官ノ陥ルコトアルベキ弊害ヲ慮テ、本案ヲ提出シタノデアルト説明セラレタルニ止マリマシテ、未ダ我國ノ現在ノ司法制度ノ上ニ缺陷ガアリ、又司法事務ノ上ニ時弊ノ矯正ヲシナケレバナラヌモノガアルガ故ニ、本案ヲ提出スルノ必要ガアルト云フコトニハ言及ヲサレナカッタデアリマス、否ナ之ニ言及シ、之ニ觸ル、ト云フコトヲ、故ラニ御回避ナサツタ傾向ガアルノデアリマシタケレドモ、併ナカラ實際ニ於テハ我國ノ過去現在ニ於テ、不合理沒常識ナル所ノ官僚裁判ガ頻發シタト云フコトハ、顯著ナル事實デアッテ、容易ク之ヲ否定セザル、譯ニハ參ラヌト思フノデアリマス、會テ時ノ大審院長デゴザイマシタ横田氏ハ、其事實ノ存在スルト云フコトヲ言明セラレ、其時ノ司法大臣デアツタ岡部長職子ガ之ニ稟書セラレタルコトガアルト云フ事柄ハ、今尙ホ吾々ノ記憶ニ新ナル所デアアルノデアル、近時其人權蹂躪ノ事實ガ多ク致シテ、檢事橫暴ノ聲ガ高イト云フ事ト、並ニ動モスレバ不適實、不合法ナル官僚裁判ノ弊ニ陥リ易イト云フ事

例ノ存スルコトハ、曩ニ鈴木代議士、關代議士ニ依テ、此本會議ニ於テ縷々演說セラレタ所デアリマス、又現ニ此在野法曹界ノ權威者デアル原嘉道博士ハ、五十二頁ニ互ル所ノ大論文ヲ公ニセラレマシテ「司法改善ノ必要」ト題シテ司法制度ノ缺陷ト、人權擁護ノ必要ヲ絶叫セラレテ居リマス、而シテ其論ノ肯綮ニ中テ居ルコトハ勿論デアアルデアリマス、凡ソ斯ノ如キ事例ハ、殆ド放棄ニ違ガナイノデゴザイマスルガ、揭テ、加ヘテ、此司法大臣ノ言ウテ居ラマラス所ニ依リマシテモ、假令將來ニモセヨ、上職裁判官ノ陥リ易イ所、此不合理沒常識ノ官僚裁判官ヨリ其弊ヲ救ハナケネバナラヌト云フ、此意味モハキリ致シテ居ルデアリマス、要スルニ本案ハ斯ノ如ク多クノ期待ヲ以テ此議場ニ現レタモノデゴザイマスルガ、果シテ本案ノ内容實質ト云フモノガ、此期待ニ副フタケノ價値ガ有ルカ無イカト云フコトニ付テ、忌憚ナク申シテ見マシタナラバ、本案ノ内容實質ハ確ニ此期待ヲ裏切ラレテ居ルモノデアルト斷ズルコトハ、極テ悲シムベキモノデアルトコトヲ思フデアリマス、蓋シ此人權ノ保護ノ最終ノ保障ト云フコトハ、裁判ノ適正ナルニ在ルデアリマス、陪審制度ヲ設クルノ事實ノ真相ニ適シ、法律ノ所定ニ合スル、其適正ナル裁判ヲ欲スルニ在ルデアリマス、故ニ世ノ所謂陪審制度ノ眼目規定ト致シマシテハ、第一ニ陪審ノ答申ニ、十分ナル所ノ威力ヲ持タシメナケレバナラヌデアリマス、第二ニ陪審ノ權限ヲ犯罪構成ノ有罪ニ限ラズシテ、情狀ノ點ニ迄及ボサナケレバナラヌデアリマス、第三ニハ陪審ノ適用ノ範圍ハ、廣キ程度ニ迄及ボサナケレバナラヌ即チ此三ツノ眼目ヲ忘レテハナラヌデアリマス、故ニ其規定ノ充實ヲ致シマスルト否トニ依テ、此裁判ノ適正ナルヤ否ヤト云フコトニ極テ大關係ヲ持ツデアリマス、然ルニ本案ノ陪審法ハ、一條ヨリ百十四條ト云フ大キナ箇條ニ互テ居リマスケレドモ、其中心規定ト致シマシテハ、第一ニ此陪審ノ答申ノ效力ヲ認メタル所ノ第一條、及第九十五條、第二ニハ陪審ノ權限ヲ認メタル所ノ第七十七條、陪審ノ適用ノ範圍ヲ認メタル所ノ第三條ニ過ギナイデアリマシテ、其他多クノ規定ハ悉ク其運用規定ニ外ナラナイデアリマス、而シテ就中此第一條ニ於キマシテハ、事實ノ判斷ハ裁判所ガ爲スコトニ規定セラレタル、陪審官ガ之ニ與ラナイ、第九十五條ハ裁判所ガ陪審ノ答申ヲ不當ト認メタルトキニハ、訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス、決定ヲ以テ事件ヲ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ル旨ガ規定シテアッテ、陪審ノ答申ニハ何等ノ羈束力ガ認メテナイノデゴザイマス、第七十七條ハ、陪審ノ權限ヲ犯罪構成ノ事實ノ有無ニ限ラレテアッテ、情狀ノ點ニ迄及ボシテ居ラヌデアリマス、又第二條及第三條ハ、陪審適用ノ範圍ヲ極テ狭小ナル程度

ニ止メラレテアルデアリマス、是ヲ以テ陪審法ノ實施ニ依テ適當合法ノ裁判ヲ得ルト云フコトハ、甚ダ望少イデアリマス、同時ニ銳意熱心ニ陪審法ノ制定實施ニ依テ、過去現在ニ於ケル制度上ノ缺陷——實際上ノ弊害トヲ除イテ、更ニ司法改善ノ實ヲ舉ゲント欲スル國民ノ望モ、亦殆ド絶エタリト謂ハナケレバナラヌ、實ニ浩嘆ノ極デアアルデアリマス、大木司法大臣ハ、我國ノ國民ヲシテ司法ニ參與セシムルデアアル、從來我國ノ國民ハ立法ニモ參與致シテ居レバ、行政ニモ參與シテ居ルデアアルカラ、我國ノ人文發達ノ程度ニ鑑ミテ、國民ヲシテ司法ニ參與セシムルト云フコトハ、極テ必要適切ナル立法行爲デアルト力説サレタデアリマスガ、併ナガラ我が國民ガ立法行政ニ參與致シテ居ルコトハ事實デゴザイマス同時ニ、其參與ヲ致シテ居ル狀態ヲ一瞥セラレマシタナラバ如何デゴザイマス、即チ參與セル範圍ニ於テハ、立法ニセヨ、行政ニセヨ、參與ノ程度ニ於テ、少クトモ國民ハ國政ヲ左右シ得ベキ權威ト資格トヲ備ヘテ居ルデアリマス、單リ司法ノ參與ト申サレマス方面ニ於キマシテハ、陪審法中ノ眼目中ノ眼目トモ謂フベキ陪審ノ答申ノ效力ニ付テ見マスルト、本案ニ依テ國民ヲシテ司法ニ參與セシメラレルト云フ程度ハ、長鞭馬腹ニ及バズト申シマスルカ、非常ニ不徹底無權威ノモノデアッテ、立法行政ノソレノ如ク、參與ノ範圍ニ於テ司法裁判ヲ左右シ得ベキ威力ト資格トヲ認メラレテ居ナイデアリマス、隨テ名ハ陪審ト謂ヒマスケレドモ、實ハ決シテ陪審ニ非ズ、審ニ裁判官ノ參考資料ト致シテ答申ヲ致ス、詰問機關ニ過ギナイ感ガアルデアリマス、摺田法制局長官ハ本會議ニ於テ、鈴木代議士ノ質問ニ答ヘテ、斯様ニ申シテ居ラマラス「陪審員ノ事實ノ認定ガ常ニ裁判所ヲ必然的ニ羈束スルト云フコトハ現在ノ憲法ノ解釋ノ如ク有力ナル部分ニ於テ非常ナル反對ガ起テ來ル此反對ハ合理性ヲ持テ居ル此點ハ避ケナケレバナラヌ同時ニ陪審ノ評議ト云フモノヲシテ威力ナカラシムルコトハ本案制度ノ大精神ニ背反スルニ於テ本案ハ陪審ノ意見ニ於テ居ル裁判所ノ事實ヲ認定ガ出來ナイト云フ組立ニ於テ居ル裁判所ノ意見ガ陪審ノ意見ヲ排除シ陪審ノ意見ヲ無視シテハ常ニ出來ナイト同時ニ陪審ハ常ニ裁判所ヲ拘束スルコトハ出來ナイ此中間性ノ性質ヲ採テ所ニ本案ノ妙用ガアルデアリマス」ト辯明サレテ居ルデアリマス、仍テ本員ハ委員會ニ於テ、其辯明ノ根據ハ本會中ノ何レニ在リヤ御尋致シマシタケレドモ、不幸ニ致シテ其御答ニ接スルコトガ出來得ナカッタデアリマス、而シテ本案ニ對スル同長官ノ答辯ノ要旨ハ、運用ノ妙ヲ發揮スルニ在リト答ヘラレタニ過ギナカッタデアリマス、固ヨリ立法ノ精神ノ存スル所ヲ吾々ガ究メントスルニ當リマシテハ、立法者ノ

立法ノ趣旨ヲ承ルト云フコトハ、其解釋ノ一資料タルニハ相違ゴザイマセケレドモ、凡ソ法令ノ解釋ト云フモノハ、法文ノ上カラ、文理のニ將タ論理的ニ、實意ノ存スル所ヲ追究看取スベキモノデアリマシテ、決シテ法文ヲ離レテ解釋ヲ下スベキモノデアリマシテ、平タク申シマス、法文ハ如何様デアッテモ、立案者ノ立案當時ノ考ハ斯ク々々デアアルカラト云フ如キ解釋ノ仕方ハ、決シテ此解釋ノ原理ノ方カラ許スベキモノデアリマシテ、信ズルデアリマス、而シテ本案中ニ、國民ヲシテ司法ニ參與セシムルト云フ規定ヲ索メテ見マス、前ニモ申上マシタ如ク九十五條デアリマスガ、此條文ノ規定ノ趣旨ハ、陪審ノ答申ニシテ裁判所ノ意見ニ合致シナイトキハ、何時デモ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトガ出來ルデアッテ、恰モ走馬燈ノ如ク、幾度モ幾度モ同一ノ手續態度ヲ繰返スト云フコトガ出來ルコトニナッテ居ル、政府ハ運用宜シキヲ得レバ、實務ヲ執ル上ニ於テ、何等ノ支障ガナイト辯明セラレマスケレドモ、其辯明ニハ法理上何等ノ根據ガ無イ、立案者ノ意見トシテハ斯ク々々デアアルト云フニ過ギナイデアリマスカラ、此御議論ニハドウシテモ贊成スルコトガ出來ナイデアリマス、況ヤ此裁判所ハ注文ノ所ニ從ヒマシテ、第一回ノ答申ガ竟ニ充タナイト第二回ノ答申ヲ徵シ、尙ホ意見ガ合致シナイトキハ、第三回、第四回、甚シキニ至リテハ第百回ニ至リテモ、其答申ノ趣旨ガ裁判所ノ意見ト反スルトキハ、其答申ヲ無視シテ裁判所ノ獨自ノ所見ニ基キテ、事實上ノ判斷ヲ爲スコトガ出來ルト云フ結論ニ到達シナケレバナラヌデアリマス、又一方カラ實際ナク他ノ陪審ノ評議ニ付シ、同一ノ手續ヲ反覆シテ、事件ヲシテ終局ノ機會ナカラシムルカノ一途ヨリ外ニハ無イ、又運動運動ト申サレマシテモ、此法文ヲ曲グルコトハ到底不可能ト思ヒマス、模倣トマデ參ラズトモ、多ク參考ノ資料トナリマシタ歐米先進國ノ立法例ニ依リマシレバ、大抵陪審ノ意見ト云フモノヲ判定、決定、若クハ認定ト云フ術語ヲ以テ表示シテアッテ、而モ或ル程度ノ手續ヲ盡スニ於テハ、陪審ノ意見ハ事實認定ニ關シテハ、裁判所ノ羈束シテ居ルデアリマス、要ハ歐米ノ陪審制度ハ名實相協フ規定ガ置カレテアッテ、國民ヲシテ司法ニ參與セシムル所ノ民衆裁判ノ實ガ舉ッテ居ルデアリマス、然ルニ本案ニハ普通一般ノ陪審制度ト目セラル、モノ、中性規定トモ謂フベク、答申ノ效力ニ付テ規定スル所モ、歐米各國ノ立法例ニ反スルノミナラズ、世界三類例ノ無イ、極テ不徹底無權威ノモノデアアルト云フコトハ、前ニ述ベタ通りデアリマス、ソレ故ニ本員ハ斯ノ如キ微温のナル規定ヲ以テ、政府當局ガ満足セラレタノハ那邊ニ存スルデアアルカ、我が國民文化ノ程度ガ、ヨリ以上ノ司法ニ參與セシムルニ足ラナイト認メラレタニ依ルデアアルカ、

或ハ是以上ノ權能ヲ與フルト云フコトハ、憲法等ノ解釋ニ於テ抵觸スルニ依ルモノカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ辯明セラレテ、前者ハナイ後者アル、即チ憲法ニ裁判トアルノハ、總テ認定權ヲ合シテ居ルノデアルカラ、陪審員ヲシテ事實ノ認定ヲセシムルト云フコトハ、裁判ヲ爲スト云フコトニ歸著スルノ結果ト致シテ、憲法ニ背反スルノデアリト説明ヲセラレタルデアリマス、若シ此見解ヨリ出發致シテ立論ヲ致シマスナラバ、本案ノ如キモ、亦國民ハ或種ノ刑事事件ニ付テ幾多ノ手續ヲ經テ答申ヲ爲サシムルト云フコトハ、少クトモ此陪審ノ斷定の見解ノ發露デアリテ、其内容ノ事實ノ認定ニ屬スルモノデアルト私ハ思フノデアリマス、隨テソレ自體ガ憲法ニ矛盾スル行爲デハナイカト云フコトヲ疑フノデアリマス、是ハ獨リ私ノ一私言デハナイノデアリマス、現ニ此斯學ノ造詣ニ深キ所ノ泉ニ新熊博士ガ國家學會ノ雜誌ノ上ニ論文ヲ公ニセラレテ居ルノデアリマス、其一齣ヲ簡單デゴザイマスカラ、茲ニ讀ンデ參照致シテ置キマス、「憲法ノ制定ノ時ニモ議論ガアツタ所々ノ憲法ニシテ用井ルコトヲ明ニ規定シテアルノガ可ナリアルノデアリト例ヘバ亞米利加合衆國憲法ノ第三條ノ二項普魯西憲法ノ第九十九條三條地利益法ノ十一條白耳義憲法ノ九十八條ガ其通りニナリテ居ル日本ノ憲法ハ大分普魯西ノ憲法ニ倣フ所ガアルト云フ話デアリマスガ普魯西憲法ニ陪審ノ規定ガアルニ拘ラス我ガ憲法ニ之ヲ揭ゲナイト云フノハ全ク其事ニ考ノ及バナイノデハナク歐米ニ於テ陪審ノ爲ニ寧ろ弊害ニ若シンデ居ルト云フ事ヤ日本デハ未ダソノ必要ガ無イト云フコトヤ種々ノ理由ガアツテ之ヲ特ニ入レナカッタノデアラウト思ヒマス、ソレデ憲法ノ規定ヲ見マシテモ陪審ガ裁判ニ關與スルト云フコトハ先少クナイトノ趣旨ニ解釋スル方ガ穩當デアラウト思ヒマス」斯様ニ申シテ居ラル、ノデゴザイマス、其要ハ國民ガ裁判ニ干渉トカ、若クハ干與セシムルト云フコトハ、裁判ニ携ハルト云フコトニナルノデアリテ、結局憲法違反ニナリハシナイカト云フ議論ヲ唱ヘラレテ居ルノデアリマス、即チ本員ガ只今本案ノ如キ規定デモ、憲法違反デハナイカト云フ議論ヲ致シマスルノハ、決シテ本員ノ獨斷偏見デハナイト云フコトハ明デアルノデアリマス、サリナガラ本案ト此憲法トノ權衡ヲ取ラレテ、本案ノ規定ノ程度ニ進退メラレマシタト云フ此一致協調ヲ保タレト云フコトハ、私ハ司法制度改善ノ爲ニ非常ニ欣快ト致ス所デアリマスカラ、此點ニ於ケル憲法違反論ハ暫ク閣上ニ束ネテ置キマシテ、論ヲ上下スルコトハ致シマセヌケレドモ、果シテ政府説明ノ如ク、本案ノ規定ヲ擴張シテ、陪審ヲシテ事實ノ認定ヲ爲サシムルト云フコトガ、憲法違反トナルト云フ御考デアリマスレバ、何ガ故ニ憲法ノ改正ヲモ御企テナラナカッタノデアリ

カト云フコトヲ疑フノデアリマス、固ヨリ此憲法ノ改正ト云フコトハ重大デアリマス、極テ嚴肅莊重ナケレバナラヌノデアリマスケレドモ、顧ミマスレバ我國ニ立憲政治ガ行ハレマシテカラ三十有餘年、議會ヲ開カル、コトガ四十五回ノ多キニ達シテ居リマシテ、時勢ノ變遷進歩ハ極テ著シキモノガアルノデアリマス、特ニ此世界戰爭以來、急轉直下ノ勢ヲ以テ改善ノ氣運ニ赴イテ居リマスノミナラズ、政府ノ説明ニ依リマシテモ、本案ハ司法制度ニ於ケル所ノ一大革新デアリ、後世史乘ニ於ケル一大記録ヲ遺スモノデアルトマデ聲言ヲセラレテ居ルノデアリマスカラ、ソレ程有益ノ一大立法行爲デアリマシタノハ、憲法實施ノ同時デアリ、司法行政ニ參與ヲ致シマシタノハ、憲法實施ノ以前ニアタラデアリマス、司法參與ト云フ濫觴デアル所ノ此陪審制度ヲ確立一致シテ、サウシテ一大新紀元ヲ形造ルト云フ機會ニ於テ、憲法ヲ改正セラレ、ト云フ事柄ハ、洵ニ相應シキ事業ニアラズヤト私ハ思フノデアリマス、同時ニ此絶好ノ機會ヲ逸シナイト云フコトヲ、特ニ私ハ望ムノデアリマス、此意味ニ於キマシテ此意見ヲ提唱スルノデアリマス、政府ハ口ニ此國民ノ眞望ニ副フベキ、司法制度ノ一大改善ヲ圖リシモノデアルト唱ヘラレマスケレドモ、惜ムラクハ實ハ之ニ伴ウテ居リマセヌ、寧ろ國民ノ失望ハ名狀スベカラザルモノガデアリマス、察スルニ政府ハ此國民ヲ司法ニ參與セシムルノ權能ヲ與ヘルモノデアルト云フ美名ヲ博スルニ急ニ致シテ、其事業ヲ企テ、之ヲ遂行スルニ當テ、一大覺悟ト、一大決心ガ缺ケテ居ッタノデアリカト云フコトヲ疑フノデアリマス、此覺悟ト此決心ガ缺如致シテ居ラト云フコトハ、總テ憲法ノ改正ト云フコトハ別ノ問題ト致シマシテモ、其他ノ點ニ於テ頑冥不靈ニシテ、徒ニ固陋ノ見解ヲ持スル或ル一派ノ人々ニ顧慮シテ、逡巡スルノ素因ヲ成シテ、遂ニ本家中ニ規定ノ不完全ナル所ヲ留ムルニ至ラタモノデアルト私ハ思フノデアリマス、特ニ前ニ申述ベマシタ如ク、本案ノ骨子、眞隨デアリ陪審權能規定ノ不完全ナルコトハ、假令憲法トノ調和ヲ保ツコトニ與テ力アツタトハ申シナガラ、主トシテ是等眞劍味ノ努力缺乏ニ原因スルモノデアルト云フコトヲ斷定スルニ、私ハ躊躇シナイノデアリマス、或ハ此本案ハ國民ヲシテ司法ニ參與セシムル新シキ最初ノ試ミデアリ、未ダ十分デアリナイケレドモ全然之ヲ無キニ比スレバ、遙ニ優テ居ルデアリナイカト唱ヘラル、人ガアリマスケレドモ、本案實施ノ曉ニ於キマシテ、隨分多クノ手数ト努力トヲ費シテ、ソレニ伴フ所ノ經費モ亦少クナイノデアリマス、果シテ其得失ヲ得ベキカ否ヤト云フコトハ疑問デアルト思ヒマス、ノミナラズ見方ニ依リマシテ、徒ニ聲ヲ大ニシテ國民ノ心ヲ收攬スベク國ノ立法ヲ

弄フモノデアルト評サレテモ、恐ラク辯解ノ辭ガ無イト思フノデアリマス(ノウ)併ナガラ國民ガ陪審制度ノ實現ヲ希望シテ居ルト云フコトハ、熱烈デアリマスガ故ニ、鷄肋ノ棄テ難キモノトナルト云フハ極端デアリマスケレドモ、折角ニ御提出ニナリマシタモノデアリ、且ツ御提案ニナリマスニ至ルマデノ當局者ノ苦心ト云フモノハ、之ヲ諒トシナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、千丈ノ堤モ蟻蟻ノ一穴ヨリ崩ル、ノ例モアルコトデアリマスカラ、本案ニ於キマシテハ國民司法參與ノ端ヲ啓カレタルト云フ點ニ、多大ノ敬意ヲ表シマシテ、未遂ニ大海ノ波トナルトモ、山水ノ變時木ノ葉ノ下潜ルト云フ信條ヲ合シテ居ル、意味深長ナル横田長官ノ所謂妙用ノ存スルモノト云フ觀念ヲ致シテ贊成ヲスルノデアリマス、併シ古往今來時代ノ趨勢ハ、創業ノ易クシテ守成ノ甚ダ難キモノアルコトヲ示シテ居ルノデアリマス、本案九十五條ノ運用ノ如キハ、何等他ノ法文ノ保障スルモノガ無イノデアリマスカラ、當局御説明ノ通りニ、此實際上ノ效果ヲ收ムルヤ否ヤト云フコトハ、疑問デアリマス、本員衷心ヨリ其前途ニ向テ憂慮ヲ懷ク者デアリマス、願クハ政府ニ於キマシテモ、此點ニ關シテハ周密ノ注意ト最善ノ努力トヲ各マル、ナカランコトヲ、敢テ希望ヲ囑シテ置クノデアリマス、其他陪審員ノ資格ニ關シマスル所ノ、法案第十二條第一項第四號ノ讀ミ書キヲ爲シ得ルト云フ此法文ノ運用ニ付キマシテモ、同様ニ注意ヲ望ムノデアリマス、其次ニモウツ希望ヲ囑シテ置クナケレバナラヌ事ハ、此陪審法ノ十二條一項ノ第三號ニ、引續キ一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルト云フ法文ノ如キハ、私ハ規定自體ニ於テ甚ダ不満足ヲ表スルモノデアリマス、陪審員トナルベキ者ノ資格要件ト致シマシテ、納稅者タルコトヲ要スルト云フガ如キハ、私ハ是ハ時代後レノ規定デアルト考ヘルノデアリマス、退イテ歐米各國ノ立法例ヲ見マスルト云フト、成程略同様ノ規定ガアリマスケレドモ、外國ノ規定ハ古クカラ存在致シテ居ルノデアリマシテ、餘程ノ年所ヲ經テ居リマス、謂ハバ精力ノ然ラシムル結果ト致シマシテ、改正ヲ爲セナイト云フノニ過ギヌノデアリマス、又現狀打破ト云フコトハ、往々ニシテ之ヲ爲スヲ難シズルト云フノガ人間ノ弱點デアリマスカラ、母法ノ國々ニ於テハ、大ニ是等ノ理由ニ基イテ改正ヲ爲サナイモノデアラウト私ハ思フノデアリマス、要スルニ斯ノ如キハ舊時代ノ遺物デアリマス、然ルニ其間何等ノ取捨ヲ加ヘラレルトモナク、悉ク模倣ヲセラレタト云フ跡ノ存スルノハ甚ダ惜ムノデアリマス、此點ニ付テハ我黨ノ作問ヨリ讀ミ書キト云フ條項ニ對シテ、普通教育ヲ卒ヘタル者ト云フ條項ヲ加ヘラレタ、此點ヲ加味セラレテ、即チ斯ノ如キ條文ノ成立ヲ私ハ希望致シテ、納稅條件ノ如キハ、寧ろ撤廢セラレ、ノ極テ

至當アルコトヲ信ズル者アリマス、其他委員長ノ報告ノ希望條件ニ付キマシテハ、ドウカ不審ノ研究ト努力トニ依テ、本案改正ノ機會ヲ捉ヘラル、コトニ御留意アラシコトヲ特ニ希望致シマス、斯ウ申シマスルト、餘リ政府ヲ責ムルコトガ嚴ビシ過ギルデハナイカト云フ御非難ガアリマスルケレドモ、若シ是方既ニ成立タル所ノ法典ニ付テ、成典ニ付テノ解釋デゴザイマスルナラバ、如何様ニモ之ヲ活用スベキ立論ヲ致シテ、其法制ノ效果アラシムベキ運用ノ妙ヲ得ルヲ努ムルコトニ於テ、決シテ人後ニ落ツルモノデハアリマセズガ、苟モ新シキ立法事業デアル一、大立法事業デアルト云フ以上ハ、明ニ不満足ノ點ガアリ、不完全ノ點ノアリマス以上ハ、徒ニ之ニ共鳴ヲ致シテ、輕シク看過スルコトハ出來ナイノデアリマス、サナキダニ隨テ得テ望ムハ人間ノ自然ノ欲求デアリマス、況ヤ只今申シマシタ本員ノ本案ニ對スル希望條件ハ、固ヨリ當然ノ要求デアリマシテ、多キヲ望ムモノデハナイノデアリマス、恐クハ政府當局ト雖モ此趣旨ヲ諒トセラル、コト、私ハ信ジマス、願クハ慮心坦懐ニ以上ノ希望ヲ看取セラレマシテ、一ツニハ本案制定ノ趣旨ヲ達成スベク、運用上ニ十全ノ努力ヲ怠ルコトナク、更ニ研究考慮ヲ重ネラレテ、近キ將來ニ其改正ノ機會ヲ作ルベク御盡力アラシコトヲ、希望シテ已マナイノデアリマス、惟フニ斯ノ如キハ本案ノ陪審制度ヲシテ、眞ノ國民裁判タルノ精華ヲ發揮シ、以テ國民ノ信頼ヲ繋グ所以デアツテ、本案立法ノ效果始テ完キヲ得ルノデアルト考ヘルノデアリマス、之ヲ以テ本案ニ賛成ノ理由ト致シマス

○副議長(粕谷義三君) 定刻ニ近ヅキマシタガ時間ヲ延長致シマス。別ニ他ニ發言ノ通告モアリマセヌカラ討論ハ終結サレマシタ。本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ付決ヲ採リマス、第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔贊成者 起立〕
○副議長(粕谷義三君) 多數デアリマス、仍テ本案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 御異議ハ無イト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

陪審法案

第二讀會

○鶴澤總明君 二讀會ニ於テ修正ガ一箇條アリマスカラ修正案ヲ提出致シマス、即チ第十四條第一項第十三號「辯護士」ノ下ニ「特許辨護士」トアル「特許」ノ二字ヲ削リ修正案ヲ提出致シマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 向ホ板野君ヨリ、成規ノ賛成ヲ得テ修正案ガ提出ニナラテ居リマス、何レ其趣旨辯明、其他討論等ノ通告モアリマスカラ、此際暫ク休憩致シマス
午後五時五十八分休憩

午後六時十九分開議
○副議長(粕谷義三君) 休憩前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、板野友造君ヨリ御提出ニナリマシタ修正案ニ付キマシテ、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス、板野友造君

〔板野友造君登壇〕
○板野友造君 修正案ヲ提出致シテ置キマシタカラ、其趣旨ヲ簡單ニ辯明致シタト存ジマス、時間モ移テ居リマスカラ、極ク之ヲ要約シテ申述ベタト思ヒマス、修正ハ第一條、第二條、第四條、第九十一條、九十五條、此五箇條ニ互リマスモノデ、其分量カラ申シマスレバ、極メテ小サナル修正デアリマス、デハハ諸君ノ御手許ニ既ニ印刷シテ配付サレテ居リマスト存ジマスルカラ、此修正ヲ致シタト云フ條項ニ付テ、一々申述ベマスルコトハ、之ヲ省キマス、唯修正致シタト思ヒマスル眼目ハ、陪審ニ付スベキ事件ノ範圍ヲ原案ヨリモ、モウ一ツ擴大シタト云フコトガ第一點、モウ一ツハ陪審ノ效力——陪審ノ效力ヲ原案ヨリモ、モウ少シ増加シタト、即チ事實認定權ヲ陪審ニ與ヘテ、サウシテ陪審ノ決定ヲ以テ裁判所ヲ拘束セシムルコト、斯ウ云フ事ニ致シタイ、前刻鶴澤委員長カラ委員會ノ經過及結果ヲ御報告ニナリマシタ際ニ、委員長カラハ國民黨ノ修正案ハ、憲政會ノ修正案ト餘リ違ハナイモノ、ダト云フ御報告ガアリマシタガ、憲政會ノ御修正ニナラウト云フノハ、陪審ニ付スベキ事件ノ範圍ヲ擴大シヤウト云フ事ト、其他ハ辯護權ニ關スル事ト、モウ一ツハ七十九條云々ト云フ事デ、委員會ニ於テ憲政會カラ提出サレタ修正意見ハ、斯ウ云フ點デアリマスルガ、私共ノハ是ヨリハ餘程進んで、陪審ノ效力ニ關シ、憲政會ノ諸君ガ委員會ニ於テ提出サレマシタヨリハ、進んで陪審ノ決定ニ裁判所ヲ拘束スルノカヲ與ヘヨト云フ點ガアリマシテ、此點ハ餘程進んで、趣旨ノ違フモノデアルト云フコトヲ——失禮デアリマスルガ、委員長ノ御報告ヲ訂正ヲ致スト言ッテハ、語弊ガアルカモ知レマセヌガ、誤デアツコトハ誤デアリマスカラ、此點ヲ是正致シテ置キマス、斯ウ云フ事件

ノ範圍ヲ擴大スルコト、其效力ヲ強カラシメルコト、是ガ大ナルモノデアツテ、其他ハ唯原案ニハ陪審ノ答申ハ過半数ヲ以テ決スルト云フモノヲ、全會一致ト云フコトニ致シ、委員長ガ御報告ノ際ニ述ベラレマシタ如ク、英國ノ法制ニ則リ、滿場一致ノ決ヲ要求致シテ、斯ウ云フ事ニナツタ、ソレカラモウ一ツハ、屢問題ニナリマスル第九十五條デアリマス、理論ノ上カラハ、十回デモ、二十回デモ、百回デモ、二百回デモ突戻シテ、新ナル陪審ニ付シ得ルト云フ——不徹底ト申シマスルガ、甚ダ古今獨歩、東西其例ヲ見ザル新案ノ此立法ニ對シテ修正ヲ加ヘ、二回ヨリ出來ナイ、斯ウ云フ制限ヲ加ヘル、是ダケデアリマス、斯ウナリマスルト、別段何故ニ修正ヲスルコト云フ理由ハ、餘リ管見シ申シマセヌデモ、此修正ヲ致シタ條項ヲ讀ンデ直ニ分ルコト考ヘマスルガ、事憲法トノ關係ヲ持チマスルカラ、私モ一言辯明ヲ致シテ置キタイト存ジマス、此陪審制度ガ必要アルカ否ヤト云フコトハ、此際申述ヘル必要ハナイ、陪審制度ガ必要デアルト云フコトハ、我ガ衆議院ニ於テハ、第二十六議會ニ於テ大多數ヲ以テ可決致シ、サウシテ政府ニ其提案ヲ要求致シテ居ル程デアリマスルシ、政府既ニ此要求ヲ容レテ、本案ヲ出シテ居ルノデアリマスカラ、議會ノ所見ト政府ノ所見トガ、其必要ヲ認メル上ニ於テ一致ヲ致シテ居ル、今日此陪審必要論ヲ唱ヘル必要ハアリマセヌ、此點ハ略シマスルガ、前刻鶴澤委員長ノ御言葉ニモ在リマシタ如ク、此普通選舉ト陪審制度、普通選舉ト陪審、是ガ立憲政治ノ骨髄デアリ、眞隨デアル、斯ウ云フ意味ヲ鶴澤博士カラ此席ニ於テ述ベラレマシテ、私共全然同感ニ存ジマス、普通選舉ト陪審、是ガ立憲政治ノ兩骨子デアルト私共ハ思ッテ居リマスルガ、陪審ノ必要ノコトハ、申述ヘルコトガ不必要デアリマスルカラ、是ハ略シマス、略シマスルガ、唯ソレデハ陪審トハドシナモノカ、政府ノ述ベル所ニ依テ見マスルト云フト、陪審ト云フコトガ、別ニ一定シタモノデハナイカラト云フヤウナコトガアリマスルガ、曩ニ我ガ衆議院ガ、二十六議會ニ於テ可決ヲ致シ、或ハ日本辯護士協會其他ノ學者若クハ政治家ガ、之ヲ要求ヲ致シテ居タ陪審トハ、ドウ云フモノデアルカト申シマスレバ、一口ニ之ヲ述ベマスレバ、陪審トハ刑罰事タケニ付テ述ベマスレバ、犯罪トナルベキ事實ガ有ルカ無イカト云フ、此事實上ノ判斷、事實上ノ認定ヲ、全然之ヲ國民ニ委スル、即チ陪審ニ事實ノ認定權ヲ一任シテ、サウシテ陪審ノ手ニ依テ認定確定ヲサレタル事實ニ對シテ、裁判所ハ法律ノ適用ヲスル、法律ヲ適用シテ宣告スル、斯ウ云フ風ニ且ツト是ガ陪審ト云フモノ、世界共通ノ意義デアリマス、即チ事實ノ認定ヲ陪審員ノ手ニ委スル、是ガ陪審ノ精神デアル、陪審制度ノ精神

〔贊成者 起立〕
○副議長(粕谷義三君) 多數デアリマス、仍テ本案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 御異議ハ無イト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

〔贊成者 起立〕
○副議長(粕谷義三君) 多數デアリマス、仍テ本案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 御異議ハ無イト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

〔贊成者 起立〕
○副議長(粕谷義三君) 多數デアリマス、仍テ本案ハ第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔贊成「贊成」ト呼フ者アリ〕
○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

本院之決定ヲ致シテ居ルノデアル、此建議案ヲ通過致シタトキニ、憲法ニ對スル本院ノ決議ト云フモノハ、院議ヲ以テ確定サレタト云フ外ハアリマセヌ、今日ニ至テ事實ノ認定モ所謂裁判ノ中ダナド、云フコトハ、是ハ爲ニスルト云フノ外ハナイ、爲ニスルト云フカ、或ハ此院議ノ趣旨ヲ没却セルモノデアラカ、二者其一ニ居ラザルヲ得ズト信ジマス、孰レニシテモ誤レルモノデアルノミナラズ、此松田君外四名が提出者トナテ通過致シタ此建議ニ基イテ臨時法制審議會會が出来、臨時法制審議會ニ於テ作ラレタル陪審制度ノ綱領ト云フモノが出来、之ヲ參考シテ司法省ニ於テ陪審法ノ草案ヲ作テ、之ガ樞密院ニ懸テ、樞密院ノ議ヲ經タモノデアルト云フコトハ、此順序ハ委員會ニ於テ政府モ之ヲ御認ニナテ居リマス、即チ松田源治君ノ此建議ガ本トナテ、本案ガ提出サレルヤウナ順序ニナラ、此順序ニ付テハ政府モ委員會ニ於テ答ヘラレ其通りト云フコトニナテ居ル尤其中ニ松田源治君ト云フ名前ハ私ハ聞カナカク、此順序ハ政府ニ於テモ述ベラレテ居リマス、所ガ大正八年七月十六日ニ原内閣總理大臣ガ臨時法制審議會ニ於テ演説ヲナサテ居ル、其御演説ヲ伺テ見マス、矢張只今ノ松田君ノ建議案ニ基イテ、此陪審制度ノ審議ト云フモノガ始メラレタト云フコトガ明ニナテ居ル、其原總理大臣ノ御演説ノ趣旨ヲ伺ヒマスト云フト、斯ウ云フコトニナテ居リマス、陪審ハ憲法政治ニ伴フ司法權ノ行使デアアル、我國亦之ヲ採用セザルベカラズ裁判官ノ公正ハ之ヲ疑フノデハナイケレドモ、國民ヲシテ法律上無關心ノ地位ニアフシムルハ憲法上適當ニアラズ、往年衆議院之ヲ建議シタルハ眞ニ故アリト謂フベシ、今や國運振張シ、人文發達シ、宜シク此陪審制度ヲ設クルニ於テ適當ナル時デアアル、衆議院ノ建議ハ洵ニ故アル建議デアルト云フノデ、法制審議會ト云フヤウナモノヲ設ケラレタモノデアルト云フコトハ、疑無キコトニ相成テ居リマス、益、以テ此衆議院ノ建議ノ趣旨ト云フモノハ尊重シナケレバナラズト信ジマス、斯様ナ譯デアリマスルカラシテ、事實ノ認定ハ之ヲ憲法上ノ裁判ト云フモノニ含マスベキモノニアラザルコトハ、我衆議院ニ於テハ之ヲ既ニ議決セルモノデアルト云フコトヲ覺悟シナケレバナラズモノデアルト考ヘマス、テ今更陪審ニ事實ノ認定權ヲ與ヘルノ憲法違反ナドト云フコトハ言ヘナイモノダト私共ハ確信ヲ致シマス、ソレデアリマスルカラシテ、憲法上ノ之ガ問題デアアル、憲法トノ牴觸ヲ恐レタト云フコトハ恐レラレタカモ知レマセヌケレドモ、吾等カラ見マスレバ深ク問題トスベキモノデアナイ、斷乎トシテ吾々ガ二十六議會ニ於テ要求ヲ致シテ居ル趣旨ヲ貫徹スルヤウニスルコトコソ、我衆議院ノ爲スベキ當然ノ道デアルト信ジマス、尙ホ茲ニ御一考ヲ願ヒタイト考ヘマスノハ、若シ

今日ニ於テ事實ノ判斷ガ憲法上ノ裁判ト解釋ヲ致シテ一是ハ政府ニ於テハ斯様ニ解釋致シテ居ル、政府ハ斯様ニ申シテ居リマスカラ、若シ此解釋ノ下ニ立案サレタト云フ本案ニ協賛ヲ與ヘ、茲ニ憲法ニ對スル本院ノ解釋ヲ一變シテ、サウシテ事實ノ認定ガ裁判デアルト云フコトニ致シタナラバ、將來憲法ヲ改正スルニアラズンバ、吾々ガ要求ヲ致シテ居ル陪審世界共通ノ意味ニ於ケル陪審ト云フモノハ、之ヲ施クコトが出来ナイ結果ニナルト云フコトモ、亦覺悟ノ一ツニ入レナケレバナリマセヌ(拍手)デ斯様ナ譯デアリマスルカラシテ、私共ハ此事實ノ判斷ハ陪審ニ一任スルト云フ世界共通ノ理論ニ從テ立法ニ改メタイ、斯様ニ考ヘマス、尙ホ一言ヲ茲ニ附ケマスガ事實ノ認定ト云フコトガ絕對ニ憲法上ニ謂フ裁判デアルト云フナラバ、頗ル遠慮ヲサレタル不徹底ナル本案モ、亦憲法違反ノ誹ヲ免レナイコトヲ覺悟シナケレバナラ、何故ナラバ政府ノ御言明ニナリマスル如ク、陪審ノ意見ハ裁判所ヲ拘束スルカハ無イ、裁判所ハ陪審ノ意見ニ悖反シテ事實ノ認定ガ出來ナイト云フ組立ニナテ居ル、之ガ横田政府委員ノ答辯、斯ウ云フ風デ陪審ノ意見ニ悖反シテ事實ノ認定ガ出來ナイ組立ニナテ居ルト云フナラバ、此點ニ於テ事實ノ認定權ニ消極的ノ制限ヲ受ケテ居ルデハナイカ、若シ事實ノ認定權モ憲法第五十七條ノ所謂天皇ノ名ニ於テ裁判所ガ行フモノデアラナラバ、行ハ無限絕對ノモノデアナケレバナラズ、之ガ天皇ノ名ニ於テ行ハ無限絕對ノモノデアナケレバナラズ、之ガ宥喙シニ之ヲ加ヘルコトヲ許サザルモノデアナケレバナラ、然レニ政府自ラ言ヘル如ク、陪審ノ意見ニ拘束ハサレナイケレドモ、意見ニ反シテ事實ノ認定ガ出來ナイト云フナラバ、既ニ此點ニ於テ消極的ノ制限ヲ受クルコトニ相成ルカラシテ、矢張憲法違反ノ疑ヲ生ズルノデアアル(拍手)斯様ナ譯デアリマスルカラシテ、私共ハ不徹底ト申シマス、有名無實ト申シマス、法律上ニハ何等ノ拘束力ヲ與ヘナイナドト云フヤウナ無意味ナ、殆ド陪審ノ香ダケスルト云フヤウナ本案ニ對シマシテハ、此儘貫成ハ出來マセヌカラシテ、修正案ノ如ク修正ヲ致シテ、本當ノ陪審ト云フコトニ致シ、立憲治下ニ於ケル眞髓ナリト委員長モ稱セラルナラバ、國民ヲシテ事實ノ認定權ヲ與ヘ、國民ガ承認シタモノニ裁判所ガ初テ法律ヲ適用スルト云フ事カラ、之ガ立憲的デアリ立憲ノ骨髄ニナル、名前ガデ何等ノ認定權ヲ與ヘナイ、國民ニ何等ノ事實認定權ヲ與ヘナイト云フナラバ、陪審ノ香ダケスルデアアルカラ、立憲政治ノ骨髄デモ眞髓デアリマセヌ、斯様ナ意味ヲ以テマシテ、私共ハ本案ヲ運用シテ、最モ意義ノ有ルモノニ致シタイ、斯ウ云フコトデ其效力ニ甚大ナル拘束力ヲ與ヘタイ、之ガ修正ノ一ツ、モウ一ツハ事件ノ範圍ヲ擴大

シタイ、是ハ殆ド説明ヲ要シマセヌ、元法制審議會ガ決定ヲサレタ綱領ニモ、亦其綱領ニ基キ司法省ガ作製シタ原案ニモ、總テ刑法第二編第一章乃至第四章及第八章、即チ政治犯若クハ國事犯、或ハ騷擾罪、斯ウ云フモノハ總テ陪審ニ付スベキモノト規定ヲサレテ居ラタモノガ、樞密院ニ行テ突如トシテ削ラレルトコトニナタラデアリマス、法制審議會ノ意見モ、司法省ノ意見モ、是等ハ固ヨリ當然陪審ニ付スベキモノト決定サレタノデゴザイマス、一面ニ於テハ多少少此世ヲ騷ガシ、或ハ公正ナル冷靜ナル、陪審員ノ判斷ヲ缺クノ虞ガアルカモ知レマセヌケレドモ、是等國事犯、若クハ政治犯ト云フヤウナモノハ、免ニ角世ノ事情ト合セテ見テ、サウシテ所謂國民的判斷、即チ陪審ニ付スベキ必要ガ斯ウ云フ事件ニ存存スルト思ヒマスカラシテ、私共ハ是等ヲ法定ノ陪審事項ニ致シタイ、之ガ修正ノ趣旨デゴザイマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○副議長(粕谷義三君) 是カラ討論ニ入りマス、野副重一君

(野副重一君登壇)

○野副重一君 私ハ只今板野君ニ依テ説明セラレマシタ修正案ニ對シテ、反對ノ意見ヲ述ベル者デアリマス、板野君ノ修正意見ノ第一ノ條項ハ、陪審ノ效力ヲ徹底ナラシムル案、即チ陪審ガ事實ノ認定ニ下シマシタル斷案ハ、裁判官ヲ羈束スルト云フコトニ更正ヲシタイ、若シ陪審ガ裁判官ノ意見ノ通りニ決定ヲシナイ場合ハ、一回ダケハ更ニ新ナル陪審ニ付スルコトが出来ルト云フ第一條、第九十五條ノ修正ヲシタイト云フノガ、陪審ノ效力ニ關スル修正デアアルデアリマス、此修正ニ付テハ色々議論ノ有ラコトデゴザイマス、實際上ニ於テ外國ノ立法ニ於テ、事實ノ認定ニ付テ陪審員ガ下シタル判斷ハ、裁判官ヲ羈束スルト云フ立法ガ確ニ多イニ違ヒハナイ、併ナカラ之ニ反スル立法ト云フモノガ、必シモ不徹底デアアル、必シモ不可ナルモノデアルト云フ斷案ハ下スコトが出来ナイノデアリマス、本案ニ於キマシテハ、陪審員ガ事實ニ付テ判斷ヲ下シマシタ時分ニハ、裁判官ガ陪審員ノ意見ニ一致シマスレバ、直ニシテ裁判ノ内容ヲ爲スノデゴザイマスガ、若シ裁判官ガ意見ノ違フ所ガアルト思ヒマス時分ニハ、其陪審委員ヲ止メマシテ、新ナル陪審員ノ審議ニ付スル、サウシテ今度又陪審員ガ前ノ陪審員ト同ジ判斷ヲ致シマシタ時分ニハ、裁判官モ成程自分ノ所說ガ誤ラテ居ラト云フコトヲ自省スルコトガアルデアリマセウ、又或ハ陪審員モ新ナル陪審員ガ出テ參リマシタ時分ニハ、今度ハ裁判官ノ意見ト一致スルヤウナ判斷ヲスルコトガアルデアリマセウ、ソレハ實際ノ運用ニ於キマシテハ、誠ニ妙用ヲ發

揮スルコトが出來ルデアラウト思ハレルノデアリマスカラ、時
トシテハ裁判官ノ意見が當ラヌ事モアル、又時トシテハ陪審
員ノ意見が當ラヌコトモアリマスカラ、互ニ其意見ノ違フ所
がゴザイマス時分ニハ、相自省シテ一致スル所ニ進ムト云フ
コトハ、決シテ惡イ事デハナイ、サウ致シマスレバ、非難トシテ
ハ何回デモ陪審員ヲ新ニスルコトが出來ルト云フ時分ニハ、
判事ノ勝手ニ何十回、何百回ト雖モ陪審員ヲ更ヘルコトが
出來レバ、陪審員ノ效能ト云フモノハ、全く無イデハナイカト
云フ議論モ、委員會ニ於テ度々繰返サレタノデアリマス、單
ニ理窟カラ申シマスレバ、其通りデアリマスガ、此點ニ付テハ
馬場政府委員ガ誠ニ適切ナル説明ヲサレタノデアリマス、ソ
レヲ御紹介致シマス、憲法ノ第五條ニハ天皇ハ帝國議會ノ
協賛ヲ以テ立法權ヲ行フト云フコトガ書イテアル、第六條
ニハ天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命スト云フコ
トガ書イテアル、兩院ヲ通過シタル法律案ト雖モ、天皇ノ御
裁可ガナケレバ效力ヲ發生シナイノデアリマス、即チ何回兩
院ヲ通過スルト雖モ、御裁可ニナラナケレバ法律ノ效力ヲ
生ゼナイ、此場合ニ於テ何十回、何百回兩院ヲ通過シタル
法律ガ、御裁可ニナラヌト云フコトガ、サウ云フコトハ
吾々ハ想像ハセナイ、矢張實際ノ運用ニ於テサウ云フコトハ
無イノデアリマス、即チ陪審ノ制ニ於キマシテモ、法規ノ上カ
ラ申シマスレバ、極端ナ例ヲ取リマスレバ、何十回、何百回ト
雖モ、陪審ハ新ニスルコトが出來ルノデアリマス、ケレバ、
ドモ、實際ノ運用ニ至リマスレバ、陪審員モ常識ノ有ル人デ
アル、裁判官モ知識有ルノデアリマスカラ、互ニ自省ヲシテ
一致スル所ニ進ムノデアリ、ソレガ正シイ見解ノヤウデゴザイ
マスカラ、原案ノ如ク致シマスレバ、陪審ノ效力ガ全く無イ
モノデアル、或ハ陪審ガ行詰リニ終ルモノデアルト云フコトノ
議論ハ、ドウシテモ認定スルコトが出來ナイ、實際ニ於テ相
當ニ運用シ能フモノデアルト云フコトハ、委員會ニ於テハ十
分ニ承認サレタルコトデアルト思フノデアリマス、第二ノ問
題、即チ板野君ノ説明ヲサレタル如ク致シマスレバ、憲法ニ
抵觸ヲスルヤ否ヤ、即チ陪審員ノ決定ト云フモノハ、裁判官
ノ羈束スルト云フコトニナレバ、憲法ニ抵觸スルヤ否ヤ、是ハ
重大ナル問題デアアルノデアリマス、即チ事實ノ認定ト云フモ
ノハ、是ハ裁判ト云フモノ、中ニ包含スルカ、シナイカト云
フコトニ依リノデアリマス、此問題ニ付テハ、法曹ノ間ニモ隨
分ニ議論ガ分レテ居ルノデゴザイマス、今日此問題ニ對シマ
シテ、衆議院ガ議決シタコトガアルカラト云フモノ、ソレヲ
推シマシテ、之ガ日本全國ノ通論デアアル、何人モ異議ヲ挟ム
コトガ出來ナイモノデアルト云フコトハ、到底言フコトが出
來ナイノデアリマス、委員會ニ於テモ、政府委員ニ於テモ此

點ニ付テハ、十分ニ合理的ト見ルベキ反對論ガアルノデア
カラ、若シ之ヲ板野君ノ言ハレルヤウニ、事實ノ認定ハ裁判
官ノ拘束スルト云フコトニナレバ、ドウシテモ憲法上ノ問題ヲ
惹起サズニ居レナイト云フコトヲ言フテ居ラレルノデアリマス
今日ニ於テ此問題ヲ是非解決セネバナラヌ必要ニ吾々ハ
迫ッテ居ルノデアアルカ、此問題ヲ解決シナケレバ、陪審法ト
云フモノガ出來ナイノデアアルカ、若シ出來ナイト云フコトデ
ゴザイマスルナラバ、如何ナル難關ヲ排シテモ解決ヲセナケレ
バ、ナラヌノデアリマス、如何ナル難關ト云フモノヲ解
決ヲセナイデ、適當ナル陪審法ト云フモノガ制定ガ出來ルト
云フコトデゴザイマスルナラバ、其問題ハ他日ノ研究ニ殘シ
テ置キマシテ、サウシテ適當ナル法案ヲ解決シテ社會ノ實狀
ニ副フ所ノ制度ヲ立テルト云フコトハ、吾々立法者トシテ最
モ注意スベキ事柄デアアルト思フノデアリマス、(拍手)故ニ此
點ニ對スル板野君ノ憲法論ニ對シマシテハ、私ハ其所論ガ
適當デアアルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、之ヲ明言スルノ必
要ハナイ、ソレハ板野君ノ御議論トシテ相當ナル根據ノアル
御議論ト思フノデアリマスカレドモ、其問題ヲ解決セナイデ、
其問題ニ觸レナイデ、今日ノ立法ヲ爲ス、即チ原案ト云フモ
ノハ此場合吾々ガ最モ適當ト看做スベキモノデアルト云フ
事ヲ申上ゲテ置クノデアリマス、第二ノ修正ノ意見ハ陪審
ノ範圍、即チ陪審ニ付スベキ事件ノ範圍ト云フモノヲ擴
グタイ、是モ一應御尤ノ理由ノアル論デアリマス、併ナガ
ラ陪審ト云フモノヲ如何ナル範圍ニ爲スベキカト云フ事
ニ付テハ、決シテ一定ノ原則ガアル譯デアナイ、第一ニ日
本ノ今日ノ原案ニ依ルト云フコト、民事ト云フモノハ一切
陪審ニ付セナイト云フコトニナテ居ル、外國ノ立法ハ
多分民事ニモ陪審ヲ付シテ居ルノデアリマス、又板野
君ノ認メラレル範圍ニ於キマシテモ、極ク輕イ刑期ノ犯罪
ニ付テハ陪審ヲ付セナイト云フ事ヲ認メラレテ居ルノデアリ
マス、如何ナル事案ニ對シテ陪審ヲ付スベキカト云フ事ハ、
唯一ニ其時ノ國情ニ依ルベキモノデアリマシテ、斯ノ如キ
モノハ必ズ陪審ニ付セナケレバナラヌト云フ根本ノ道理ガア
ル譯ノモノデアリマス、(拍手)即チ板野君ノ修正ニ
依リマシテ如何ナルモノヲ陪審ニ付スベキカト云フコトニ爲
サントサレルカト云フ事ヲ考ヘテ見マスレバ、皇室ニ對スル
罪、内亂ニ關スル罪、外患ニ關スル罪、國交ニ關スル罪、騷擾
ノ罪、是等ノ罪ニ對スル所ノ事案ヲ總テ陪審ニ付シタイト
云フ御意見デアアルノデアリマス、勿論是等ノ問題ハ陪審ニ
付シテ適當ニ解決スルニ宜シイ問題デアラウトハ思フノデ
ゴザイマスカレドモ、此皇室ニ關スル罪ノ如キ、内亂外寇其他
ノ騷擾等ニ關スル問題ニ付キマシテハ、動モスルト云フト判
斷ガ冷靜ヲ缺ク場合ガナイトモ限ラヌノデアリマスルノデア

ル、即チ原案ニ依リマスレバ、死刑又ハ無期懲役又ハ無期
ノ禁錮ニ當ル事件ニ付キマシテハ、法律上當然陪審ヲ付サ
ナケレバナラヌ、又第三條ニ依リマスルコト云フト、長期三年
ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ當ル事業ニ付キマシテハ、
當人ノ請求ニ依リマシテ陪審ヲ付スルト云フコトニナ
ル、此第三條ノ長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ
當ル事件ト云フモノガ、ドレ位アルカト申シマス、實ニ刑法
上幾十箇條アルト云フノデアリマスルノデアアル、殆ド數ヘ立
テラヌ位澤山ノ罪狀ガ其中ニ數ヘラレルノデアリマス、サ
ウ云フ風ニ考ヘテ見マスレバ、吾々ガ今回初テ陪審ノ法ヲ
制定ヲシヤウ、其陪審法ヲ制定スルニ付キマシテハ、絕對ノ
反對ノ意見サヘモアル場合デゴザイマスカラシテ、最初ノ試
トシテ萬過失ナキヲ期スルガ爲ニ餘リニ冷靜ヲ缺クヤウナ
事ガアツテハ、事實ノ判斷ニ非常ナ影響ノアルコトデゴザイマ
スカラシテ、原案ノ通りニシテ荷モ冷靜ヲ缺クガ爲ニ重大ナ
ル國ニ累ヲ及ボスヤウナ事案ト云フモノハ省イテ、先ヅ原案
ノ通りニ實行ヲ致シマシテ、陪審ノ制度ガ其運用ガ宜シキ
コトモ決シテ遲シトセナイト思フノデアリマス、(拍手)ソレカラ
第三ニ板野君ノ修正ニ依リマスルコト云フト、第九十一條ニ
修正ヲ加ヘマシテ、犯罪ノ構成事實ヲ肯定スルニハ、陪審
員全員一致ノ意見ニ依ルコトヲ要スト云フコトニシテ、全
員一致ヲナケレバ有罪ノ決定ハ、出來ナイモノデアルト云フ
コトニ改メタイト云フ御意見、是ハ成程英吉利ノ法律ニハ
其通りニナテ居リマスルガ爲ス、是ハ二付テハ、餘程熟考ヲ要
スルコトデアリマス、十二人ノ人が集リマシテ事實ノ判斷ヲ
スル時分ニ、總テ一人ガ一致スルト云フコトハ中ニ困難、實
際ニ於テ非常ニ困難ナノデアリマス、其一致ヲセナイ間ト云
フモノハ陪審員ヲ外ニ出スコトハ出來マセヌノデアリマスル
カラ、陪審ニ入ラレルト云フ時分ニハ非常ノ覺悟ヲ要スル
ト云フ實際ニナテ居ル、又成ベク一致サセヤウト云フノデア
リマスカラ、裁判所ハ陪審員ヲ密室監禁ノヤウニスルノデア
リマスルノデアアル、殆ド今日デハ多少緩和ヲサレテ居リマス
ケレドモ、食物モ與ヘナイデ密室監禁ヲシテ、成ベク早く一
致ヲスルヤウニト云フヤウナ工合ニシタノデアリマス、ソレガ
爲ニ或ハデス、鐵引ヲシテ採決ヲシタ例モアル、或ハ面白
例ガアリマシテ、陪審ニ喚バレルト云フト中ニ歸ルコトガ出
來ナイ、御飯モ食ヘルコトガ出來ナイト云フノデアリ、氣ノ利イタ
陪審員ハ長靴ヲ穿イテ長靴ノ中ニ豆ヲ一パイ詰メテ行ッテ
嚙ッテ居タト云フ話モアリマスルノデアアル、中ニ此陪審員ノ
全員ノ一致ト云フコトハ困難デアリマスルカラシテ、矢張大
陸ノ立法例ニ於テハ此點ノ折衷ヲシテ多數決ト云フヤウナ
例ヲ採ッテ居ルノデアリマス、是ハドウモ據ロナイコトデア

ウト思ヒマス、此一致ト云フコト極端ニ求メマスル時分ニ於テハ、陪審員ヲ幾度モ幾度モ變ヘナクテハイケナイ、英國ニ於テハ陪審員ガ一致ヲシメヌ時分ニハ、相當ナ期間評議ヲサセテ一致ヲシメヌ時分ニハ、其陪審員ヲ解散シテシマフト云フコトニナラズ居ルノデアリマスルノデアアル、解散ヲシテ何過モ何過モ新シイ陪審員ニ付スルト云フコトガ容易ナコトデハゴザイマセヌカラシテ、矢張先刻或ル御方ノ辯論ノ中ニモゴザイマシタル通りニ、今日ハ裁判官ノ評議ト云フモノモ多數決ニ依テ居ルノデアリマスルカラシテ、矢張多數決ニ依ルト云フ原案ヲ認メテモ相當デアラト思フノデアリマス(拍手)

板野君ノ第九十一條ノ第二項ノ修正意見ハ、是ハ何ト考ヘテモ面白クナイ、是ハ御熟考ガ或ハ失禮ナガラ足ラナク、ト思フ、即チ只今申上ダマス通りニ、英吉利ニ於テハ陪審員ニ付スルノデアアル、然ルニ之ニ折衷案ヲ第二項トシテ附加ヘニナリマシテ、犯罪事實ヲ肯定スル、陪審員ノ意見一致セザルトキハ、之ヲ否定シタルモノトスト云フコトヲ御出シニナタ、ドウ云フ結果ニナルカ、十二人ノ陪審員ガアル、一致セナイト云ヘバ、十一人ガ有罪ト言フケレドモ、一人ガ無罪ト言フ唯一人ノ爲ニ、十一人ガ有罪ト言フケレドモ、一人ガ無罪ト言フ罪説デアアル爲ニ、矢張無罪ニナラフコト云フコトニナルハ、ドウシテモ實際ニ於テサウ云フコトハ宜クナイコトデアリマスルカラ、英吉利法制ヲ御採リニナルナラバ、矢張一致セナイ時分ハ新ナル陪審ニ付スルト云フコトニナラナケレバ、ナラヌ、是ハ徹底セヌ爲ニ斯ウ云フ誤ヲ來シタモノト思フノデアリマス(拍手)陪審ノ制度ノ當否等ニ付テハ、上島君等ヨリ色々御議論モアリマシタ、自分ニ於テモ相當申上ダゲタイト云フ意見ガゴザイマシタルケレドモ、既ニ二讀會ニ移シテ居ルコトデゴザイマシカ、其點ニ付テハ意見ヲ申上ダゲセヌ、此陪審法案ガ吾々ノ面前ニ現レル迄ニ於キマシテハ、朝野ノ法曹ガ非常ニ長イ間議論ヲ致シマシテ、法制審議會ニ掛リ法制審議會ニ於テ綱領ヲ定メ、其綱領ニ基キマシテ司法當局共案ヲ立テ、其案ガ樞密院ニ渡リマシテ、長イ間樞密院ニ於テ議論ヲサレタ結果、此案ニナラノデアリマスル故ニ、現下ノ狀態ニ於テ吾々ハ此以上ノ案ヲ得ルト云フコトハ、出來ナイコトデアラウト思フノデアリマス(拍手)陪審ヲ望マナイト云フ御議論ナラバ、格別デアリマスケレドモ、是ダケ國民ノ切望シマシテ漸ク出テ來タ案デアリマスカラ、多少不満足ノ點ガアルトシテモ、衆議院ノ全員ノ一致シタル意見トシテ、是ハ可決シタイト私ハ思フノデアリマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 清瀨一郎君

○清瀨一郎君 諸君、裁判制度ニ於テ事實認定ノ權限、

並ニ事實認定ノ責任ヲ陪審員ガ取ルト云フノガ陪審制度

デアリマス、事實認定ノ權限ヲ裁判所ニ留保シ、隨テ又事實認定ノ責任ヲ裁判所ガ取ルト云フコトナラバ、是ハ陪審制度デアナイノデアリマス、本案ノ如クニ——本案ノ如クニ陪審員ヲ呼集メテ評議ヲセシムルガ、併ナガラ事實認定ノ權限ハ之ヲ裁判所ニ留保シ、隨テ事實認定ノ當否ニ關スル責任ヲ裁判所ガ負擔スルト云フコトナラバ、是ハ純然タル陪審制度ニ非ズシテ、彼「ア、セツソール」ト言ハル、所ノ制度デアリマス、民間唱ヘテ居ル所ノ陪審制度ハ實ハ斯ノ如キモノデアハナク、又諸君ガ陪審制度ト云フコトヲ政黨ノ重大ナル綱領トサレタノハ、吾々ハ斯ノ如キモノデアルトハ諒解シテ居ラナシトデアリマス、デスノ如キ案ヲ提出シテ、陪審制度ヲ確立シテ致シタト言ハレルナラバ、所謂羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ラント致シタト言ハレテモ申譯ハアルマイト思ヒマス(拍手)茲ニ野副君ノ御議論ノ憲法ノ解釋ハ、之ヲ後日ニ譲テモ宜カラウ、ソレカラ陪審制度ヲ欲スルナラバ、今日ノ程度ニ於テ出來ル所ノモノハ、此位ナモノデアラカラ、是デ我慢シヤウ、此御議論デアリマス、吾々ハ遺憾ナガラソレトハ全ク違フ思想ヲ持ツテ居リマス、一體一ツノ制度ガ憲法ニ違反スルヤ否ヤト云フコトヲ責任ヲ以テ斷ズル所ハ、此衆議院ニナクテ何處ニ在ル、吾々ガ一國ニ於テ重大ナル法制ヲ審議スルニ當リ、是ハ憲法上疑ガアルカラシテ、其疑ヲ避ケテ出來ルヤウナ案ニシマセウト云フコトハ、是ハ自ラ輕ンズルモノデアアル、議院自ラ議院ヲ輕ンズルモノト謂ハナクテハナラヌ(拍手)若シモ是ガ陪審制度ガ憲法ニ違反スルト云フナラバ——憲法ノ精神ニ反スルト云フナラバ、斷然之ヲ拋棄スルノ外ハナイ、併ナガラ吾々ノ確信ハ決シテ之ヲ憲法ニ反セヌト思フコトハ、板野君ノ論ジタ通りデアリマス、又ドウカシテ陪審制度ヲ欲スルナラバ、不徹底デアルケレドモ之ニ辛抱シヤウト言ヒ、隨テ貴族院其他ノ機關ニ於テ、徹底的ノ陪審制度ハ通過困難デアルト云フコトヲ、此所デ心配スルト云フコトナラバ、是ハ單リ議院ノ權威ニ關スル問題デアハナク、二院制度ノ根本ニ觸レタモノデアアル、吾々ハ他ノ院ニ於テ如何ナル事ヲ將來論ズルヤ否ヤハ、是ハ茲ニ顧ミル所ナク、吾々ノ良心ニ從テ信ズベキ制度ハ茲ニ確立スルノガ、吾々ノ任務デアアルト考ヘルノデアアル陪審制度ニ關シテハ、事實認定、法律判斷、此二ツノ違タルコトヲ諒解スレバ、此憲法ニ反セザルコトハ明瞭デアリマス、況ヤ吾々憲法ノ解釋ハ、斯ノ如クニ技術的ニ小サク解釋スベキモノデアナイ、一體憲法ノ起リハ、此陪審制度ノ如キ制度ヲ認メルコトガ起リテアル、彼ノ大憲章ニ於テモ人民ハ自己ノ同等ノ者ノ——事實認定ニ依ラザル同等ノ者ノ認定ヲ經ザル案件ニ依テ、罰セラル、コトガ無イト云フノガ、此大憲章——此大憲

章ガ今日ノ我が帝國憲法第二章ト相成クタルト云フコトハ事實デアアル、憲法ニ反スルト云フ議論ハ出ル答ハナイ、是ガ即チ憲法ノ本デ、益、此制度ヲ採用シテ、益、我が立憲政治ノ美果ヲ收メタイト云フノガ吾々ノ趣旨デアリマス(拍手)

○副議長(粕谷義三君) 是ニテ討論ハ終結サレマシタ、先ヅ板野友造君御提出ノ修正案ニ付テ採決致シマス、此修正案ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ乞ヒマス

(贊成者 起立)

○副議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、修正案ハ否決サレマシタ、次ニ鶴澤君御提出ノ修正案デアリマスガ、之ニハ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ鶴澤君ノ修正案ハ決セラレマシタ(拍手)其他委員長ノ報告ノ通り御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長ノ報告通り可決致サレマシタ(拍手)是ニテ第二讀會ヲ終リマシタ

○岩崎勳君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、第二讀會議決ノ通り可決確定アラントト望ミマス

(贊成ニ贊成ト呼フ者アリ)

○副議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ三讀會ヲ開キマス

陪審法案

第三讀會

○副議長(粕谷義三君) 別ニ御異議ナシト認メマスカラ、本案ハ第二讀會決議ノ通り可決確定サレマシタ

(拍手起ル)

○副議長(粕谷義三君) 議事進行ニ關シテ高草美代藏君ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、高草美代藏君

○高草美代藏君 私ハ過日本會ニ於キマシテ大湯鐵道及魚沼鐵道ノ買収ニ關スル法案ニ付テ、十箇條ノ御問ヲ出シタノデアリマス、其際政府委員ノ答辯ハ頗ル要領ヲ得ナカッタデアリマス、一二ニ付テ僅ニ應答ガアッタノデアリマシタガ、其他ハ當局大臣カラ御答ヲスルト云フノデアリマシタガ、其後書面ヲ以テ御問ヲ致シテ居ルノデアリマス、所ガ一方ニ於キマシテハ、御承知ノ通り鐵道調査委員ニ付託セラレテ著々進行セラレテ居ル場合デアリマスカラ、ドウカ此際私ガ質問致シマシタ點ニ付テ、成ベク速ニ答辯アラントトヲ議長カラ御取計アラントト望ミマス

○副議長(粕谷義三君) 高草君ノ御申述ノ事ハ政府ニ通告ヲ致シマス

○鈴木錠藏君 便宜上此際日程ノ順序ヲ變更シテ、日程第十四以下ハ請願特別報告ヲ一括議題トシ、請願委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミ、マヌ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ハナイト認メ、仍テ日程ハ變更サレマシク、請願特別報告ハ例ニ依リテ一括議題ト致シマス、請願委員長ノ報告ヲ求メ、マヌ、委員長龍野周一郎君

第十四 (特別報告第百六十一號) 壽都漁港修築ノ請願 (委員長報告)

第十五 (特別報告第百六十二號) 利根川架橋速成ノ請願 (委員長報告)

第十六 (特別報告第百六十三號) 按摩術ヲ盲人ノ專業ト爲スノ請願 (委員長報告)

第十七 (特別報告第百六十四號) 森林法第二十八條改正ノ請願 (委員長報告)

第十八 (特別報告第百六十五號) 部落有林野管理ニ關スル請願 (委員長報告)

第十九 (特別報告第百六十六號) 樺太漁場損害賠償ノ請願 (委員長報告)

第二十 (特別報告第百六十八號) 軍人恩給法改正ニ關スル請願外四十八件 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第百六十九號) 軍人恩給法改正ノ請願外二件 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第百七十號) 屯田兵喇叭卒若ハ其遺族ニ土地給與ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第百七十二號) 互理逢隈郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第百七十三號) 高志村ニ電信事務取扱無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十五 (特別報告第百七十四號) 松茂村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十六 (特別報告第百七十五號) 雲城村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十七 (特別報告第百七十六號) 三好村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第百七十七號) 穴吹郵便局ニ電話事務開始ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第百七十八號) 平井村大字信貴畑小字信貴山ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第百七十九號) 内之浦村大字岸良ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第百八十號) 柏原郵便局ニ電信站集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十二 (特別報告第百八十一號) 小貝村字續谷ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十三 (特別報告第百八十二號) 吉田村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十四 (特別報告第百八十三號) 奥浦村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十五 (特別報告第百八十四號) 千年郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第三十六 (特別報告第百八十五號) 貫町ニ郵便局新設ノ請願 (委員長報告)

第三十七 (特別報告第百八十六號) 美濃波多村大字新田ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第三十八 (特別報告第百八十七號) 神湊郵便局ニ電話架設ノ請願 (委員長報告)

第三十九 (特別報告第百八十八號) 鹿屋鹿兒島間直通電話架設ニ關スル請願 (委員長報告)

第四十 (特別報告第百八十九號) 中村郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十一 (特別報告第百九十號) 川東村ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十二 (特別報告第百九十一號) 川西村下久田ニ無集配郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十三 (特別報告第百九十二號) 中湧別郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十四 (特別報告第百九十三號) 錦生村大字安部田ニ郵便局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十五 (特別報告第百九十四號) 岡郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十六 (特別報告第百九十五號) 濱口郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第四十七 (特別報告第百九十六號) 佐那河内郵便局ニ電信架設ノ請願 (委員長報告)

第四十八 (特別報告第百九十七號) 七取村ニ電話交換局設置ノ請願 (委員長報告)

第四十九 (特別報告第百九十八號) 大野郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (委員長報告)

第五十 (特別報告第九十九號) 鹽津 郵便局ニ電信電話架設ノ請願

第五十一 (特別報告第二百號) 世知原村 (委員長報告) 二登記所設置ノ請願 (委員長報告)

特別報告第六十一號

請願文書表第一〇一八號

壽都漁港修築ノ請願 北海道壽都郡壽都町土谷重右衛門外 百六名呈出(紹介議員中西六三郎君外一名)

右請願ノ要旨ハ北海道壽都郡壽都港海水深ク殊ニ函館小樽 間航路ノ中間ニ於ケル避難場トシテ天然ノ良港ナリ若夫レ之ヲ 修築セムカ該港ハ本道西海岸ノ貨物集散ノ地トナルヲ以テ忽チ 繁盛ヲ極ムルヤ必セリ依テ該港ヲ國費ヲ以テ修築セラレタシト 謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十二號

請願文書表第一〇四四號

利根川架橋速成ノ請願 茨城縣北相馬郡取手町長根本守外 二十八名呈出(紹介議員高野教君)

右請願ノ要旨ハ利根川ニ於ケル取手町青山渡船場ハ往昔ヨリ第 六號國道ニ沿ヒ東京ヲ中心トシテ輿羽ニ通シ國勢上樞要ノ線路 タリ而シテ今ヤ物質文明ノ進歩ニ伴ヒ殖産興業ノ勃興ヲ來シ愈 交通運輸ノ頻繁ヲ極ムルニ至レルヲ以テ利根川ノ架橋ハ國費ヲ 以テ速成セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十三號

請願文書表第一〇二五號

按摩術ヲ盲人ノ專業ト爲スノ請願 東京市神田區市賀町 八番地士族術業千葉勝太郎外四百八十八名呈出(紹介 議員龍野周一郎君外四名)

右請願ノ要旨ハ按摩業ハ盲人保護ノ意味ニ依リ之ニ適業タルノ 故ヲ以テ由來專ラ盲人ノ從事スルトコロタリ然ルニ近時ニ至リ 盲人ニ非サル者ニシテ斯業ヲ營ム者漸ク多クニ及ヒ之カ爲盲人 ハ其ノ業ヲ奪ハレ生活上ノ困難一方ナラサルニ至レリ依テ盲人 ニ對スル獨立ノ生活ヲ保證シ不具廢疾者タル盲人ヲ救済スル趣 旨ニ於テ按摩業ヲ盲人ノ專業トシ常人ニシテ斯職ニ從事スルコ トヲ絕對ニ禁止セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十四號

請願文書表第七三號

森林法第二十八條改正ノ請願 靜岡縣山林會長道岡秀彦呈 出(紹介議員池田猪三三君外一名)

右請願ノ要旨ハ森林法第二十八條(同法二十七條ノ場合ニ於ケ ル補償ニ付テノ適用アリテ他ニ及ハサルハ不權衡ノ憾ナクム ハアラス依テ保安林ハ其ノ立木竹伐採ヲ禁止セラルルト否トヲ 問ハス相當ノ補償ヲ與ヘラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十五號

請願文書表第八七九號

部落有林野管理ニ關スル請願 兵庫縣赤松郡神野村與位三 十一番屋數平民農丸山小太郎外二百二十六名呈出(紹介議 員土井權大君外一名)

右請願ノ要旨ハ兵庫縣赤松郡神野村與位ノ部落有林野ノ立木ニ 對シ既定ノ伐採年限アルモノハ其ノ樹齡ニ達スレハ其ノ伐採ヲ 許可セラレ其ノ立木賣却代金ハ租稅公課山林管理費ニ充當シ尙 餘裕金ハ古來ノ習慣ニ依リ部落ノ公共事業費並部落住民ノ生活 費ニ使用シ又ハ分配スルコトヲ許容セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十六號

請願文書表第一〇五三號

樺太漁場損害賠償ノ請願 北海道函館區大町三番地平民漁 業栖原角兵衛呈出(紹介議員黒住成章君)

右請願ノ要旨ハ栖原家ハ祖先以來身命ト莫大ノ資金ヲ擲ツテ樺 太ニ漁場ヲ開キ我カ帝國ノ漁業ニ貢獻シ來リタリ然ルニ明治八 年樺太ノ版圖變更ノ際祖先以來ノ既得權ハ何等ノ賠償モナク廢 棄セラレタルカ爲請願人ノ受ケタル損害實ニ百萬ニ達セリ今ヤ 該漁場ハ莫大ナル價格ヲ以テ拂下タルニ付是カ回復ノ望ハ渺ニ 斷絶セラレタリ依テ其ノ代償トシテ金額若ハ代物ヲ以テ是ニ對 スル補償アリタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決 セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十八號

請願文書表第七七三號

軍人恩給法改正ニ關スル請願 茨城縣鹿野郡下館町丙九十 七番地坂本福太郎呈出(紹介議員根本正君)

同 第七七四號 同上 東京市淺草區金龍山尾町二十番地士族陸軍騎兵中佐 香宗我部順外四十五名呈出(紹介議員根本正君)

同 第七七五號 同上 吳市上古江百六十五番戶平民海軍特務中尉清水彌三 郎呈出(紹介議員根本正君)

同 第七七六號 同上 岡山縣川上郡平川村一萬千九百十九番地元陸軍歩兵上 等兵保木仲藏呈出(紹介議員根本正君)

同 第七七七號 同上 弘前市大宇銅屋町六十七番地士族退役陸軍歩兵少尉 死田義甫呈出(紹介議員根本正君)

同 第七七八號 同上 東京府豐多摩郡落合村大字下落合五百十三番地平民 陸軍歩兵大佐隈部又雄外十六名呈出(紹介議員松實喜代 大君)

同 第七七九號 同上 三重縣安濃郡新町字古河百七十六番屋數平民退職海 軍機關大佐吉永正直外二十三名呈出(紹介議員宮田光雄 君)

同 第七八〇號 同上 三重縣安濃郡雲林院村三百八十二番地平民陸軍歩兵一 等卒瘞兵近澤庄九郎外一名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第七八一號 同上 三重縣安濃郡明合村大字繁加五百八番地平民故陸軍 歩兵一等卒平松八郎母平松みと外十九名呈出(紹介議員 宮田光雄君)

同 第七八二號 同上 三重縣安濃郡辰野村大字穴食五百五十七番地平民故 陸軍騎兵伍長稻垣九市父稻垣定四郎外七名呈出(紹介議 員宮田光雄君)

同 第七八三號 同上 三重縣安濃郡神戶村大字神戶百五十三番屋數豫備役 陸軍歩兵特務曹長黒川昇平外五名呈出(紹介議員宮田光 雄君)

同 第七八四號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七八五號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七八六號 同上 三重縣安濃郡明合村大字繁加五百八番地平民故陸軍 歩兵一等卒平松八郎母平松みと外十九名呈出(紹介議員 宮田光雄君)

同 第七八七號 同上 三重縣安濃郡辰野村大字穴食五百五十七番地平民故 陸軍騎兵伍長稻垣九市父稻垣定四郎外七名呈出(紹介議 員宮田光雄君)

同 第七八八號 同上 三重縣安濃郡神戶村大字神戶百五十三番屋數豫備役 陸軍歩兵特務曹長黒川昇平外五名呈出(紹介議員宮田光 雄君)

同 第七八九號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九〇號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九一號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九二號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九三號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九四號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九五號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九六號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第七九七號 同上 三重縣安濃郡草生村大字草生千九百九十番地平民後 備役陸軍歩兵重曹長野嘉三外十名呈出(紹介議員宮田 光雄君)

同 第八〇〇號

同上 三重縣安濃郡高宮村大字三柳四百二十二番地平民元陸軍步兵軍曹谷口政太郎外六名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第八〇一號

同上 三重縣安濃郡片田村大字井戸二百六十七番地平民元海軍一等兵曹前川半次郎外四名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第八〇二號

同上 三重縣安濃郡藤水村大字垂水八百七十九番地士族後備役陸軍步兵特務曹長河邊吳三郎外七名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第八〇三號

同上 三重縣安濃郡河内村九十一番地ノ一平民元海軍一等兵曹落合信五郎外六名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第八〇四號

同上 三重縣安濃郡安東村大字觀音寺五百七十番地平民退役陸軍步兵中尉鈴木與三郎外十一名呈出(紹介議員宮田光雄君)

同 第八〇五號

同上 三重縣多氣郡五ヶ谷村大字朝柄三千八百八十五番地平民農高山傳七外十一名呈出(紹介議員秋田悦造君)

同 第八〇六號

同上 大阪府豐能郡豊島村大字宮ノ前二十六番屋敷士族陸軍歩少佐前田利員外十四名呈出(紹介議員中馬興丸君)

同 第八〇七號

同上 佐賀縣佐賀郡春日村大字尼寺二千七百八十四番地陸軍歩兵中佐山田佐六外二百二十四名呈出(紹介議員金光唐夫君)

同 第八〇八號

同上 鳥根縣能義郡安來町大字安來千七百四番地平民元陸軍歩兵一等卒渡部唯太郎外四十五名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八〇九號

同上 岐阜市本町四丁目十二番地士族陸軍歩兵大佐宮本雅之助外五十二名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一〇號

同上 香川縣香川郡直島村二千二百六十一番地元陸軍歩兵軍曹關本數之助外十名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一一號

同上 福岡縣嘉穂郡飯塚町大字菟田四百二十番地士族陸軍歩兵大尉山口清外三十一名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一二號

同上 靜岡市西草深町百五十八番地士族無職陸軍中將竹内正策外七十一名呈出(紹介議員高木正年君)

同上 神戸市葺合町字三十八號四八二平民陸軍砲兵少佐古谷四郎外三十二名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一三號

同上 宮城縣宮城郡鹽釜町字町二百八番地ノ二平民陸軍憲兵曹長鈴木榮之進外二十四名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一四號

同上 鳥根縣能義郡安田村大字安田三十八番地平民農陸軍歩兵二等卒吉木伊三郎外八名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一五號

同上 福岡縣三井郡御井町四百六十九番地後備役陸軍歩兵中佐員塚豐藏外一名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一六號

同上 鳥根縣大原郡阿用村大字上久野九百二十二番地平民陸軍步兵軍曹菅田倉太郎外五名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一七號

同上 岐阜縣土岐郡多治見町二千三百番地平民元陸軍輜重兵一等階級工長竹澤仁太郎外二十七名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八一八號

同上 靜岡縣駿東郡楊原村下香貫二百九十六番地ノ二平民無職後備役陸軍歩兵大佐田上他二郎外十五名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八一九號

同上 鳥根縣能義郡母里村大字東母里四百九十番地農鶴田イソ外十名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二〇號

同上 鳥取縣東伯郡倉吉町大字瀬崎町四十七番地士族陸軍憲兵大尉吉村正敏呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二一號

同上 長崎縣高來郡島原村八百番戶平民後備陸軍砲兵中尉富田藤若外十九名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二二號

同上 水戸市大字上市田見小路六百六十六番地士族無職陸軍少將富岡三造外二十八名呈出(紹介議員小山田信藏君)

同 第八二三號

同上 熊本縣玉名郡高瀬町平民陸軍三等軍醫正土井正雄外二百六十三名呈出(紹介議員門田新松君)

同 第八二四號

同上 福井縣遠敷郡雲濱村西津第十四號六番地士族退役陸軍砲兵少佐佐藤良爾外二十三名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二五號

同上 愛媛縣愛知郡天白村大字平針六十五番戶平民陸軍三等主計三輪徳次郎外十三名呈出(紹介議員根本正君)

大尉徳岡貞藏外十一名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二六號

同上 明石市大明石村千四百五十五番地ノ一平民陸軍憲兵大尉大島閣二外十四名呈出(紹介議員根本正君)

同 第八二七號

同上 茨城縣新治郡榮村大字古來四十一番屋敷平民沼尻みつ外八名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八二八號

同上 青森縣南津輕郡黒石町大字甲大工町二十一番地農陸軍歩兵少尉木村吉彌外六名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八二九號

同上 新潟縣岩船郡村上本町百十五番地平民退役陸軍二等軍醫正細野見勇外九名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八三〇號

同上 埼玉縣北足立郡浦和町二千七百番地陸軍砲兵大佐二味篤之助外十五名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八三一號

同上 和歌山縣日高郡上山路村大字西八十番地平民元陸軍歩兵軍曹寒川茂市外六名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八三二號

同上 大分縣速見郡梓葉町大字梓葉二百六十一番地平民陸軍歩兵大佐松村安雄外二十六名呈出(紹介議員高木正年君)

同 第八三三號

右諸願ノ要旨ハ軍人恩給法ハ義ニ改正増額セラレタリト雖正増額セラレタリト雖大戰後ノ諸物價ノ騰貴ハ依然トシテ繼續シ生活ノ安定ヲ曾感シツツ在リ依テ軍人恩給法ヲ改正増額セラレタリト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十九號

意見書

請願文書表第九三一號
軍人恩給法改正ノ請願 東京市牛込區矢來町十一番地豫備役陸軍砲兵大佐朝川瀬平外三十三名呈出(紹介議員石川玄三君)

同 第九三二號

同上 東京市牛込區市谷富久町百十三番地元陸軍歩兵曹長神林治治外三十二名呈出(紹介議員石川玄三君)

同 第九三三號

同上 東京市牛込區通寺町八番地元陸軍工兵上等兵吉原熊三郎外三十名呈出(紹介議員石川玄三君)

同 第九三四號

右諸願ノ要旨ハ現行軍人恩給法ハ義ニ改正増額セラレタリト雖是等軍人ノ生計ハ今尙安定ヲ保持シ難シ加之戰傷ノ公傷者遺族扶助料ノ算定ノ基礎ハ文官恩給法ニ比シ不備ノ點多ク在リ依テ軍人恩給法ヲ根本的ニ改正セラレタリト謂フニ在リ衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十號

意見書

請願文書表第一〇一七號
屯田兵喇叭卒若ハ其ノ遺族ニ土地給與ノ請願 北海道札幌
郡江別町大字篠津村十五番地土族農安部孝吉外十四名呈
出(紹介議員岡田伊太郎君外一名)

右請願ノ要旨ハ永年北海道警備ノ重任ニ服シ來レル屯田兵喇叭
卒ニシテ土地給與ノ恩賜ニ漏レル者若ハ其ノ遺族ニ對シ普通
屯田兵及琴似山鼻兩屯田兵喇叭卒若ハ其ノ遺族ノ如ク明治二十
三年九月法律第七十八號屯田兵土地給與規則ニ基キ相當土地ヲ
給與セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十二號

意見書

請願文書表第五九四號
互理送限郵便局ニ集配事務開始ノ請願 宮城縣互理郡送限
村十文字二百六番地農伊藤龍之進外五百五十七名呈出
(紹介議員野副重一君)

右請願ノ要旨ハ宮城縣互理郡送限村ハ廣袤東西一里二十町餘南
北二里餘人口六千五百餘ノ大村ナリ然ルニ通信機關ハ西南部ハ
互理郵便局ヨリ東北部ハ荒濱郵便局ヨリ又北端ノ一小部分ハ岩
沼郵便局ヨリ集配ヲ受ケ通信上ノ支障尠カラズ依テ互理送限
郵便局ニ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十三號

意見書

請願文書表第六五二號
高志村ニ電信事務取扱無集配郵便局設置ノ請願 德島縣名
西郡高志村長井内啓三呈出(紹介議員原田佐之治君外二
名)

右請願ノ要旨ハ德島縣名西郡高志村ハ吉野川ニ沿ヒタル大村ナ
ルニ郵便局ハ吉野川ヲ隔テタル一里餘ノ郵便局ヨリ集配
セラレ郵便電信事務ノ敏捷ヲ缺クコト甚シ殊ニ夏期出水時冬期
烈風ノ時ニ至レハ忽チ渡船ノ交通杜絶シ郵便電報ノ集配ヲ缺ク
コト多ク甚シキハ數日ヲ遲延スルコトアルヲ以テ高志村ニ電信
事務ヲ取扱フ無集配郵便局ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

特別報告第七十四號

意見書

請願文書表第六五三號
松茂村ニ無集配郵便局設置ノ請願 徳島縣板野郡松茂村
長代理助役淺野虎太郎呈出(紹介議員岡田次君外一名)

右請願ノ要旨ハ徳島縣板野郡松茂村ハ面積一万里ニ過キサルモ
人口五千七百有餘アリ米麥ノ産額頗多ニシテ就中醸造機械等ノ諸
工業亦逐年發達シツツアリ然ルニ通信機關ハ隣村一里餘ヲ隔ツ
ル郵便局ニ往復セサルヘカラルル狀況ニ在リテ村民ノ不便不利
甚シ依テ該村ニ無集配郵便局ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

特別報告第七十五號

意見書

請願文書表第六五七號
雲城村ニ郵便局設置ノ請願 鳥根縣那賀郡雲城村長山東吉
三郎呈出(紹介議員島田俊雄君)

右請願ノ要旨ハ鳥根縣那賀郡雲城村ハ同縣濱田町ヨリ廣島縣加
計町ニ至ル縣道ニ沿ヒ人口二千五百餘アリ主トシテ米穀・薪炭
木材瓦等ヲ産出シ近接町村トノ物貨集散上樞要ノ地ナリ然ル
ニ所管全福郵便局ハ二里餘ヲ距ツルヲ以テ往往郵便物ノ遲著ス
ルコトアリテ通信上ノ不便實ニ甚大ナリ依テ該村ニ郵便局ヲ設
置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十六號

意見書

請願文書表第七四九號
三好村ニ郵便局設置ノ請願 青森縣北津輕郡三好村大字鶴
ヶ岡宇藤田二百三十八番地青森縣會議員長尾角左衛門外
二十九名呈出(紹介議員阿部武智雄君外五名)

右請願ノ要旨ハ青森縣北津輕郡三好村ハ五所川原郵便局ノ管轄
ニ屬スト雖同郵便局ノ管轄區域ハ廣汎ナル爲事務ノ圓滑ヲ缺キ
請願人等ノ不便至大ナリ加之近時村內經濟上ノ發達ハ郵便局ノ
増加ヲ求メタルヲ以テ前記三好村ニ郵便局ヲ速ニ設置セラレタ
シト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十七號

意見書

請願文書表第七六一號
穴吹郵便局ニ電話事務開始ノ請願 徳島縣美馬郡穴吹村長
岩尾久吉呈出(紹介議員原田佐之治君外一名)

右請願ノ要旨ハ徳島縣美馬郡穴吹村ハ縣道ニ沿ヒ各都市ニ通ス
ル樞要ノ地ニ在リテ交通頻繁ナルノミナラス商業殊ニ殷盛ナリ
然ルニ穴吹郵便局ニハ電話ノ架設ナキ爲通信上ノ不便實ニ甚大
ナリ依テ該局ニ電話事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十八號

意見書

請願文書表第七六三號
平群村大字信貴畑小字信貴山ニ無集配郵便局設置ノ請願
奈良縣生駒郡平群村信貴畑小字信貴山平民僧侶野澤密昇
外五十三名呈出(紹介議員磯田桑三郎君)

右請願ノ要旨ハ奈良縣生駒郡平群村大字信貴畑小字信貴山ハ本
倉毘沙門天王ノ所在地ニシテ參詣者遊覽團體等四季ヲ通シテ實
ニ夥シク幽邃閑雅風景絶佳ナリ加フルニ各種ノ事業家續出シ當
山ヲ中心トシテ四圍ノ發展著シク從テ郵便物逐年激増シツツア
リ然ルニ所管郵便局ハ四十餘町ヲ隔ツル王寺驛ニ在リテ其ノ不
便實ニ名狀スヘカラス依テ該村中信貴山ニ無集配郵便局ヲ設置
セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第七十九號

意見書

請願文書表第七七八號
内之浦村大字岸良ニ無集配郵便局設置ノ請願 鹿兒島縣肝
屬郡内之浦村長松下嘉納次呈出(紹介議員津崎尙武君)

右請願ノ要旨ハ鹿兒島縣肝屬郡内之浦村大字岸良ハ人口二千五
百餘アリ土地豐饒ニシテ林産物ニ富ミ加フルニ開墾適地トシテ
他府縣ヨリ移住スル者夥シク從テ逐年産業發達ノ傾向ヲ示セリ
然ルニ該村ハ内之浦郵便局ノ管轄ニ屬スルヲ以テ其ノ間ニ於ケ
ル山岳難道等ノ爲郵便物ノ遲著ヲ來シ其ノ不便名狀スヘカラス
依テ前記内之浦村岸良ニ無集配郵便局ヲ設置セラレタシト謂フ
ニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第八十號

意見書

請願文書表第七七九號
柏原郵便局ニ電信並集配事務開始ノ請願 鹿兒島縣肝屬郡
東申良村長上羽坪藤太郎呈出(紹介議員津崎尙武君)

右請願ノ要旨ハ鹿兒島縣肝屬郡東申良村ハ農 海産物ニ富
ミ將來有望ノ村落ナリト雖郵便物ハ縣下屈指ノ急流肝屬川ヲ隔
ツル波見郵便局ヨリ配達セラルルヲ以テ村民ノ不便甚シキモノ
アリ依テ東申良村及關係村落ヨリ千三百圓ノ寄附ヲ爲スヘキニ
付柏原郵便局ニ集配並電信事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決
セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第八十一號

意見書

請願文書表第七八四號

小貝村字續谷ニ郵便局設置ノ請願 栃木縣芳賀郡小貝村大字續谷ニ郵便局設置ノ請願 栃木縣芳賀郡小貝村大字續谷ニ郵便局設置ノ請願 栃木縣芳賀郡小貝村大字續谷ニ郵便局設置ノ請願

右請願ノ要旨ハ鹿兒島縣鹿兒島郡吉田村ハ五里以上ヲ距ツル重富郵便局ノ管轄ニ屬シ通信上ノ不便甚大ナリ依テ吉田村ニ郵便局ヲ設置セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十二號

意見書

吉田村ニ郵便局設置ノ請願 鹿兒島縣鹿兒島郡吉田村本名原平民郡會議員枝元四郎次外十六名呈出(紹介議員岩切重雄君)

右請願ノ要旨ハ鹿兒島縣鹿兒島郡吉田村ハ五里以上ヲ距ツル重富郵便局ノ管轄ニ屬シ通信上ノ不便甚大ナリ依テ吉田村ニ郵便局ヲ設置セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十三號

意見書

請願文書表第七九一號

奧浦村ニ郵便局設置ノ請願 長崎縣南松浦郡奧浦村長山本精一郎呈出(紹介議員收山耕藏君)

右請願ノ要旨ハ長崎縣南松浦郡奧浦村ハ福江郵便局ノ管轄ニ屬スルヲ以テ通信上ノ不便甚大ナリ加之爲替貯金其ノ他郵便事務ノ如キハ海産物ノ生産能率ノ増進ニ伴ヒ愈々繁ク加フルニ至ルヘシ依テ該村ニ速ニ郵便局ヲ設置セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十四號

意見書

請願文書表第八四五號

千年郵便局ニ集配事務開始ノ請願 廣島縣沼隈郡千年村長岡崎快造呈出(紹介議員井上角五郎君)

右請願ノ要旨ハ廣島縣沼隈郡千年村ハ山内郵便局ノ集配ニ屬シ通信上ノ不便甚大ナリ依テ千年郵便局ニ集配事務ヲ取扱フ開始セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十五號

意見書

請願文書表第八四六號

其町ニ郵便局新設ノ請願 青森市大字新町四番地平民教員淺井澤外二十名呈出(紹介議員阿部武智雄君外五名)

右請願ノ要旨ハ青森市大字其町十番地四號ハ市ノ東部中央ニ位シ近來若シキ發達ヲ遂ケタリ然ルニ獨郵便事務ハ濱町郵便局ノ管轄ニ屬シ不便抄カラス依テ速ニ前記其町ニ郵便局ヲ新設セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十六號

意見書

請願文書表第八五二號

美濃波多村大字新田ニ郵便局設置ノ請願 三重縣名賀郡美濃波多村大字新田千七百七十二番地平民龜澤澤增外三名呈出(紹介議員大道幸成男君)

右請願ノ要旨ハ三重縣名賀郡美濃波多村ハ近來非常ナル發達ヲ遂ケタルニ拘ラス獨郵便局事務ハ約二里ヲ距ツル名張郵便局ノ管轄ニ屬シ不便抄カラス之地方民ノ誠ニ遺憾トスルコトコナリ依テ前記美濃波多村大字新田ニ郵便局ヲ設置セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十七號

意見書

請願文書表第八八〇號

神湊郵便局ニ電話架設ノ請願 福岡縣宗像郡神湊町長江口藤太呈出(紹介議員中村清造君)

右請願ノ要旨ハ福岡縣宗像郡神湊郵便局ハ本郡沿海五箇町村ノ中央ニ位ス而シテ該地方ハ漁業發盛ニシテ其ノ年産額實ニ數十萬圓ニ達シ其ノ販路ハ遠ク筑豊ノ炭坑地方ニ及ヘリ加フルニ近來該地方一帶ハ養蠶業著シク發達シ南市場ノ開設ヲ見ルニ至リタルニ拘ラス通信機關不備ノ爲取引上ニ於テ地方民ノ不便不利甚大ナリ依テ神湊郵便局ニ電話ヲ架設セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十八號

意見書

請願文書表第八八七號

鹿屋、鹿兒島間直通電話架設ニ關スル請願 鹿兒島縣肝屬鹿屋、鹿兒島間直通電話架設ニ關スル請願 鹿兒島縣肝屬鹿屋、鹿兒島間直通電話架設ニ關スル請願

右請願ノ要旨ハ鹿兒島縣南隅地方ハ鹿兒島市ト通信上密接ナル關係ヲ有スルニ拘ラス適當ナル通信機關ナキ爲地方民ノ受クル不便甚大ナリ依テ鹿兒島西樓間海底電線及本年度出願ニ係ル垂直電線ヲ利用シ西樓島垂直間直通電話ヲ架設シ若ハ鹿屋鹿兒島間直通電話ヲ架設セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百八十九號 意見書 請願文書表第九三九號 中村郵便局ニ集配事務開始ノ請願 千華縣君津郡中村村長齋藤元吉外十九名呈出(紹介議員關和知君外一名)

右請願ノ要旨ハ千華縣君津郡中村郵便局ハ集配事務ヲ取扱ハサル爲通信ノ遲延ヲ來シ不便抄カラス依テ前記中村郵便局ニ集配事務ヲ開始セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百九十號

意見書

請願文書表第九四〇號

川東村ニ郵便局設置ノ請願 德島縣海部郡川東村長影石作次呈出(紹介議員原田佐之治君外一名)

右請願ノ要旨ハ德島縣海部郡川東村ハ隣村淺川、駒、川、西川上ノ各村ノ中央ニ位シ近來製材事業著シク發達セリ然ルニ郵便物ハ一里餘ノ坂路ヲ隔ツル淺川郵便局ノ管轄ニ屬シ電信ハ海部川ヲ挾ミテ稍突局ヨリ配達セラルルヲ以テ一朝洪水ノ際ハ通信全ク杜絶シ其ノ不便不利實ニ甚大ナリ依テ前記川東村ニ郵便局ヲ設置セラレトシト謂フニ在リ

特別報告第百九十一號

意見書

請願文書表第九八五號

川西村下久田ニ集配郵便局設置ノ請願 茨城縣眞壁郡川西村長柴長左衛門呈出(紹介議員鈴木鏡藏君)

右請願ノ要旨ハ茨城縣眞壁郡川西村ハ梨樹栽培ノ盛ナルコト縣下第一ナルノミナラス電力ニ依テ各種産業ノ開發ヲ計畫スル等極メテ富裕ナル村落ナルニ拘ラス四隣郵便局ト遠ク距リ村民ノ不便抄カラス依テ一面ニハ其ノ不便ヲ除去シ一面ニハ下層民及學齡兒童ノ貯蓄心ヲ涵養セムカ爲關係村落ヲ管轄區域トスル無

特別報告第百九十二號

意見書

請願文書表第一〇一三號

中湧郵便局ニ集配事務開始ノ請願 北海道紋別郡上湧別村字中湧別市街平民高佐々木知治外三十四名呈出(紹介議員木下成太郎君外一名)

信郵便物ハ悉ク上湯別驛ニ逆送セラレルカ如キ状態ニ在リテ不便抄カラス依テ前記中湯別郵便局ニ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十三號

意見書

請願文書表第一〇一九號

錦生村大字安部田ニ郵便局設置ノ請願 三重縣名賀郡錦生村長吉元正直外三十九名呈出(紹介議員大連寺慶男君)

右請願ノ要旨ハ三重縣那賀郡錦生村ハ名張三本松兩郵便局ノ中間ニ在リト雖其ノ距離遠クシテ不便抄カラス又瀧川郵便局ニ隣接スルモ其ノ間ニ黒田瀧川ノ兩川ヲ挟ム爲洪水等ノ際ニモ亦甚ク不便ヲ感セリ依テ前記錦生村大字安部田ニ無集配郵便局ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ主旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十四號

意見書

請願文書表第一〇二〇號

岡郵便局ニ集配事務開始ノ請願 奈良縣高市郡高市村長河合造外一名呈出(紹介議員八木遠郎君)

右請願ノ要旨ハ奈良縣高市郡高市飛鳥ノ兩村ニ於ケル商工業發達ニ伴フ通信上ノ圓滑ヲ圖ル爲明治四十年岡郵便局ヲ設置シ同四十四年電信並電話事務取扱ヲ開始セラレタリト雖無集配局ナルカ故ニ地方民ノ不便不利抄カラス依テ前記岡郵便局ニ於テ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十五號

意見書

請願文書表第一〇四三號

濱口郵便局ニ集配事務開始ノ請願 秋田縣山本郡濱口村長清水新五郎外二十名呈出(紹介議員三浦權兵衛君)

右請願ノ要旨ハ大正八年秋田縣山本郡濱口郵便局ニ電信事務ヲ開始セラレタリト雖尚集配事務ヲ取扱ハサル爲村民ノ不便抄カラス依テ隣接鶴川局ヨリ二名ノ集配人ヲ派遣シ以テ濱口郵便局ニ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十六號

意見書

請願文書表第一〇六〇號

佐那河内郵便局ニ電信架設ノ請願 德島縣名東郡佐那河内村長東條兵二呈出(紹介議員原田佐之治君外二名)

右請願ノ要旨ハ德島縣名東郡佐那河内村ハ四通八達物貨集積ノ要地ニシテ人口數共ニ逐年増加シ産業ノ發展亦著シク且佐那河内水力電氣株式會社等ノ設立ヲ見電信事務ハ逐日増加スルニ拘ラス二里乃至四里餘ヲ距ル國府、廣瀨、廣野及神領等ノ郵便局ヨリ配達セラレ不便甚シ依テ佐那河内郵便局ニ電信ヲ架設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十七號

意見書

請願文書表第一〇六二號

七取村ニ電話交換局設置ノ請願 三重縣桑名郡七取村大字香取十六番屋敷伊藤榮一外三十三名呈出(紹介議員加藤久米四郎君)

右請願ノ要旨ハ三重縣桑名郡七取村ハ古來西濃方面ヨリ三重縣ニ通スル要路ニシテ近來異常ノ發達ヲ遂ケタリ而シテ電話ハ既ニ開通セリト雖之ヲ交換ナキ爲不便抄カラス依テ速ニ電話交換局ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十八號

意見書

請願文書表第一〇八三號

大野郵便局ニ集配事務開始ノ請願 滋賀縣甲賀郡大野村長長政次郎呈出(紹介議員中村喜平君外一名)

右請願ノ要旨ハ滋賀縣甲賀郡大野村ハ東海道ノ要衝ニ在リテ水口、土山兩町ノ中間ニ位シ近來産業ノ發達實ニ著シキモノアリ然ルニ所管郵便局ハ水口郵便局ニシテ僅ニ一日一回乃至二回ノ集配ヲ受クルニ止マリ其ノ不便不利抄カラス依テ該大野郵便局ニ集配事務ヲ開始セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百九十九號

意見書

請願文書表第一〇八四號

鹽津郵便局ニ電信、電話架設ノ請願 滋賀縣伊香郡鹽津村長平塚孝三君外十二名呈出(紹介議員中村喜平君外一名)

右請願ノ要旨ハ滋賀縣伊香郡鹽津村ハ北陸ニ通スル要衝ニシテ地方ヨリ産出セル木材、米穀等物貨集積ノ地タリ然ルニ電信並電話ハ遠ク二里餘ヲ行クニ非スムハ便シ得ザルノミナラス殊ニ冬期ハ積雪ノ爲交通杜絶ノ状態トナリ徒ニ商機ヲ逸シ不便極マリナシ依テ鹽津郵便局ニ電信、電話ヲ架設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第百二十號

意見書

請願文書表第七五二號

世知原村ニ登記所設置ノ請願 長崎縣北松浦郡世知原村長片山要呈出(紹介議員中倉方次郎君)

右請願ノ要旨ハ長崎縣北松浦郡世知原村ハ諸種ノ事情ニ因リ登記所設置ノ必要ナルコトハ世上及之ヲ認メ衆議院ニ於テモ數度之ヲ採擇セラレタリ然ルニ未タ之カ實行ヲ見ザルハ關係地方民ノ遺憾トスルトコロナリ依テ速ニ前記世知原村ニ登記所ヲ設置セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

龍野周一郎君登壇

○龍野周一郎君 此機會ニ經過ノ概略ヲ一言御報告ヲ致シテ置キマス、昨十一日迄ノ請願受理ノ件數ハ、累計一千六百七十四件デアリマス、其中既ニ審査ヲ終了致シタルモノガ一千二百三十二件、其内譯ヲ申上ゲマスルト、採擇ヲ致シタルモノガ千四百四十二件、政府參考送付ト決定シマシタモノガ百十八件、不採擇ト決定致シタルモノガ十件、審査未了ノモノガ四百四十二件デアリマス、願クモ今日迄モ御精勵下リイヒマシタガ、今後請願委員諸君ニ一層ノ御精勵ヲ委員長ヨリ希望シテ置キマス、只今一括日程ニ上セラレマシタル此請願ノ諸案件ハ、一々紹介議員諸君ノ熱誠ナル御説明ヲ承リ、政府委員ノ説明、並ニ必要アル場合ニ於テハ、政府ノ意見ヲ徵シマシテ、委員會ニ於テハ、最モ鄭重深切ニ審査ヲ遂ゲマシテ、此案件ハ全部大多數ヲ以テ採擇スベシト決定致シタモノデアリマス、其理由ノ詳細ハ一々説明ヲ致サス速記録ニ譲リマス、本會ニ於テモ滿場一致御採擇ヲ願ヒマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告ノ通り採擇スルニ決シマス

○鈴木錠藏君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、明日モ本會議ヲ開キマス、日程ハ追テ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後七時二十四分散會

衆議院議事速記第二十七號中正誤

頁 段 行 誤 正

六四四 下 四一 八年五月二、只今、九年未ニ支出シタ